

令和3年度 松本市小中学校 環境教育支援事業 報告書



松本市

松本市小中学校環境教育支援事業について

1 本事業について

学校における環境教育の推進を図るため、環境分野の専門性を持つ地域の企業・団体等が外部講師となる「環境学習プログラム」を小中学校へ紹介しています。

平成22年度から、民間（環境教育講師団体、中信地区環境教育ネットワーク）、松本市教育委員会、松本市の3者による協働事業として実施しています。

2 経過

令和3年4月13日 松本市小中学校教頭会で周知
小中学校へプログラム一覧配布と申込書募集開始

令和3年5月31日 申込書提出締切
随時プログラム実施

3 実施状況（令和4年3月現在）

実施校 15校（小学校15校）
実施人数 2,544人
実施事業 43事業（20種類）
実施団体 14団体

4 報告書目次

松本市小中学校環境教育支援事業 報告書	1 ~ 97 頁
令和3年度学習プログラム一覧	98 ~ 122 頁
信州の環境学習サポートサイト 紹介	123 頁
【附録】松本市環境・地域エネルギー課からのお知らせ	124 ~ 125 頁

【表紙写真】

左：開明小学校

「生き物観察から不思議や疑問を見
つけよう！」

中央：安曇小学校

「水殿ダムラフトピクニック」

右：鎌田小学校

「手作りする過器で飲み水作り（水の
循環と森の役割を学ぶ）」

令和3年度 松本市小中学校環境教育支援事業 報告書一覧

	学校名	講座番号、講座名	講師	学年 (人数)	実施日	頁数
1	安曇小	17 水はどこから？ 【地球を巡る水～水の汚れと海洋プラスチック～】	(株)環境技術センター	5学年 (6)	6/29	1
2	安曇小	32 水殿ダムラフトピクニック 【水殿ダムラフティング】	合同会社リトルピークス	5.6学年 (8)	7/20	2
3	源池小	3 山へ行こう！歩いて。感じて。学ぶ自然環境。	認定NPO法人信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ	5年1組 (35)	6/4 6/11	3
4	梓川小	8 梓川大好き！大河の一滴プロジェクトスライドショー	合同会社リトルピークス	6学年5クラス (157)	7/13	4
5	梓川小	30 地元の川大好き！リバーアドベンチャー	合同会社リトルピークス	6学年5クラス (161)	9/22、9/24	5～10
6	二子小	9 ぬかくどご飯炊き体験	NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団	3年生2クラス (41)	11/1	11
7	二子小	12 木材の活用方法 【木材を活用した木工工作】	寿さと山くらぶ	特別支援学級 (24)	11/8	12
8	梓川小	8 梓川大好き！大河の一滴プロジェクトスライドショー	合同会社リトルピークス	4学年 (141)	7/13	13
9	梓川小	30 地元の川大好き！リバーアドベンチャー	合同会社リトルピークス	4学年 (140)	11/10	14～19
10	菅野小	42 自然体感プログラム	NPO法人わおん	3年3組 (30)	6/25	20
11	四賀小	10 木の授業とバウムクーヘン作り	寿さと山くらぶ	3学年 (20)	11/17	22
12	四賀小	7 生き物から学ぶ環境教育	松本ホテル学(まなぶ)会	4学年 (23)	6/15	23
13	梓川小	12 木材の活用法	寿さと山くらぶ	5学年4クラス (135)	6/18	24
14	梓川小	14 竹筒と蜜ろうを使ったキャンドル作り	松本市地球温暖化防止市民ネットワーク(エコネットまつもと)	6学年5クラス (163)	12/1～12/3	25～29
15	明善小	10 木の授業とバウムクーヘン作り	寿さと山くらぶ	特別支援学級 (40)	11/2	30
16	明善小	11 炭用石窯でピザ焼体験	NPO法人石窯スマイル研究会	特別支援学級 (6)	10/27	31
17	安曇小	22 小水力発電機等による自然エネルギー体験	松本市地球温暖化防止市民ネットワーク(エコネットまつもと)	6学年 (2)	7/9	32
18	今井小	26 身近な自然観察【自然観察会】	自然観察の会 ひこばえ	1年1組 (24)	10/4	33
19	安曇小	42 自然体感プログラム	NPO法人わおん	1・2学年 (6)	11/11	34
20	菅野小	10 木の授業とバウムクーヘン作り	寿さと山くらぶ	特別支援学級 (33)	10/21	35
21	大野川小	31 梓川&奈良井川&犀川ラフティング	合同会社リトルピークス	3・4学年 (6)	9/29	36
22	大野川小	33 地元の山が100倍好きになる登山学【のりくらさんぽ】	合同会社リトルピークス	1・2学年 (8)	10/29	37

令和3年度 松本市小中学校環境教育支援事業 報告書一覧

	学校名	講座番号、講座名	講師	学年 (人数)	実施日	頁数
23	中山小	10 木の授業とバウムクーヘン作り	寿さと山くらぶ	特別支援学級 (4)	11/11	38
24	波田小	15 自然素材で簡単工作 【のこぎりを使って小物作りをしよう】	NPO法人わおん	4学年4クラス (142)	11/17 11/18	39～42
25	波田小	30 地元の川大好き！！リバーアドベンチャー 【上高地源流見学】	合同会社リトルピークス	3年生4クラス (129)	10/28	43～47
26	波田小	8 梓川大好き！大河の一滴スライドショー	合同会社リトルピークス	3年生4クラス (130)	10/22	48～51
27	波田小	40 体験して学ぶ「自然や環境」について【自然 の中で遊んで学ぼう！】	体験創庫かけはし	特別支援学級 (17)	10/8	52
28	波田小	17 水はどこから？	(株)環境技術センター	4学年4クラス (142)	7/2、7/14、 7/15	53～56
29	安曇小	30 地元の川大好き！リバーアドベンチャー	合同会社リトルピークス	3・4学年 (5)	7/16	57
30	鎌田小	24 手作りろ過器で飲み水作り(水の循環と森 の役割を学ぶ) 【飲める水を作ろう】	すえなみプッシュクラフト スクール長野	4学年 (147)	11/18、25	58～64
31	梓川小	10 木の授業とバウムクーヘン作り	寿さと山くらぶ	5学年 (136)	10/6、10/7	65
32	梓川小	12 木材の活用法【やぎ小屋を作ろう】	寿さと山くらぶ	3年2組 (37)	7/20、9/17、 9/28、10/12、 10/19	66～70
33	寿小	12 木材の活用法【木の授業】	寿さと山くらぶ	5学年 (126)	12/7	71
34	寿小	12 木材の活用法【木の授業】	寿さと山くらぶ	5学年 (126)	1/14、1/17	72～74
35	安曇小	42 自然体験プログラム【上高地探検～陸編 ～】	NPO法人わおん	1.2学年 (7)	7/14	75
36	安曇小	24 水辺の生き物観察会【上高地探検～川編 ～】	川の自然と文化研究所	1.2学年 (6)	10/4	76
37	安曇小	24 水辺の生き物観察会【上高地探検 まとめ の会】	川の自然と文化研究所	1.2学年 (6)	10/25	77
38	中山小	24 水辺の生き物観察会【山本先生に池と魚に ついて教えてもらおう】	川の自然と文化研究所	3年1組 (12)	11/5	78
39	田川小	29 生き物観察から不思議や疑問を見つけよ う！【川の生き物さがし】	松本ホテル学会	2学年 (37)	6/23	79～80
40	田川小	24 水辺の生き物観察会【田川の生き物さが し】	川の自然と文化研究所	3学年 (46)	6/23	81～82
41	田川小	24 水辺の生き物観察会【田川の活動：外来種 について】	川の自然と文化研究所	5年2組 (22)	7/9	83
42	開明小	29 生き物観察から不思議や疑問を見つけよ う！【自然の森復興プロジェクト】	松本ホテル学会	6年3組 (29)	9/16、9/28、 10/15	84～88
43	開明小	10 木の授業とバウムクーヘン作り【自然の森 復興プロジェクト】	寿さと山くらぶ	6年3組 (29)	11/4、11/24、 11/29、12/23	89～97
計	15校 (小学校15 校)	20種類	14団体	2,544人 (小学校2,544人)		

授 業 名	水はどこから？ 地球を巡る水 ～水の汚れと海洋プラスチック～		
学校名、学年、学級	松本市立安曇小学校 5 学年	参加人数	6 人
担当者	横山 享司	記入者	横山 享司
実施日（期間）	令和3年6月29日（火）		
講師名	(株)環境技術センター 宮澤 恵美さん 塩原 純さん		
実施概要	梓川で採集した水と汚水処理場で採集した水のパックテストを行い比較するマイクロプラスチックが海に流れ込んでいる現状を知る		
実施状況 (授業風景)	 <p>【梓川の水をパックテストで測定】 【マイクロプラスチックが流れる様子を観察】</p>  <p>【環境技術センターの方が海岸から拾ってきたマイクロプラスチック】</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <p>梓川の水はCOD0できれいであることがわかった。しかし、汚水処理場の水はCOD20で汚い。やはり人が使うと水は汚れる。また、マイクロプラスチックが海に流れ込んでいることがわかり、上流に住んでいる私たちが何かしなくてはいけないと思った。</p> <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>CODとpHのパックテストを行うことで「水の汚れ」を数値化して考えることができた。今後はさらに上流部を調査していきたい。環境技術センターの方が持ってきてくださったマイクロプラスチックの中に稲作用の「一発肥料」の殻が入っていた。これを社会科「米づくり」単元で扱い、農業の高齢化と環境問題の矛盾について考えさせていく。</p>		

授 業 名	水殿ダムラフティング		
学校名、学年、学級	松本市立安曇小学校5、6学年	参加人数	8人
担当者	横山 享司 矢島 久実子	記入者	横山 享司
実施日（期間）	令和3年7月20日（火）		
講師名	リトルピークス 小峰 邦良さん 関谷さん		
実施概要	<p>水殿ダムのラフティングを通して、ダムの役割と水難対応について学ぶ 水殿川の水質調査をすることで、梓川の支流の水がきれいであることを確認する 伏流水が扇状地にあることを知り、今後の学習への見通しをもつ</p>		
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【水殿ダム湖をラフティング 水深80cm】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【流木に乗る】</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>【水殿川の伏流水湧水地点 この後パックテストを行い水はとてもきれい確認】</p> </div>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 2週間前は乗鞍岳の雪渓の上にあったのに、この日は水の中に飛び込んでいた。水殿ダムは水深80mもあってライフジャケットがないと怖い。でも、水はとてもきれいだった。伏流水という言葉をはじめて知った。確かに水殿川の上流は水が流れていなかった。</p> <p>2 先生方の感想、要望等 水殿ダムに直接立ち入る経験は非常に貴重であり、安曇小の子はここでの体験が非常に大きく、今後の活動に強く結びつくと考え。風向き関係で上流へのラフティングはできなかったが、清流水殿川に行き「伏流水」を直に触れたことをもとに今後は扇状地の学習、岳沢ハイキングの学習に生かしていきたい。 リトルピークスの小峰さんは打ち合わせの段階にその意図をくみ取ってくださりありがたかった。</p>		

授業名	山へ行こう！歩いて。感じて。学ぶ。自然環境。		
学校名、学年、学級	松本市立源池小学校 5年1組	参加人数	35人
担当者	浦 嘉宏	記入者	浦 嘉宏
実施日（期間）	令和3年6月4日（金）（事前授業） 6月11日（金）（美ヶ原登山）		
講師名	認定NPO法人 信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ 松場さん		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・登山に向けての心構え・歩き方などの事前指導 ・美ヶ原登山当日の登山ガイド 		
実施状況 （授業風景）	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>学校にて、登山に向けての心構えや歩き方などの事前指導</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>美ヶ原登山、当日の登山ガイド</p> </div> </div>		
授業について	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドさんがゆっくりと登ってくれたので、ほとんど疲れることなく登ることができた。 ・行動食の大切さなどを教えてもらって、こまめに栄養補給して登山ができたので、疲れることがなかった。 2 先生方の感想、要望等 <p>「みんなそろって無事下山」という明確な目標を示していただいたり、具体的に疲れない登山の方法を教えていただけて、児童の安全面からも大変ありがたかった。</p> 		

授 業 名	大河の一滴		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6学年5クラス	参加人数	157人
担当者	瀧澤 雅美	記入者	瀧澤 雅美
実施日（期間）	令和3年7月13日(火)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス)		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・梓川の特徴、川の魅力 ・川の渡り方、簡単な安全講習 		
実施状況 (授業風景)	 <p>○体育館で、学年集会形式で実施。 ○スライドを見ながら、自分たちが近くで見ている梓川の上流の話から、水の行方について学んだ。 ○川に実際に入る前の注意事項の指導を受けた。川に入りたくなる気持ちになり、2学期の現地活動の導入に良かった。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、「川が汚れたらどうなるか」を話してもらいました。生物が生活できなくなるそうです。次に、川にはダムがあるけど近づいてはいけない、という話を聞きました。なぜかという、「ケガをしまったり、死んでしまったりするから」と言っていました。とても勉強になりました。 ・梓川は槍ヶ岳から水が湧き出て、65キロ行くと、奈川、犀川と合流します。梓川がさらに日本一長い信濃川に続いていくので、光栄だなと感じました。2学期の実際に川に行く学習が楽しみです。 ・今日は、小峰さんに川について、探検したところや山登り、9月の学習についてお話していただきました。私も早くやってみたいなと思いました。 ・前よりも川のことを知れました。これからは川を大切にしたいです。 ・川は自然がきれいになっているなんて初めて知りました。2学期は川の活動もあるので、頑張りたいです。 ・今日、梓川の話をしてもらいました。梓川はきれいな川だと言っていました。でも、ゴミを捨てる人がいて、そのまま海に行ってしまうと聞いたので、ゴミを捨てないようにしたいです。 ・小峰さんは、楽しくお話をしてくださって、とてもおもしろかったです。昔は梓川にもサケが上ってきていたと知ってとてもおどろきました。でも、今はダムなどの人工物が多くて上ってこれないそうです。2学期に川に行くことを知ったので、とても楽しみです。 ・川の話を知りました。小峰さんが言っていたので、体育の時間に前を向きながらのクロールに挑戦してみました。難しかったです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>なかなか地域学習をする機会がなく、梓川の様子をよく知らなかったの、自分自身もよい勉強になった。実際に、川で活動するのが楽しみになった。夏休み前だったので、川遊びへの注意喚起にもなり、ありがたかった。梓川の様子だけでなく、指導員の方の体験談を聞くこともできたので、子どもたちのキャリア教育にもなったと思う。</p>		

授 業 名	リバーアドベンチャー		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年1組	参加人数	31人
担当者	近藤 陽子	記入者	近藤 陽子
実施日(期間)	令和3年9月24日(金)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス)		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・梓川の特徴、川の魅力 ・川の渡り方、簡単な安全講習 		
実施状況 (授業風景)	<p>梓川では、リトルピークスの代表の小峰さんと4人のガイドさん、環境教育ネットワークの方がサポートに付いてくださり、3つのポイントで、生き物探し、川を渡ったり流されたりする体験、飛び込む体験を行った。川で遊んだことのない子も多かったが、小峰さんに安全に行う方法を聞きながら、緊張の面持ちで川を楽しむことができた。初めに小峰さんから、「川で遊んだり、関わったりした思い出が、梓川を守ろうとか環境を大事にしようという気持ちの基になる」というお話があり、子どもたちも真剣に遊びながら学んでいた。これからの人生で災害などいざという時にどうしたら身を守れるかのヒントにもなるのではないかと思った。</p>   		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「川っておもしろい！」と思いました。リバーアドベンチャーで魚や川の生き物を見た時、梓川にもいるんだなと思いました。川がキレイなんだなと思いました。川で流されたときは、「え？怖い！」と思いました。飛び込んだ時も、「冷たい！怖い！」と思いました。でも、飛び込んだ時は楽しかったです。川の中は、冷たくてひんやりしてました。 ・川の中では楽しさやワクワクの他にも、怖いということを知りました。石にモヤモヤとした物が付いていたり、つるつるしてくずれやすい石が多かったりして、一歩まちがえたら、川の中で転んで流されるところでした。 ・川の中は冷たくてワクワクして楽しいけど、ルールを守って気をつけないと危ないのでルールを守ってやりたいです。こんな体験は初めてでぞわぞわしたけど、楽しさや怖さを見つけられて良かったです。そして、前より梓川を好きになれました。 ・リバーアドベンチャーで川の楽しさや怖さを知りました。最初に、梓川の水生生物を取りました。梓川にはとても多くの種類の水生生物がいることが分かりました。 ・僕が一番楽しかったのは、左岸と右岸を渡ったことです。流れが激しく、ぼくはすべて流されました。川は危険ということが分かりました。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に飛び込みました。水が冷たくて、とても気持ちよかったです。川は楽しいけど、怖いところもあることが分かりました。 ・意外に川の水が冷たくてびっくりしました。川にはたくさんの生き物がいてかわいかったです。川を渡る時は、すごく怖かったです。川の流れが激しくて、流されそうになりました。でも、ミネちゃんがラッコみたいになって流れれば良いと言っていたので、その状態で流れたらうまく流されました。 ・川にダイブするときは、怖かったけど、いざ飛び込んだら楽しかったです。足がつかなくてびっくりしました。 ・リバーアドベンチャーをして、梓川について興味がすごくわきました。これからも梓川を守っていきたいと思いました。 <p>2 先生方の感想、要望等講演会</p> <p>「大河の一滴」で、梓川の魅力や川での遊び方を事前にお聞きすることができ、梓川で遊びたい気持ちや川への興味が高まった。</p> <p>身近に梓川がありながらも川で遊んだ経験がほとんどなかった子どもたちが、実際に体験をすることで梓川への興味や関心をもつことができた。梓川に親しみ、愛着をもつことで、梓川の現状を知り、梓川を大切にしたいという思いをもつことができると感じた。とても良い経験をさせていただいて本当にありがたかった。</p>
--	--

環境教育支援事業実施報告書

【番号：5 - 2】

授業名	リバーアドベンチャー		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年2組	参加人数	33人
担当者	須藤 典明	記入者	須藤 典明
実施日（期間）	令和3年9月22日(水)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス)		
実施概要、実施状況	【番号：5 - 1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <p>○最初は、川に入るのすら怖かったけれども、魚とりをするうちに、全然平気になりました。激流で流されてみたり、わたったり、とびこんでみたりして、ちょっと足がつかなくてパニックになったけれども、慣れたら面白かったです。また、家の人と遊びに（浅い所）行きたいです。（A児）</p> <p>○ウエットスーツを着て泳ぎました。はじめは少しやりづらいなと思ったけれども、やっているうちにどんどん慣れていきました。川の生き物を見つけたり、川に流れてみたり、とびこんでみたりしました。所々、怖いなと思いました。川に入ることがなかなかないので、貴重なことが楽しくできました。またやりたいなと思いました。（B児）</p>		



	<p>○リバーアドベンチャーで一番楽しかったことは、流されたことです。石にお尻が数回当たって痛いこともあったけれども、川と一緒にいるのが心地よかったです。飛び込むのも、怖かったけれども、やってみたら楽しかったです。またやりたい！！と思いました。 (C児)</p> <p>○リバーアドベンチャーで、川に飛び込む体験をしました。思った以上に深かったのと、目が見えないことで少しパニックになりましたが、とても楽しかったので、2回やりました。1回目より2回目の方が豪快に飛んだので、鼻に水が入りました。予想以上に楽しかったので、また友達や家族と川に行ってみようと思います。(D児)</p> <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>学校職員だけでは、川に入ってダイナミックに学習する機会をつくるのが難しい。今回のような学習の機会を頂けたことにまず感謝したい。</p> <p>校名に入っている「梓川」に遊びに行ったり入ったりしたことのある児童がほとんどいなかった。川の水は冷たかったが、講師の小峰邦良先生や周りのスタッフの方のサポートのおかげで、途中で辞める児童もなく本当に川を楽しんだ時間となった。川の生き物採集 川渡り 川に流される 川に飛び込むの学習内容の流れや段階を追って、川の流れ方や川の深さに児童たちがなじむように熟慮されていた。</p> <p>スタッフの方に手厚く学習をサポートしていただき大変ありがたかった。</p>	
--	---	--

環境教育支援事業実施報告書

【番号：5 - 3】

授業名	リバーアドベンチャー		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年3組	参加人数	32人
担当者	瀧澤 雅美	記入者	瀧澤 雅美
実施日(期間)	令和3年9月22日(水)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス)		
実施概要、実施状況	【番号：5 - 1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <p>○今日、梓川でリバーアドベンチャーで川遊びをしました。最初に、川にひそんでいる生き物を、石をどけて、流れに合わせてあみを当てて取りました。私は、カジカを取りたかったけれど取れなくて、唯一取れたのが小さい生き物2匹でした。次に、けっこう深い場所で、もし災害や川でおぼれてしまったときに役立つように、川わたりをしました。川の流れが速くて、川をわたるのが精一杯でした。そして、もし流されてしまった時には、ラッコみたいになって流され、川の流れがおそくなったところで立ち上がることで、そして、川の流れが速い時には無理やり立ち上がったりしちゃういけないということでした。災害にあった時に、一つでも役立つことが知れてよかったです。最後に川に</p>		



飛び込みました。飛び込んだ時、けっこう深くてびっくりしました。最高に楽しい思い出になりました。(Aさん)



○今日、梓川で小峰さんとリバーアドベンチャーをしました。はじめに、ウエットスーツを着ました。生き物探しで、カジカを取りました。流れ

の少し強いところでとれました。次に、本流を歩いて渡りました。思ったより、流れが強かったです。その次に、深い、流れのあまりないところで飛び込みをしました。思ったより、深くて、川の底が見えなかったので、少しドキドキしました。この経験から、川は危険だということが分かりました。次に本流で遊ぶときは、気をつけて遊びたいです。(Bさん)



○今日、梓川でリバーアドベンチャーをやりました。梓水苑までの道のりは、みんなで楽しく歩きました。着いたら、小峰さんの説明を聞いてからウエットスーツを着ました。ウエットスーツは思っていたよりも伸びづらくて着るのが大変でした。その後は、梓川に入って、川にいる生き物をつかまえました。水がとても冷たくて、足の感覚がなかったです。その次は、川の流れが速いところを横断しました。とても速くて、流されてしまいましたが、2回目にCさんと二人一組で協力してやったら、流されずに上手にわたれたので、とてもうれしかったです。最後に岩から川に飛び込みました。水泳の飛び込み台とちがって不安定で少しこわかったけど、飛び込んでみたら快感で、とても楽しかったです。私は、最近あまり川に泳ぎに行っていなかったけど、川は安全に気をつければ、楽しい交流の場になることが改めて分かりました。これからも梓川で遊ぶためには、私たちが美しい梓川を守り続けなければならないということも感じました。私は、これからも梓川がきれいなままであり続けるためにできることに取り組んでいきたいです。(Dさん)

2 先生方の感想、要望等

子どもたちにとって、梓川は地名にも校名にもなっている馴染みのある名前ではあったが、実際に川で遊んだことのある子は半分くらいだった。今回の体験で、子どもたちは、川遊びの楽しさを知り、再度また遊びたいと願った。年度当初は、繰り返し梓川と関わることを希望し、計画もしていたが、梅雨の大雨とコロナウィルスの感染拡大のために計画通りにいかなかった。川に入るのはたった一度になってしまったが、今回の体験を通して、水がきれいで生き物もたくさんいる梓川の良さを知るとともに、川の怖さも実感できたと思う。ふるさと・梓川に今後も関わり、地元の良さを知り、伝え、残すことへつながることを期待している。

スタッフの方に手厚く学習をサポートしていただき大変ありがたかった。

授 業 名	リバーアドベンチャー		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年4組	参加人数	33人
担当者	佐々木 新悟	記入者	佐々木 新悟
実施日(期間)	令和3年9月24日(金)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス)		
実施概要、実施状況	【番号：5 - 1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <p>流される体験をしたのは初めてでした。流される時はラッコみたいに体を上に向けてそのまま流されます。とても冷たかったけれど、流されるのはとても楽しかったです。流されてその場で立とうとすると流れも速くて全然立てなかったけど、サポートをいただいたので立つことができました。サポートの方がいなかったら流されると思ったので、サポートの方がいていただいて安心してきて良かったです。</p> <p>とびこみが難しかったです。でもたくさんのことを教えてもらいました。できる限り足から飛び込むのではなく、体全体で飛び込むこと、顔が水に打ちつけられないように手を三角にしてとびこむと顔への衝撃も少なくなることが大切だとわかりました。友だちが飛び込みでエビのようになっていたのでみねちゃんも驚いていました。リバーアドベンチャーを通して、梓川はまだまだ生き物がたくさんいて、生き生きしている川だとわかりました。また川で流される経験も初めてでしたが、教えてもらったことを使って、今後は冷静に対処していきたいと思いました。梓川へ行く機会があったら生き物を探したり、飛び込んだりして遊びたいです。</p> <p>○石の下にいる小さな魚は網でとるとたくさんとれました。大きい魚は取れなかったけどクラスで魚を5種類見つけることができました。楽しかったです。リバーアドベンチャーの学習をして、川のいろいろなことについて学ぶことができました。川の中の生き物も詳しく知ることができたし、川の危険についても学ぶことができました。川遊びの楽しさについても学ぶことができました。川のことについてたくさん知ることができて川への印象が変わりました。梓川の魅力も今回のリバーアドベンチャーを通してはじめてわかったこともたくさんありました。なのでこれからもりバーアドベンチャーで教わったことを大切に、安全にも気を付けて、私たちにとって身近な梓川と関わっていききたいと思いました。</p>		



	<p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>梓川は学校の近くにありながらも、今まで子どもたちが学習をする機会はありませんでした。梓川の現状を知り、体験的に学ぶことのできるリバーアドベンチャーは子どもたちにとって、とても貴重な体験です。生き物探し、川の流れ体験、飛び込み体験など肌で感じ学んだことは子どもたちの中にも残っていくでしょう。多くのスタッフの方々温かく進めていただいたこともあり、子どもたちも安心して学習をすすめることができました。ありがとうございました。</p>
--	---

環境教育支援事業実施報告書

【番号：5 - 5】

授業名	リバーアドベンチャー		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年5組	参加人数	32人
担当者	加藤 良知	記入者	加藤 良知
実施日(期間)	令和3年9月22日(水)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス)		
実施概要、実施状況	【番号：5 - 1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物探しが楽しかったです。自分でカジカを見つけたときは嬉しかったです。きれいな梓川を大切にしたいと思いました。 ・川はやっぱり危険だと思ったけど、ライフジャケットやヘルメットを着けて、安全に遊べば大丈夫だと改めて感じました。 ・生き物探しが楽しかったです。石などをどけて色々な生き物を見つけたことが思い出に残りました。 ・川の危険なところも分かったけど、川で遊ぶことの楽しさも分かって良かったです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>子どもたちにとって身近な梓川ではあるが、そこで釣りをしたり、実際に川に入ってみたりしたことのある児童はほとんどいなかった。この授業の中で生き物を見つけたり、実際に川を渡る経験をしたりしたことで、川には多様な生き物がいること、川の流れの速さや怖さも身をもって体験することができた。特に、川の怖さを知ること、将来無茶をして川に飛び込む危険な行動に出ることもなくなると思うため、大変貴重な経験をする事ができたと感じている。</p>		



<p>授 業 名</p>	<p>ぬかくどご飯炊き体験</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立二子小学校 3学年</p>	<p>参加人数</p>	<p>41人</p>
<p>担当者</p>	<p>中澤 清子 赤羽 織恵</p>	<p>記入者</p>	<p>中澤 清子</p>
<p>実施日（期間）</p>	<p>令和3年11月1日（月）</p>		
<p>講師名</p>	<p>NPO 法人安曇野ふるさとづくり応援団</p>		
<p>実施概要</p>	<p>米の精米の過程 リサイクルできる稲（もみ殻 燃料、ぬか ぬか漬け、藁 藁製品や肥料など） 水田を取り巻く環境の変化（生息する生物の減少など） ぬかくどの仕組みや使い方 米炊きに使う安曇野の湧水の仕組み ぬかくどに 粳をくべる体験 炊きあがった白米でおにぎり作りと試食</p>		
<p>実施状況 （授業風景）</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>無農薬米の生産者の細井さんにお話をお聞きしました。藁は田んぼに撒いて肥料にしたり、冬の木の幹に撒いて寒さを防いだりできます。縄をなうこともできるし、いろいろな使い道があります。</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>1人ずつ粳を竈に入れる体験をしました。粳はよく燃えて火力が強くなるので、ご飯が速くたけるそうです。</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>わあ、いいにおい。おいしそう。お米がたっている。</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>2こずつ自分のおにぎりを作りました。炊きたてのお米はおいしかったです。</p> </div> </div>		
<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぬか」は粳のこと、「くど」はかまどの事だとわかりました。紙芝居やクイズをしてもらって、とても楽しかったです。よくかむとあまくなりました。少し焦げたところもおいしかったです。 ・ご飯ができたとき、いいにおいがしました。安曇野のわき水は、ずっと前に山に降った雪や雨がしみ込んで出てきたと教えてもらって、びっくりしました。わき水で炊いたから、おいしいんだと思いました。 ・新米はいつものご飯よりあまかったです。私のおじいちゃんの家でもお米を作っていて田植えを手伝ったことがあったけど、米作りは大変なんだとわかったから、これからもごはんを残さずに食べたいです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援団の方々には毎年来ていただいているので、学校の様子もわかっていただき、準備も丁寧にしていただいととてもありがたかったです。 ・学校の周囲に米農家が少ない環境のため、生産農家の方から直接お話を聞くことができ、貴重な機会でした。ぬかくどで炊いた無農薬の新米がとてもおいしく、子どもたちもお米の味の違いをはっきりと感じとることができました。 		

授 業 名	木材を活用した木工工作			
学校名、学年、学級	松本市立二子小学校 特別支援学級	参加人数	24人	
担当者	百瀬 清美・飛田 榮子 波多腰 智恵・中原 留美	記入者	飛田 榮子	
実施日（期間）	令和3年11月8日（月）			
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木 喜一郎さん			
実施概要	<p>・私たちの身近にあり大切な自然の一部である『木』を使って好みのペン立てを作るという講座内容と、取り扱いに注意の必要なホットボンド等の使い方の説明を聞いた。</p> <p>・最初に木の名刺を作り、一人一人の児童が胸にその名刺を付けてから工作に取り掛かった。輪切りにした木材1個に、木で作った多種多様な材料をホットボンドで付けてオリジナルのペン立てを作成した。</p>			
実施状況 （授業風景）	<p>どの材料を使おうかな？</p>  <p>もうすぐできあがり</p> 	<p>ホットボンド初挑戦</p>  <p>完成したよ！</p> 		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活の中では集中して取り組める時間が短い傾向のある子どもたちであるが、最初から最後まで夢中になって活動していた。 ・「楽しかった。」という声が多かった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃接している子どもたちのそれぞれの個性を、オリジナリティあふれる作品を通して改めて知ることができた。 ・たくさんの材料をお持ちいただき、子どもたちの創作意欲が高まった。 			

授 業 名	梓川リバーアドベンチャー 「大河の一滴」 講演会		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 4学年	参加人数	141人
担当者	矢嶋 泰介	記入者	矢嶋 泰介
実施日(期間)	令和3年7月13日(火)		
講師名	小峰 邦良 先生 (合同会社リトルピークス)		
実施概要	<p>「大河の一滴」講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水がめぐっていること ・梓川の流れについて ・梓川の環境について(人工物やごみについて) ・リバーアドベンチャーエピソード1の注意点 		
実施状況 (授業風景)	  	<p>普段私たちが使っている水が、自然の中で、循環していることを教えていただいた。 また、使った水は自然の力できれいになっていることの説明もあった。</p> <p>梓川の流れについて、川の始まりやダムがあることなどを教えていただいた。 梓川が65kmあることや奈川と合流して犀川になることを知った。</p> <p>川の中にある人工物が危険なことやゴミのポイ捨てがあって、川の環境が汚れていることなどの環境問題についても教えていただいた。リバーアドベンチャーの注意点を教えていただいた。</p>	
授業について	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・川は怖いと思ったけど、小峰さんと一緒なら安全に入ることができそうだから、梓川に行きたいと思った。 ・ゴミを拾って自然の中で生き物と人が幸せに生きていってほしいと思った。 ・川遊びがしたい。 ・水が循環していたなんて初めて知って驚いた。 ・梓川は人がきれいにしていると思っていただけ、自然がきれいにしていると知ってとてもびっくりした。 ・ダムに名前があると知って驚いた。梓川には3つもあると知らなかった。 ・もっともっと梓川のことを知りたいと思った。 2 先生方の感想、要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・川の危険さを学びながら、同時に川が楽しいところで自分たちも行ってみたいと子どもたちが興味をもてる話をしていただいた。 ・ダムのことや環境について等、子どもたちが初めて触れる話題が多くあり、今度の活動に意欲をもてた子がいた。 ・社会科で水について学習をしている中で、子どもたちにとって身近な梓川を題材に話していただけたことで、子どもたちが水に対する理解を深めることができた。 ・川にゴミが増えているという話から、子どもたちが環境とゴミの関係にも興味をもてた姿が多くあった。 		

授 業 名	梓川リバーアドベンチャー ～エピソード0～		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 4年1組	参加人数	36人
担当者	岡村 亜紀	記入者	岡村 亜紀
実施日（期間）	令和3年11月10日(水)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス) 他4人		
実施概要	<p>水殿ダムの見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムの働きについての解説 ・梓川の河川状態についての解説 <p>乗鞍のトレッキング（夜泣き峠～一の瀬園地）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動植物の観察 ・自然の中で生き抜くための知恵の指導 ・山や川についての自然環境に関する解説 ・生物の多様性についての話 		
実施状況 (授業風景)	<p>水殿ダムの見学</p>  <p>ダムの働きや梓川の河川が変化していく様子について教えていただいた。 実際にダムの上を歩き、活動をする中で、子どもの疑問について丁寧に解説をしていただいた。</p> <p>乗鞍のトレッキング（夜泣き峠～一の瀬園地）</p>  <p>夜泣き峠から一の瀬園地に向けてトレッキングをした。実際に歩く中で、自然の中で生きていく術や、動植物の生態、多様な生物が共存する自然の在り方についてなどその場面ごとに解説をしていただいた。</p>  <p>夜泣き峠では、尾根を歩きながら風の通り道について教えていただいた。ヤドリギや松やなどに直接植物に触れて五感で自然を感じることができた。</p>  <p>自然界で生き抜くために必要な安全を確保するためのポイントを教えていただいた。川の渡り方、山の歩き方など、トレッキングをしていく中で子どもたちも技能を高めていた。</p>		

授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう冬なんだと思った。川がとてもきれいで、手を川に入れて、すごく冷たかった。梓川小の近くなのに、山は寒かった。 ・山の道がふかふかしていて、気持ちよかった。もっと山を歩きたいと思った。冬とか違う季節にも行ってみたい。 ・川に魚が普通にいるからすごいと思った。川に入りたかった。また行きたいと思った。 ・リバーアドベンチャーに行って、とても楽しかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梓川の上流にあたる乗鞍の自然を全身で感じることは、子どもたちにとっては、新鮮で刺激的でした。初めてのことばかりでしたが、どの子どもも目を輝かせて講師の先生方の話に耳を傾け、もっともっと聞きたいと、どんどん前のめりに活動していました。五感で自然を感じ、普段は見られない子どもたちの本当の姿が見られてよかった。 ・梓川の水源地の森である乗鞍で川に触れることや、雪が降り積もってその雪がやがて川となり、自分たちの土地を潤していくのだということを知ることができた。水の始まりを感じることができた。 ・ダムでは、諏訪湖の2倍も貯水量があるということを知り、このダムのおかげで私たちの生活が守られていることを感じる事ができた。安定した供給、水害から守られた安全な生活について知ることができ、社会の学習とつながり、とてもよかった。
--------	--

環境教育支援事業実施報告書

【番号：9 - 2】

授業名	梓川リバーアドベンチャー ～エピソード0～		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 4年2組	参加人数	34人
担当者	小須田 涼太	記入者	小須田 涼太
実施日（期間）	令和3年11月10日(水)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス) 他4人		
実施概要	<p>水殿ダムの見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムの働きについての解説 ・梓川の河川状態についての解説 乗鞍のトレッキング（三本滝～東大ヒュッテ） ・動植物の観察 ・トレッキングで意識する歩き方 ・山や川についての自然環境に関する解説 ・乗鞍高原の環境や生活について 		
実施状況 (授業風景)	<p>水殿ダムの見学</p>  <p>ダムの働きや梓川の河川が変化していく様子について教えていただいた。 実際にダムの上を歩き、活解説をしていただいた。</p>		

	<p>乗鞍のトレッキング(三本滝～東大ヒュッテ)</p>  <p>まずは、三本滝に向かってトレッキングをした。実際に歩く中で、自然の中で生きていく術や、動植物の生態、多様な生物が共存する自然の在り方についてなど、その場面ごとに解説をしていただいた。</p>  <p>三本滝では、三本滝と呼ばれている理由やトレッキングしている中で見られた植物について話をしていただいた。</p> <p>子どもたちも実際に水に触れ、水のきれいさや冷たさを実感していた。</p>  <p>活動時間を考慮していただき、東大ヒュッテではなく、乗鞍の景色が一望できるポイントへ案内していただいた。道中にあるクマよけのベルや雪を集めてかき氷にもできることなど興味を持てる楽しい話をしていただいた。</p>
<p>授業について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・初めて見たダムは写真と違って、迫力があってすごかった。 ・乗鞍の水を使ってふわふわのかき氷を食べてみたい。 ・木の樹液がとてもいいゆずの香りがして驚きました。 ・乗鞍の雪はつぶつぶで松本とは違い、地域によって雪の形にちがいがあのかなと思った。 2 先生方の感想、要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・自由に歩く子どもたちを先導していただきとても助かりました。 ・また、夏のリバーアドベンチャーや冬の体験もできたらと感じました。

環境教育支援事業実施報告書

【番号：9 - 3】

<p>授業名</p>	<p>梓川リバーアドベンチャー ～エピソード0～</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立梓川小学校 4年3組</p>	<p>参加人数</p>	<p>35人</p>
<p>担当者</p>	<p>矢嶋 泰介</p>	<p>記入者</p>	<p>矢嶋 泰介</p>
<p>実施日(期間)</p>	<p>令和3年11月10日(水)</p>		
<p>講師名</p>	<p>小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス) 他4人</p>		
<p>実施概要</p>	<p>水殿ダムの見学 ・ダムの働きについての解説 ・梓川の河川状態についての解説 乗鞍のトレッキング(善五郎の滝～一の瀬園地) ・動植物の観察 ・自然の中で生き抜くための知恵の指導 ・山や川についての自然環境に関する解説 ・生物の多様性についての話</p>		

<p>実施状況 (授業風景)</p>	<p>水殿ダムの見学</p>  <p>ダムの働きや梓川の河川が変化していく様子について教えていただいた。 実際にダムの上を歩き、活動をする中で、子どもの疑問について丁寧に解説をしていただいた。</p> <p>乗鞍のトレッキング(善五郎の滝～一の瀬園地)</p>  <p>善五郎の滝から一の瀬園地に向けてトレッキングをした。実際に歩く中で、自然の中で生きていく術や、動植物の生態、多様な生物が共存する自然の在り方についてなど、その場面ごとに解説をしていただいた。</p>  <p>善五郎の滝では、長い年月をかけて滝の形が変わっていったことや川に住んでいるイワナについて話をしていただいた。 子どもたちも実際に水に触れ、水のきれいさや冷たさを実感していた。</p>  <p>自然界で生き抜くために必要な安全を確保するためのポイントを教えていただき、歩き方や、休憩時に自分が座る場所、食事をする場所はどんな場所が良いかを教えていただいた。トレッキングをしていく中で子どもたちも技能を高めていた。</p>
<p>授業について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> 山で紅葉しているところとしていないところがあって、紅葉していない緑のところは人が植えた場所だということが分かりました。 水殿ダムで作られた電気が東京で使われていると知って驚きました。 善五郎の滝では石が砕けて形が変わっていることを知り、そうだったんだと思いました。 滝の水がとてもきれいでした。 善五郎の滝はすごい迫力で水が冷たかった。 弁当を食べる時、ななめになっているところで食べたほうが食べやすいと聞いて、試してみたら本当でびっくりした。 先生方の感想、要望等 <ul style="list-style-type: none"> 梓川の上流にあたる乗鞍の自然を全身で感じ、自分たちの住む地域に対する関心がとても高まった。 実際に目で見て、手で触れたことで、子どもたちが今まで学んできて知識としてもっていたものが実感としてより確かなものになったと感じた。 講師の先生方には、活動の中で、楽しさと安全を両立させることができるように支援していただき、とてもありがたかった。

授 業 名	梓川リバーアドベンチャー ～エピソード0～		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 4年4組	参加人数	35人
担当者	土肥 はづき	記入者	土肥 はづき
実施日（期間）	令和3年11月10日(水)		
講師名	小峰 邦良 先生(合同会社リトルピークス) 他4人		
実施概要	【番号：9 - 3】と同様		

実施状況
(授業風景)

水殿ダムの見学



ダムの働きや梓川の河川が変化していく様子について教えていただいた。

実際にダムの上を歩き、活動をする中で、子どもの疑問について丁寧に解説をしていただいた。

乗鞍のトレッキング(一の瀬園地一周)



一の瀬園地の周りをトレッキングした。実際に歩く中で、自然の中で生きていく術や、動植物の生態、多様な生物が共存する自然の在り方についてなど、その場面ごとに解説をしていただいた。



川に丸太がかかっているところなどもあった。そのような丸太を渡る際の足の運びなど丁寧に教えていただくことで、安心して歩くことができた。

子どもたちは実際に川の水に触れ、水のきれいさや冷たさを実感していた。



自然界で生き抜くために必要な安全を確保するためのポイントを教えていただき、歩き方や、休憩時に自分が座る場所、食事をする場所はどんな場所が良いかを教えていただいた。トレッキングをしていく中で子どもたちも技能を高めていた。

<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムを近くで見たことがなかったから、すごく大きくてびっくりした。 ・山の上に行けば行くほど寒く、動物たちは寒くないのかなと不思議に思った。 ・歩くと地面が沈んだ。フカフカして歩きやすかった。どろが多いからなのか、おちばが多いからなのか、どちらなのかなと思った。 ・次に乗鞍高原に来るときは、雪遊びやスキーをしたいと思った。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梓川の上流にあたる乗鞍の自然を全身で感じ、帰りにはまだ帰りたくないと嘆くほど、その魅力に気づくことができた。 ・実際に目で見ること、事前学習で調べた乗鞍高原についての知識に経験を重ねることができた。 ・川の水に触れ、その冷たさに驚き、植物について教えてもらう中で「この植物は?」、「あれは?」と、もっと知りたいという意欲が見られた。 ・ダムの大きさに驚いていました。そのスケールを実際に感じられたことがよかった。
---------------	---

<p>授業名</p>	<p>自然体感プログラム</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立菅野小学校 3年3組</p>	<p>参加人数</p>	<p>30人</p>
<p>担当者</p>	<p>小林 祐子</p>	<p>記入者</p>	<p>小林 祐子</p>
<p>実施日（期間）</p>	<p>令和3年6月25日（金）</p>		
<p>講師名</p>	<p>NPO 法人わおん</p>		
<p>実施概要</p>	<p>理科「こん虫のからだを調べよう」及び総合的な学習の時間の一環として実施。 菅野小校庭築山付近にて2人の講師より下記のテーマで生き物探しと観察を行った。 「色探し」（指定された6色のそれぞれ異なる色を自然の中から探す活動） 「自然の中の人工物探し」 「草むらの生き物」（草むらでの植物や昆虫探し）</p>		
<p>実施状況 （授業風景）</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">  <div style="margin-top: 10px;"> <p>「色探し」 紺・黄土色・深緑・エメラルドグリーン・赤茶色・黄色、これらの色の自然物を探します。 「あったー！これそうじゃない？」、「この色似てるかなあ？」</p> </div>   </div>		

「草むらの生き物」

実際の昆虫を探して観察したり、万華鏡に好きな植物を入れて楽しんだりします。

あめんぼ、あり、ダンゴムシ、コガネムシ、「これは何だろう？」と図鑑もあったので、つかまえた虫が何か調べている姿もありました。



「自然の中の人工物探し」

指定された範囲の中に取り付けられた人工物（クリップや置物等）がいくつあるのかを探します。

「12個!」、「まだまだあるよ!」、「えー!」

この活動を通して、擬態や同系色の動植物は敵から身を守れるのだということに改めて気が付いた子どもたちでした。

授業について

1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等

- ・「色探し」では、指定された色を自然の中にたくさん見つけることができ、楽しむことができた。思いがけない青や水色の色合いも、ないようできて探し当てた子もいて驚いた。
- ・「自然の中の人工物探し」では、気が付きにくい物は、自然物と同系色のクリップや木の置きもの。だからこそ擬態や同系色の動物は敵から身を守れるのだということに改めて気が付いた子どもたちだった。
- ・「草むらの生き物」では、じっくりと探す練習をいかして、実際の昆虫を探して観察したり、万華鏡に好きな植物を入れて楽しんだりした。草むらの中から見つけ出した昆虫を夢中で追いかけたり、捕まえた昆虫をみんなで見合ったり、指導者の先生が教えてくださる種類の名前や、体の特徴を熱心に聞いたりすることができた。

2 先生方の感想、要望等

- ・子どもたちが、自然の様子や昆虫についてじっくり観察する姿が多く見られ、進んで学習できるよい機会になってよかった。
- ・専門の先生方にご指導をいただき、子どもたちの捕まえた昆虫を一つひとつ丁寧に学習の中で取り上げてくださり、体験的な学びをつくることができて大変ありがたかった。道具や展開の段取りが十分なされていたことも、子どもたちの意欲的な活動に結びついていたと感じる。

<p>授 業 名</p>	<p>木の授業とバウムクーヘン作り</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立四賀小学校 3学年</p>	<p>参加人数</p>	<p>20人</p>
<p>担当者</p>	<p>岩淵 優太(3年担任)</p>	<p>記入者</p>	<p>岩淵 優太</p>
<p>実施日(期間)</p>	<p>令和3年11月17日(水)</p>		
<p>講師名</p>	<p>寿さとやまクラブ 鈴木喜一郎さん</p>		
<p>実施概要</p>	<p>○木の切り株を使って、年輪を数えたり、年輪ができる意味を考えたりした。 ○年輪のできるしくみを理解したうえで、バウムクーヘン作りをした。</p>		
<p>実施状況 (授業風景)</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>木の年輪は、どうなってるのかな</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>ここ細くなってるよ～</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>混ぜて生地を作るぞー</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>年輪のように作れるかな？</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>8年分の年輪ができたぞ</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>きれいにおいしくできました。</p> </div> </div>		
<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 木の年輪で、その時の気候などが分かることにとても驚いていた。また自分で年輪の大きさから寒いときや、暑いときが分かり良かった。そして約9年分の年輪に見立てたバウムクーヘンが作れ、とても楽しんで学習が行えました。</p> <p>2 先生方の感想、要望等 バウムクーヘン作りをきっかけに、自分たちの身近にある森林について考える良い機会になった。また、一人一人が自分のバウムクーヘンを作れて達成感を感じている子がすごく多かったと感じました。来年もぜひ継続して実施していきたい。</p>		

授 業 名	生き物から学ぶ環境学習		
学校名、学年、学級	松本市立四賀小学校 4年1組	参加人数	23人
担当者	柳沢 準二	記入者	柳沢 準二
実施日（期間）	令和3年6月15日(火)		
講師名	松本ホタル学会 藤山静雄先生		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物の種類の減少や希少生物について、ホタルについての生態、ホタルも他の生き物も住める環境についてプレゼンを用いた学習会 ・ 学校横に流れる保福寺川の生き物の採取と生き物から分かる水質についての分析 		
実施状況 (授業風景)	 <p>ホタルが住める環境？ホタルも住める環境？どっちかな</p>	 <p>保福寺川にはどんな生き物がいるかな？</p>	
	 <p>いろいろな生き物がいたぞ水質はきれいなのかな</p>	 <p>保福寺川はホタルも他の生き物も住めるきれいな川だ</p>	
授業について	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤山先生に絶滅危惧種がたくさんいることを教わって何とかしていかないといけないと思いました。 ・ 四賀地区は松本一たくさんホタルがいる場所だと分かり、ホタルを守っていきたくと思いました。 ・ 川の生き物探しは、とても楽しかったです。生き物の名前を調べるのが大変だったけど、きれいな川に住む生き物がたくさんいてよかったです。 2 先生方の感想、要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に続き2年目の環境学習でした。昨年は、水生生物を分類して水質を分析することまではできませんでしたが、本年度は時間をたくさんとって分析までできました。子どもたちは、ホタルも他の生き物も住んでいる四賀地区を誇りに感じ、その環境を守っていきたく意識できました。 ・ 藤山先生はじめ松本ホタル学会のみなさんにも来ていただき、四賀の自然の良さや子どもたちの良さを褒めていただきうれしさがわいてきました。継続して今後も環境学習に取り組んでいきたく感じました。 		

<p>授 業 名</p>	<p>木材の活用法</p>				
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立梓川小学校 5年1組、2組、3組、4組</p>	<p>参加人数</p>	<p>135人</p>		
<p>担当者</p>	<p>守矢 久美 沼尾 浩輝 沖 拓実 江口 友希</p>	<p>記入者</p>	<p>江口 友希</p>		
<p>実施日（期間）</p>	<p>令和3年6月18日（金）</p>				
<p>講師名</p>	<p>寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎先生</p>				
<p>実施概要</p>	<p>木の種類や木の実について 実習</p>				
<p>実施状況 (授業風景)</p>	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <p>木の話</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>使う木の名前や匂いについて話していただいた。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>各テーブルに1～2人の講師の方に手伝っていただき制作した。</p> </div>  </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <p>実習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>材料置き場から、自分の作りたいものをイメージしながら材料を選んだ。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>講師の方のサポートを受けながら、道具を使った。</p> </div>  </td> </tr> </table>			<p>木の話</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>使う木の名前や匂いについて話していただいた。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>各テーブルに1～2人の講師の方に手伝っていただき制作した。</p> </div> 	<p>実習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>材料置き場から、自分の作りたいものをイメージしながら材料を選んだ。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>講師の方のサポートを受けながら、道具を使った。</p> </div> 
<p>木の話</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>使う木の名前や匂いについて話していただいた。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>各テーブルに1～2人の講師の方に手伝っていただき制作した。</p> </div> 	<p>実習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>材料置き場から、自分の作りたいものをイメージしながら材料を選んだ。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>講師の方のサポートを受けながら、道具を使った。</p> </div> 				
<p>授業について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・木で行う工作は難しそうだったけど、やってみると簡単だった。バイオリンを弾いている人形を組み立てるのが難しかった。機会があれば、山で色々な木や実を見てみたいです。 ・木は色々なことに使えることが分かった。もっと木を大切にしないといけないと思った。 ・木について、もっと勉強してみたい。 2 先生方の感想、要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、身近にある木について意外と知らないことに驚きました。今回の授業を通して、自分たちの身の周りの自然に目を向け、大切にしたり上手に利用したりしたいという気持ちをもつことができたので良かった。 				

授 業 名	竹筒と蜜蝋を使ったキャンドル作り		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年1組	参加人数	32人
担当者	近藤 陽子	記入者	近藤 陽子
実施日(期間)	令和3年12月2日(木)		
講師名	鈴木 喜一郎先生(寿さと山くらぶ)他		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・講話「地球温暖化と私たちの生活について」 ・講話「蜜蝋について」 ・講話「竹の種類について」 ・制作活動「竹筒でキャンドルフードを作ろう」 		
実施状況 (授業風景)	<p>まず初めに、気象予報士の先生から、パンフレットを使って、地球温暖化と私たちの生活についての話をお聞きした。地球温暖化を防止するためにはプラスチック以外のものを使うことが大切だということ、蜜蝋や竹を使うことは石油が原料の製品を使わないため、環境にやさしいことなどを学習しました。</p>  <p>その後、6グループに分かれて、8人の講師の先生のご指導の下、ろうそくの周りに風よけとして置く竹筒を制作した。まず、長い竹の幹を輪切りにした。切り口の片方は斜めに切ったので、のこぎりを使うのが大変そうだったが、講師の先生に手伝っていただきながら、のこぎりを動かしていた。</p> <p>最後に、竹の幹に自分でデザインを考え、電動ドリルで穴をあけた。穴をあけた筒の中に蜜蝋を入れて火をつけると、ろうそくの光が模様になって見えるようだ。</p> <p>できた作品は、12月17日の午後5時から7時まで、松本駅お城口広場で行われる「冬のキャンドル・ナイト2021」で飾られた。</p> 		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○このキャンドルは、地球への負担が少ないキャンドルでCO₂+ - 0のカーボンニュートラルなキャンドルです。竹は意外とかたくて、ドリルで穴をあけるのもけっこう力がいりました。だけど、講師の先生がうまく修正してくれて上手に仕上がりました。環境への負担が少なく、しかもきれいなキャンドルができたので、見に行きたいです。 ○キャンドル作りをして、今の地球は危険な状態なんだなと思いました。今日作ったキャンドルは、自然に害のないキャンドルなんだなと思いました。もっと自然について考えて生活したいです。 ○環境がこんなにも悪くなってきているなんて思いませんでした。私たちが生活に必要な不可欠なものは仕方ないけど、少しずつできることをして、それをみんながやり続ければ、世界は変わると思います。キャンドル作りでは、思った形にするのは難しかったけど、かわいくできました。当日は見られないかもしれないけど、見に来た人たちに楽しんでもらえたらいいです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>エコキャンドル作りを通して、地球環境について考えることができた。社会や理科の学習で地球温暖化について学んだり、家庭でもエコを意識して生</p>		

	<p>活したりしている子どもたちではあるが、今回は特にカーボンニュートラルについて理解を深めることができたと思う。よりよい未来のために、普段の暮らしの中で自分にできることに取り組んでいきたいという思いを改めてもつことができた。</p> <p>また、自分たちの作ったキャンドルがイベントで飾られるということもとても嬉しかったようだ。自分たちの活動が地域のエコ活動につながるということは子どもたちの環境への意識を更に高めたと思う。</p>
--	---

環境教育支援事業実施報告書

【番号：14 - 2】

授業名	竹筒と蜜蝋を使ったキャンドル作り		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年2組	参加人数	33人
担当者	須藤 典明	記入者	須藤 典明
実施日（期間）	令和3年12月3日（金）		
講師名	鈴木 喜一郎先生(寿さと山くらぶ)他		
実施概要、実施状況	【番号：14 - 1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <p>○地球温暖化について、これからの未来にどう影響してくるか、今までどれだけ変わっているのかがよくわかった。人間として地球の環境を守らなきゃいけないのにも関わらずさまざまなものを捨てる人がどれだけいるのかもよくわかった。</p> <p>○私たちが普通に生活しているだけでも二酸化炭素を排出しているので、それを少しでも減らす工夫として、蜜蝋のキャンドルをつくることで二酸化炭素を減らすことにつながると分かった。</p> <p>○今、普通に生活できているけど、地球温暖化が進んでいる事が分かりました。でも、自分たちが、意識すれば地球温暖化は、抑えられる事も分かりました。</p> <p>○地球環境が、今どれだけひどいことになっているか、それを改善するには何をしなければいけないのかということが分かった。</p> <p>○地球温暖化の影響で未来の環境を守るために、今自分の出来る事を考えていかなければならないと分かった。</p> <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹でキャンドルシェードをつくることは石油由来のプラスチックを削減することにつながる。 ・蜜蝋でキャンドルをつくることは自然界のものからキャンドルをつくることで二酸化炭素の排出を抑えることにつながる。 <p>素敵な見た目のキャンドルをつくることを通して、2点のことを子どもたちと学ぶことができました。二酸化炭素を削減するために何ができるのか……。二酸化炭素を排出して発電する電気の使用量を減らすなどは、今まで子どもたちも考えていた。</p> <p>身の回りの製品の製造過程の二酸化炭素を減らす、二酸化炭素が増えない製品の作り方をしている製品を選ぶなど、これからの社会を生きる上で大切なことがいっぱい詰まった講座となりました。</p>		

授 業 名	竹筒と蜜蝋を使ったキャンドル作り		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年3組	参加人数	33人
担当者	瀧澤 雅美	記入者	瀧澤 雅美
実施日(期間)	令和3年12月2日(木)		
講師名	鈴木 喜一郎先生(寿さと山くらぶ)他		
実施概要、実施状況	【番号：14-1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <p>○地球温暖化や竹の種類などの話を聞いたり、実際に体験したりしてみて、地球温暖化に対して私たちができることなど勉強できました。キャンドル作りのろうそくのろうは、ハチの巣から作られています。2100年には41度ぐらいが普通になるといわれています。だから今、ぼくたちがCO2の削減をしていこうと思いました。竹と蜜蝋でつくったキャンドルは環境にも良いそうで、地球温暖化対策として素晴らしいと思いました。地球のために自分でできることはしていきたいです。クリスマスに飾りたいです。(Aさん)</p> <p>○今日、キャンドル作りでした。環境のこともお話があってよかったです。まず、竹を切りました。BさんとCさんは楽にやっていたけど、結構けずれなくて難しかったです。穴をあけてみたら、結構もようが小さくて穴が足りなそうだったのでたしました。12月17日に見に行きたいです。どんな風に光が出るのか楽しみです。(Dさん)</p> <p>○今日、キャンドル作りをしました。はじめに竹を切りました。ななめに切るのが大変でした。その後、穴のところに○をかきました。そこに電動ドリルで大きさを変えて、穴をあけました。その後、何かでこすってピカピカにしました。穴の中に色もぬりました。切っていない竹とキャンドルももらいました。クリスマスにかざろうと思います。楽しかったです。(Eさん)</p> <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>子どもたちは、地球温暖化という言葉を知っていても、自分たちがどんな風に暮らしたら、それが改善されるのか、またこのまま暮らしたらどんな未来が待っているのかをじっくり考えるチャンスはなかなかないと思う。今回、気象予報士の先生から、正しい情報を学び、自分たちの未来に目を向けた時に、このキャンドルの意義を考え、自分たちの暮らしを見直すきっかけになってくれるといいなと思う。また、家に持ち帰れば、家庭への啓発にもなることも期待できる。</p> <p>8名もの講師の先生方が手厚くサポートしてくれ、全員が楽しく制作活動に取り組むことができた。とてもありがたい学習の機会であった。</p>		



授 業 名	竹筒と蜜蝋を使ったキャンドル作り		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年4組	参加人数	33人
担当者	佐々木 新悟	記入者	佐々木 新悟
実施日(期間)	令和3年12月1日(水)		
講師名	鈴木 喜一郎先生(寿さと山くらぶ)他		
実施概要、実施状況	【番号：14-1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <p>○私は環境問題について考える機会があまりありません。キャンドルづくりの時に聞いたお話で地球温暖化が改めて進んでいるのだと感じました。竹を使ってキャンドルづくりをすることは石油などを使わないので環境にいいことと知りました。環境問題について改めて考えて、キャンドルづくりも楽しむことができたので良かったです。</p> <p>○キャンドルづくりをしたことがなかったのが今日が楽しみでした。普段使わないドリルを使って作業をしました。竹筒に穴をあけるのは気持ち良かったです。難しい作業でしたが、先生方が優しく教えてくれました。優しい先生方に教えてもらいながら楽しくキャンドルづくりをすることができました。</p> <p>○自分で考えてデザインしたものを作ることができるので楽しかったです。しかしデザインしたものが難しすぎたので少し簡単なものにしました。自分が作ったものが駅で飾られるのを見ることもできて良かったです。</p> <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>初めて行う作業で子どもたちも不安があったと思いますが、多くの講師の先生方に教えていただいて子どもたちも不安もなく、とてもうれしそうに作業をしていました。</p> <p>作業をするだけではなく最初に環境の問題をお話いただいたことで、子どもたちも竹筒を使ってキャンドルづくりをする意味を見出せたように思います。</p> <p>また完成した後も駅前で飾っていただけるなどして、子どもたちの楽しみを継続していただけたのも良かったと思います。</p>		



授 業 名	竹筒と蜜蝋を使ったキャンドル作り		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 6年5組	参加人数	32人
担当者	加藤 良知	記入者	加藤 良知
実施日(期間)	令和3年12月1日(水)		
講師名	鈴木 喜一郎先生(寿さと山くらぶ)他		
実施概要、実施状況	【番号：14 - 1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンドル作りは楽しかったです。穴をあけるのが難しかったです。でも、いい作品ができたので良かったです。 ・キャンドル作りをやりました。穴をあけるのは楽しかったけど、竹を切るのが大変でした。 ・キャンドル作りがありました。私は、みつろうキャンドルが地球温暖化と関係していることを初めて知り、びっくりしました。竹をのこぎりで切るのは、思ったよりうまくできなくて、少しガタついてしまったけど、穴をあけるのは手伝ってもらい、うまくできました。冬のキャンドルナイトにも行こうと思っています。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>8名もの講師の先生方が手厚くサポートしてくれ、全員が楽しく制作活動に取り組むことができた。とてもありがたい学習の機会であった。竹を切る活動にも、あらかじめ半分カットして切りやすくしてくれたり、穴をあける活動の時にも使いやすい道具を出してくれたりしたおかげで、きれいな作品が出来上がった。</p> <p>地球温暖化の話も、具体的で分かりやすかった。蜜蝋のキャンドルや竹筒を使うことから、地球温暖化防止について考えるきっかけとなってくれればと思う。</p>		



授業名	木の授業とバウムクーヘン作り		
学校名、学年、学級	松本市立明善小学校 特別支援学級 全6クラス	参加人数	40人
担当者	馬場 美穂	記入者	馬場 美穂
実施日(期間)	令和3年11月2日(火)		
講師名	寿さと山くらぶ		
実施概要	里山と木のお話 バームクーヘンづくり		
実施状況 (授業風景)	 <p>「里山の木のお話を聞く」</p>  <p>「生地を混ぜる」</p>  <p>「生地をかけては焼きかけては焼く」</p>  <p>「バウムクーヘン、切り株とそっくり」</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木さんと会えてうれしい。また、鈴木さんと山に行きたい。バームクーヘンの模様と、切り株の模様は、ほんとうにすごくていた。 ・バームクーヘンづくりでは、炭がすごく熱かったし、煙もすごかったけど、だんだんバームクーヘンが大きくなっていくのがうれしかった。 ・自分で焼いたバームクーヘンは、すごくおいしかった。焼くときに、生地が垂れないようにくるくる回した。そこが難しかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>交流の深い鈴木さん、寿さと山くらぶの皆さんと今年も会えて、子どもたちもとてもうれしそうだった。講師の皆さんから「何歳？じゃあ、そのバームクーヘンと同年だね」などと声をかけてもらいながら、子どもたちは自分のバームクーヘンを大切に育てていった。焼けたバームクーヘンと切り株の断面を交互に見ながら「にてる」とつぶやいていた。</p>		

授業名	炭用石窯でピザ焼き体験		
学校名、学年、学級	明善小学校 自・情障「コスモス」	参加人数	6人
担当者	馬場 美穂	記入者	馬場 美穂
実施日（期間）	令和3年10月27日（水）		
講師名	NPO 法人石窯スマイル研究会		
実施概要	石窯の仕組みについて（温度計測を通して、蓄熱の大切さに気付いた） ピザづくり（生地を実際に伸ばし自分たちの生地との共通点に気づいた） 自分たちのかまどへのアドバイスをもらう（チーズを焦がすにはどうしたらよいか）		
実施状況 （授業風景）	 <p>「かまどの温度を測る」</p>  <p>「ピザ生地をのばす」</p>  <p>「トッピングを考える」</p>  <p>「焼き上がり～チーズ焦げた！～」</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 桐原さんたちのピザ窯は、ピザがすぐ焼けて、チーズもとけて、チーズもかりっと焦げる。自分たちのピザ窯も、そういうピザ窯にしたい。 ・ 桐原さんたちとピザを作って、おいしかったし、すごくありがとうございます。おれたちのピザ窯は、やけるまでに20分もかかる。桐原さんたちののは、すぐやける。温度が全然たまんないからって、桐原さんは言っていた。温度をためたり、かまどの上の方も熱くしないとダメみたい。おれたちは、もっと工夫が必要だ。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>桐原さんたちの活動に、子どもたちを合わせることができて、本当にありがたい。「ピザ窯」を通して、その仕組みや工夫について本物のピザ窯を前に教えていただいた。子どもたち製作中のピザ窯が、子どもたちの願い通りのピザが焼けるかまどになるように、学びを継続していきたい。</p>		

授 業 名	小水力発電機等による自然エネルギー体験「自然エネルギーについて学ぼう」		
学校名、学年、学級	松本市立安曇小学校 6年	参加人数	2人
担当者	6年担任 矢島 久実子	記入者	矢島 久実子
実施日（期間）	令和3年7月9日（金）		
講師名	エコネットまつもと 鈴木 喜一郎さん		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギーの概要と水力発電の話聞いた。（パワーポイント使用） ・校舎の外に出て、自転車発電機の体験をしたり、小水力発電の実験装置の仕組みや実際に発電する様子を見たりした。 		
実施状況 （授業風景）	 <p>自然エネルギーって何だろう？</p>	 <p>自転車発電・・・これはつかれるぞ</p>	
	 <p>ホースの水を勢いよく当てて発電！</p>	 <p>この装置、回すと意外と重いな</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然エネルギーの発電方法はいろいろな種類があること、水力発電にも発電量によって名前が変わることが分かった」 ・「自転車発電は、全部の電球をつけるのは体力的にきついと分かって、電気をつくるのは大変だと思ったし、電気を大切に使用したいと思った」 ・「中国の三峡ダムの話は、ダムの規模が大きすぎて驚いたし、さすがにやりすぎだと思った」 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>自然エネルギーの全体的な概要や、水力発電について等、いろいろなお話を聞かせていただき、貴重な自転車発電機や小水力発電機を実際に目の前で体験し、見ることができ、子どもたちも得たものが多かったようでした。また、講師の方には、SDGsは何のためにやるのか？というお話や、「新しい自然エネルギーの発電方法を考えてみてね」、「梓川系の水力発電について調べてみてね」といった提案を活動のなかで投げかけてくださり、子どもたちや担任にとっても、総合学習のスタートのよいきっかけになったと感じています。提案していただいたことをぜひ今後にも生かし、さらに自然エネルギーや水力発電についての学習を深めていきたいと思っております。ありがとうございました。</p>		

授業名	自然観察会		
学校名、学年、学級	松本市立今井小学校 1年1組	参加人数	24人
担当者	中島 雅也	記入者	中島 雅也
実施日(期間)	令和3年10月4日(月)		
講師名	自然観察の会 ひこばえ(村上さよこさん、百瀬ちゆきさん)		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・宝物集め ・くるみの見分け方 ・モグラ塚 ・ヒマラヤすぎ(バラぼっくり) ・いちょうの木 ・紙芝居 ・木の実移しゲーム ・自由散策 		
実施状況 (授業風景)			
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝物集めが楽しかった。 ・おにぐるみとかしぐるみの見分け方がわかった。(葉っぱのちがい、実のちがい。) ・ぎんなんの実から芽が出ていてびっくりした。 ・くるみの赤ちゃん、いちょうの赤ちゃんをたくさん見つけられた。 ・学習公園の下にはモグラが住んでいることがわかった。 ・名前がいろいろと知れてうれしかった。家族にも教えたい。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見がいっぱい！感動がいっぱい！わくわくがいっぱい！未知が既知になり、既知が思考基地に！感じることにプラスして知ること、子どもたちの対象に対する見方が変わったことを感じました。 		

授 業 名	自然体験プログラム		
学校名、学年、学級	松本市立安曇小学校 1・2年	参加人数	6人
担当者	1年担任 佐藤真頼	記入者	2年担任 青木崇
実施日（期間）	令和3年11月11日（木）		
講師名	NPO法人わおん代表 山田勇さん 山田直美さん		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然で普段気づかないものを新しく発見する活動をした。 ・学校の校庭にある木や植物、石などで、フィールドビンゴをしたり、色々な道具を使ったりして自然を観察する活動をした。 		
実施状況 （授業風景）	  <p>フィールドビンゴで探しに行こう！</p> <p>不思議なものを発見。何だろう？</p>   <p>顕微鏡で見えるかな？</p> <p>いっぱい見つけられたね！</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の校庭にも、色々な植物や苔、虫などがいることが分かった。 ・風が強く寒かったが、たくさんの種類の花や草や木の葉っぱが落ちていて、それを使って万華鏡を作って楽しい活動ができた。 ・3種類の虫眼鏡などを使って、校庭の草を見ると海の中に居るように見え、楽しい体験ができた。 ・身近な自然を大事にしないといけないことを学んだ。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドビンゴは、校庭以外の場所でも活用できると感じました。 ・11月でも、いろいろな植物や花、鳥、虫などに触れることで、子どもたちの自然に対する興味が深まっていることを感じられた。 ・講師の方たちには、子どもたちが興味を持つことができるような活動を考えていただき、飽きずに活動をすることができ良い経験となりました。 		

授 業 名	木の授業とバウムクーヘン作り		
学校名、学年、学級	松本市立菅野小学校 特別支援学級1～6年児童 たんぼぼ1・2組 あおぞら1・2・3組	参加人数	33人
担当者	担任 松下篤、平沼公恵、 河西あき、遠藤優子、山口和代	記入者	平沼 公恵
実施日（期間）	令和3年10月21日（木）		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん 他3人の講師のみなさん		
実施概要	1. 木の年輪などの話 2. 炭火を使って材料からバウムクーヘン作り		
実施状況 (授業風景)	<p>木の年輪などの話</p>  <p>生地作りからスタート</p>  <p>大量の材料を大きな容器に入れて、よく混ぜます。少し力のいる作業でしたが1, 2年生もよく頑張っていて混ぜていました。最後の混ぜ合わせは5, 6年生を中心に丁寧に進められました。</p>   <p>炭火の上で、竹の筒をくるくる。みんなで協力し合って、じっくりと焼き上げました。竹の棒に生地を繰り返しかけて、回して、焼いて。煙が目には染みるつらさはありませんが、どんどん丸く大きくなっていくバウムクーヘンは、できていく様子を見ているだけでもワクワク楽しい作業でした。</p>		
授業について	1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・校庭で伸び伸びと興味を持って活動を楽しんでいました。 ・毎年の恒例行事になってきているので、高学年の経験のある子たちは、経験の浅い低学年に優しく教えながら、手助けする姿が見られました。 ・「おいしくなあれ！おいしくなあれ！」と、つぶやきながら楽しそうに焼く姿は、ほほえましいものでした。 ・感想発表では、「楽しかった。」、「焼きたてのバウムクーヘンはおいしかった。」、「甘くていい匂いがしてうれしかった。」などの感想が出ました。 2 先生方の感想、要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・指導してくださった講師の先生方のお話や作業の進め方が手際よく、安心して活動できました。 ・何度かバウムクーヘンづくりを経験した子どもたちは、慣れていて上手に作業する姿が見られました。 ・自分たちで作るとい活動は、貴重な学習になりました。 		

授業名	梓川&奈良井川&犀川ラフティング		
学校名、学年、学級	松本市立大野川小学校 3・4年生	参加人数	6人
担当者	後澤 宏文 竹田 祈	記入者	後澤 宏文
実施日(期間)	令和3年9月29日(水)		
講師名	リトルピークス 小峰 邦良 様 他2人		
実施概要	<p>平瀬緑地公園にて、水辺の安全講習を行い、その後、同公園前の奈良井川～犀川の豊科白鳥湖のラフティング体験を行った。</p> <p>途中、奈良井川と梓川の合流地点など随所でボートを降り、泳いだり魚を捕ったりするなどの川遊びも体験した。</p>		
実施状況 (授業風景)	   	<p>平瀬緑地公園前の奈良井川からスタート。みんなでボートをこいで行きたい方向に進む練習から。</p> <p>2台のボートが接近すると、水のかげ合い勝負。水をかけるのもだんだん上手になりました。</p> <p>奈良井川と梓川の合流地点に上陸して、2つの川の水を比べました。ここが犀川の起点。記念写真をとりました。</p> <p>小さな水たまりには魚がたくさんいました。講師の小峰さんが体を張って水をせき止め数十匹をつかまえました。</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違うボートから水をかけられて嬉しかった楽しかったです。 ・ボートが川の中の岩に当たったときの衝撃が楽しかったです。 ・白い波の上を通ったとき、ボートの足場が心臓みたいにドクンドクンといって楽しかったです。 ・川の危険な所や安全な所が分かりました。 ・ボートにつかまり、水面にぷかぷかと浮くのがとても気持ちよく、心に残りました。 ・ボートをとめて、水たまりにいる小さな魚をとったり、川でみんなと競走したり、川に飛び込んだりして楽しかったです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>私自身、また子どもたちの何人かにとっても一生に一度の体験であり、驚くほど新鮮な体験でした。ラフティングのみならず、水に浮いて流れに身を任せる体験(これが最高でした!)泳ぐ体験、魚とり、水切り遊びなど、川の楽しさを満喫できる活動でした。</p> <p>ラフティングをしながら、川の危険な箇所(テトラポット付近、水が白く泡立っている箇所など...)や危険な行為についても身をもって体験し、川の安全についても学ぶことができました。</p>		

授業名	乗鞍さんぽ		
学校名、学年、学級	松本市立大野川小学校 1、2年	参加人数	8人
担当者	奥原 由里	記入者	奥原 由里
実施日(期間)	令和3年10月29日(金)		
講師名	リトルピークス 小峰邦良さん		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旧集落クロンブラまでの道を、かつて歩いていた住民の方や通学路にしていた子どもたちに思いを馳せながら歩く。 ・鎌倉街道にまつわる言い伝えや歴史を聞く。 ・普段はほとんど歩かない急な山道を歩き抜く。 		
実施状況 (授業風景)	 <p>これから歩いて行く道が、いつ頃できて、どんな人が通ったかなどをお話していただきました。</p>	 <p>一人ひとりの背丈に合わせて、木の枝で杖を作っていただきました。</p>	
	 <p>細くて急な坂道を上り下りしながら歩きました。</p>	 <p>裸足になって川を渡りました。</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急な上り下りのある道のりだったが、最後までしっかり歩くことができた。 ・一人ひとり杖を作っていただき、とても嬉しそうだった。 ・「楽しかった。」、「また行きたい。」という感想が多かった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「もう少しがんばればできる」と思えることをやりたい、というのがこちらの願いであったが、実現していただき嬉しかった。 ・日程にゆとりがなく、クロンブラの滞在時間などを調整していただいた。子どもたちの体力などを考慮したゆとりのある日程を考えるべきであった。 		

授 業 名	木の授業とバウムクーヘン作り		
学校名、学年、学級	松本市立中山小学校 特別支援学級	参加人数	4人
担当者	特別支援学級担任 祝迫なおみ	記入者	祝迫なおみ
実施日（期間）	令和3年11月11日（木）		
講師名	寿さと山クラブ 鈴木喜一郎さん 他1人		
実施概要	1. 木の年輪などのお話を聞く。 2. 炭火を使って材料からバウムクーヘンを作る。		
実施状況 （授業風景）	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">     </div> <div style="width: 65%;"> <p>1. 木の年輪のお話 年輪から木の年齢がわかることを学んだり、年輪に触ったりした。年輪とバウムクーヘンの模様が同じことに気づいた。</p> <p>2. バウムクーヘン作り 一人ひとりが順番に卵を割った。回数を重ねると上手に割ることができるようになった。そこに粉と砂糖、バターを混ぜて生地を作った。</p> <p>竹の棒に生地を塗ってもらい炭火の上で回しながら焼いた。昨年度経験している児童もいて、その時のことを思い出しながら友だちと協力して焼くことができた。</p> <p>できあがったバウムクーヘンを切ると年輪と同じ模様が現れた。</p> </div> </div>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵を自分で割ることができてうれしかった。 ・炭火の上で竹を回すのをがんばった。 ・お家の人や先生方に「おいしい」と言ってもらってうれしかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でやったという経験ができとてもうれしそうな表情が見られた。 ・自分で作る楽しさや、お家の人や先生方に喜んでもらううれしさを味わうことができた。 ・子どもたちが主体的に動くことができるよう支援してくださりありがたかった。 		

授業名	のこぎりを使って小物作りをしよう		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 4年1組	参加人数	35人
担当者	小林 利章	記入者	小林 利章
実施日(期間)	令和3年11月18日(木)		
講師名	NPO法人わおん 山田勇さん 山田直美さん 千明さん 吉沢さん		
実施概要	<p>図工「ギコギコクリエイター」という単元で、のこぎりを扱う学習の一環として実施。 初めてのこぎりを使い、木を切る体験をする子どもたちに、のこぎりの安全な使い方やコツを教えてもらい、切った木材で小物を作る活動を行った。</p>		
実施状況 (授業風景)	 <p>身近に生えている木を使って工作をすることやノコギリの使い方について説明をしてもらいました。みんな真剣に話を聞いていました。</p>	 <p>二人一組で協力しながら木を切りました。最初は、切るのも押さえるのも要領を得ず悪戦苦闘していましたが、だんだん上手に切れるようになりました。</p>	
	 <p>みんな一生懸命やすりがけをしています。荒いやすりから細かいやすりに替えて、次第にすべすべになる感触を楽しんでいました。</p>	 <p>枝と幹から一つずつキーホルダーを作りました。作品の写真のように、太い木を切ることができた児童もいました。</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、ノコギリを使ったのは、初めてでした。途中で、ノコギリが動かなくなって苦労しました。細い木は楽だったけど、太い木は堅くて、大変でした。 ・切り口を紙やすりでこすりました。切り口がすべすべして気持ちよかったです。 ・サクラの木は、太くて切りづらかったけど、切りごたえがありました。スギの木は、やわらかくて切りやすかったです。初めてノコギリを使ったけど、けがをせず、きれいにたくさん切れて良かったです。 ・ノコギリの使い方は、「わおん」の方がいいいに教えてくれたので、すぐに覚えました。切るのは、とても楽しかったです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何より安全面で、大勢の大人が指導に当たるので、安全性が高まり有難かった。 ・普段の授業だと、市販のキットの木材を利用するところだが、身近な自然(学校など)の木を用いて役立つ物を作ったので、自然が身近に感じられ、作品に愛着もわいたと思う。自然と関わり自然と親しむことは、自然の大切さや素晴らしさを体験的に感得することができ、環境問題に取り組む前段階で必要なことだと思う。 		

授 業 名	のこぎりを使って小物作りをしよう		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 4年2組	参加人数	36人
担当者	西沢 博美	記入者	西沢 博美
実施日(期間)	令和3年11月17日(水)		
講師名	NPO法人わおん 山田勇さん 山田直美さん 千明さん 吉沢さん		
実施概要	【番号：24 - 1】と同様		
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>のこぎりの使い方の説明を聞いています。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>いろいろな木がある中から自分の切りたい木を選んでいきます。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>押さえる人と切る人で、二人一組になって木材を切っています。手が疲れたら、友達と交代しながら、協力して切っています。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>できあがった小物です。木の皮をボンドでつけて、工夫しました。ほかの児童も、世界に一つだけのキーホルダーが作れて、満足していました</p> </div> </div>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木や枝が、太いものから細いものまでいろいろありました。太い木を切ることに挑戦できてよかったです。 ・キーホルダーが作れて楽しかったです。お守りを作ったので、自分のリュックにつけたり、家にかざったりしたいです。 ・もっと時間があれば、もっと木を切って、絵を描いていたかったです。2時間もあったのに、あっという間でした。 ・最初はコツがつかめませんでした。でも教えてもらって、コツをつかみました。のこぎりを使うことは初めてだけれど、しっかり木を切ることができました。 ・最初は怖くてできなかったけれど、どんどん慣れてきて、最終的に「切るの上手だねえ。」と言われてうれしかったです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭ではのこぎりを使うこともなかなかないお家も多い中で、たくさんの種類の木を用意していただき、無心になって木を切るという体験ができてよかったです。また、多くの人に関わっていただき、切り方を教えてください安全に気を配ってくださったりして、ありがたかったです。 		

授業名	のこぎりを使って小物作りをしよう		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 4年3組	参加人数	36人
担当者	西沢 博美	記入者	西沢 博美
実施日(期間)	令和3年11月17日(水)		
講師名	NPO法人わおん 山田勇さん 山田直美さん 千明さん 吉沢さん		
実施概要	【番号：24 - 1】と同様		
実施状況 (授業風景)	 <p>のこぎりの使い方の説明を聞いています。</p>  <p>押さえる人と切る人で、二人一組になって木材を切っています。</p>  <p>白樺の木に挑戦しています。のこぎりの使い方にもだいぶ慣れてきました。</p>  <p>できあがった小物です。子どもたちも大満足でした。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめはのこぎりで木を切るのがこわかったです。でも、だんだん慣れてきて木を切るのが面白くなりました。 ・堅い木に挑戦してみました。大変だったけど切ることができてよかったです。 ・枝をたたいてみるといろんな木の音がしておもしろかったです。 ・堅い木や柔らかい木があって面白かったです。堅い木は切るのが大変だったけど切れると達成感がありました。 ・自分の切った木でキーホルダーを作ることができてよかったです。かわいいキーホルダーができました。 ・切ってもらった校庭の木や枝でキーホルダーが作れてよかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り始めた当初は恐々としていた子どもたちも、一生懸命木を切る姿が見られた。自分が切った木にやすりをかけ、絵を描くことで自分のオリジナル作品ができ、子どもたちはとても満足していた。 ・打ち合わせの際に、使用するのこぎりを見ていただき、目立てが必要と判断し、40本目立てをしていただいた。そのため、子どもたちの枝を切る活動がスムーズにでき、ありがたかった。 		

授業名	のこぎりを使って小物作りをしよう		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 4年4組	参加人数	35人
担当者	押野 寛明	記入者	押野 寛明
実施日(期間)	令和3年11月18日(木)		
講師名	NPO法人わおん 山田勇さん 山田直美さん 千明さん 吉沢さん		
実施概要	【番号：24-1】と同様		
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>のこぎりの使い方を実演してもらい、道具の扱い方や切る時のコツなどを学びました。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>押さえる人と切る人で、二人一組になって木材を切っています。押さえ方も切り方もだんだん上達しました。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>切った材料の切り口などを、紙やすりで磨き、絵などをかきやすくしています。紙やすりの粗さを使い分けて、根気よく磨いていました。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>切り終わった小物に目を付け、絵を描くこともして作品を仕上げていきました。</p> </div> </div>		
授業について	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・最初は怖いと思っていたけれど、切り方を教えてもらうなどしたので、だんだんできるようになって木を切るのが楽しかった。 ・木の音が高いと堅い木だとわかったり、木の表面を見れば種類がわかったりするの面白いと思った。今回は堅い木は切れなかったけれど、どれくらいちがうのか切ってみたいと思った。 ・木の枝で、いろんなポーズや表情ができたから、友達の作品を見るのも楽しかった。 ・校庭の木や枝でキーホルダーが作れてよかった。家でものこぎりを使って木を切って、ペン立てなどを作りたいと思った。 2 先生方の感想、要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・初めてのこぎりを使う子が半数以上いたが、大勢の目で見ることができ、安全にできることはありがたい。助言をしてもらったことで、次第に要領を得たり、コツをつかんだりして、楽しく活動していた。同じような材料から、子どもの見立てや工夫でみんな違う作品ができ上がり、とても満足していた。友達の作品にも関心をもって見合っていた。 ・打ち合わせの際に、使用するのこぎりを見ていただき、目立てが必要と判断し、40本目立てをしていただいた。そのため、子どもたちの枝を切る活動がスムーズにでき、ありがたかった。 		

授 業 名	上高地源流見学		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 3年1組	参加人数	33人
担当者	小松 正	記入者	小松 正
実施日(期間)	令和3年10月28日(木)		
講師名	合同会社リトルピークス 小峰邦良さん 他8人		
実施概要	<p>梓川の源流と同等な上高地の清水川の源流や水殿ダムの見学を通して、身近な梓川の源流が上高地にあることを知る。また、同じ川でも、それぞれの場所で、流れや色、ゴミの有無、生物などに違いがあることに気付き、梓川への愛着を深め、環境保全の意識を高める。</p>		
実施状況 (授業風景)	  	<p>川の外側は削られる。内側は土砂が堆積していく。梓川は大雨のたびに流路を変える暴れ川であった。河岸段丘もこうしてできた。</p> <p>岩盤の割れ目などからしみだした水が集まって川になっていく。清水川の水の透明度は極めて高い。</p> <p>上高地の美しさを世に広めてくれた先人のエピソードを話してくれた。</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上高地の梓川は、幅が太いところもあれば細いところもあった。岸の砂が白色だった。きれいな石がいっぱいあった。白い色の石もあったし、普通の黒い石もあった。川の水はすごく冷たくてきれいだった。水が透き通っていた。川の始まりのところが、とてもいいにおいだった。 ・清水川の始まりを見て、「こんなところから始まっているんだ」と思った。たくさんの石や崖の隙間から水が染み出しているのを見て、私はもっと川の始まりについて勉強したいと思った。波田の梓川と比べて、上高地の梓川はとてもとてもきれいに見えた。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波田を流れる梓川の大元を自分たちの目で確かめられたことは大変意義深いことであったと思う。見学地の要所要所で、子どもたちにとっても分かりやすく説明していただき、子どもたちも熱心に聞いていた。上高地の自然の美しさも梓川のきれいさも今後もずっと続いていくように願いたい。 		

<p>授 業 名</p>	<p>上高地源流見学</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立波田小学校 3年2組</p>	<p>参加人数</p>	<p>31人</p>
<p>担当者</p>	<p>木下 靖之</p>	<p>記入者</p>	<p>木下 靖之</p>
<p>実施日（期間）</p>	<p>令和3年10月28日(木)</p>		
<p>講師名</p>	<p>合同会社リトルピークス 代表 小峰邦良さん 他8人</p>		
<p>実施概要</p>	<p>【番号：25 - 1】と同様</p>		
<p>実施状況 (授業風景)</p>	<div style="display: flex; flex-direction: row;"> <div style="flex: 1;">     </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>はじめは水殿ダムでダムの役割について教わった。ダムでは水力発電を行っており、東京に送られていることやダムに水をためて川の水量を調節し、下流が氾濫しないように町を守っていることを知った。</p> <p>上高地に着き、波田の町とは違う気温や空気を感じ、楽しく歩き進めた。途中でウエストーン碑に寄り、上高地の歴史をガイドさんから教えていただいた。</p> <p>河原まで降り、実際に川の水温を確かめたり、河原の石や砂に触れたりしながら、下流の梓川とは違う様子を感じ取っていた。川の色や鮮やかな紅葉、雪が降り積もった雪山に感動しながら、上流へ向かって歩いた。</p> <p>清水川の透明さに驚き、川の水をくんだり、飲んでみたりして、上高地の川のすばらしさを体全体で感じ取った。</p> </div> </div>		
<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までさわっていた砂よりもとてもさらさらでおどろきました。 ・川は流れの速いところと遅いところがあった。すごく冷たくて、川に太陽が当たると反射してまぶしかった。いつもの川よりきれいだった。 ・川の水の色は深さによって違います。水が深かったら、水色になり、浅かったら茶色になります。石が黒色だったら、水の色は緑色になります。このように、水の色は深さや石の色によって、水の色は違くなります。 ・上高地は今も昔もすごく大切にされている。ゴミを流したり、植物をむやみにとったりしてはいけない。 ・ダムで電気を作っていたなんて知らなかった。 		

	<p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>現地のガイドさんのお話を通して、子どもたちは自然の素晴らしさを体感するとても貴重な機会となった。私たちの町にはこんなに素晴らしい場所があるということを誇りに持ち、梓川、波田の町を大切にしていける思いをもつことができたように思う。このような経験を子どもたちにさせることができ、感謝いたします。</p>
--	--

環境教育支援事業実施報告書

【番号：25 - 3】

授 業 名	上高地源流見学		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 3年3組	参加人数	34人
担当者	山村 南	記入者	山村 南
実施日(期間)	令和3年10月28日(木)		
講師名	合同会社リトルピークス 代表 小峰邦良さん 他8人		
実施概要	【番号：25 - 1】と同様		

実施状況
(授業風景)



水殿ダムでは、とても大量の水がたまっていることに驚いていた子どもたち。のぞき込んで、ゴミや木が流れついていることにも気がついていました。

お話の中では、「ダムによってなくなった町もあるけれど、このダムのおかげで私たちが今、安心して安全に暮らせているんだ」ということがわかるお話をしてくれました。



ウェストン碑の前では、上高地を見つけ、広めてくれた先人の話しをしてくれました。



梓川の河原では、川の水を触りながら、何度くらいだと思いか子どもたちと一緒に考え、山の水が冷たい事も感じさせてくれました。



穂高連邦を目の前に、こんなに山の上まで梓川がずっとつながっていることを感じ、清水川では源流が湧き出る始まりの場所まで案内していただきました。自然の美しさを感じさせていただきました。

授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期に自分たちが遊んだ梓川が、まさか上高地のこんな山の上からつながっているなんてびっくりしました。 ・ 初めて上高地に行ったけれど、水もきれいで山も紅葉がとてもきれいだったので気持ちがよかったです。自然はいいなと思いました。今度は家族と行ってみたいです。 ・ 上高地の水がこんなにきれいだとは思いませんでした。ペットボトルに水をくんでみたら透明で、そのまま飲みたくなりました。家に帰ってその水をわかしてカフェオレを飲みました。おいしかったです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>自分たちのふるさとは、こんなにも美しい自然があることを子どもたちが肌で感じる事ができ、環境を守りたい、自然を大切にしたいという心が育まれたように思います。とても良い学習ができました。ありがとうございました。ここからさらに、総合的な学習の時間を使いながら、自分たちにできることは何か考え実際に行動にうつす姿が見られたらいいなと思います。</p>
--------	---

環境教育支援事業実施報告書

【番号：25 - 4】

授業名	上高地源流見学		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 3年4組	参加人数	31人
担当者	御子柴 瑞恵	記入者	御子柴 瑞恵
実施日(期間)	令和3年10月28日(木)		
講師名	合同会社リトルピークス 代表 小峰邦良さん 他8人		
実施概要	【番号：25 - 1】と同様		
実施状況 (授業風景)	  	<p>はじめに水殿ダムを見学し、梓川の水が水力発電にも使われている様子を見た。また、ダムは発電だけではなく治水の役割もあることも知る。ダムがあるおかげで人間は安全で便利な暮らしができているが、自然や生き物にとってはどうなのか、考えさせられる話もあった。</p> <p>上高地につき、梓川沿いに上流に向かって歩きながら、川の様子を観察した。子供たちは、水の色の違いや景観の美しさに驚きの声をあげていた。</p> <p>途中ウエストーン碑に寄り、この上高地の歴史についての話も聞いた。</p> <p>河原におり、実際に水に触れ温度を確かめたり、石や生き物について見たりした。波田周辺と比べ、水温、水の透明度、流れの速さ、石の形など様々な点で違いを感じていた。</p>	

		<p>清水川沿いを歩き、水の流れや音を聞きながら源流を確認した。</p>
<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上高地の梓川は水がエメラルドグリーンで、こんな川の色を見たのは初めてだったので驚きました。波田の近くの梓川とは色が全然違いました。色だけじゃなくて、流れの速さとか温度も違いました。川の色が違うのは、底の石に光が反射するからだと言われてもらいました。でもそれだけ水が透明じゃないとできないことだと思うから、すごいと思いました。 ・清水川もすごくきれいでした。家で持ち帰った清水川の水を飲んだら、すごくおいしいと思いました。飲めるってことはそれくらいきれいだったことだと思います。 ・ダムはすごく迫力がありました。ダムはタービンで発電して、東京まで電気を送るなんておどろきました。 ・ガイドの方が色々教えてくれました。おもしろい話や知らないこととかをいっぱい教えてもらえてよかったです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>専門の知識を持ったガイドの方に様々な視点から話をしていただき、梓川や上高地について知識を深めることができた。子どもたちの質問にもユーモアを交えながらも丁寧に答えてくださり、分かりやすかった。子どもたちは梓川の美しさに驚き感動もしていた。この美しい環境を誇れる気持ちを感じていた子どももいるので、今回のプログラムを実施できたことに感謝いたします。</p>	

授 業 名	「大河の一滴」スライドショー		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 3年1組	参加人数	34人
担当者	小松 正	記入者	小松 正
実施日（期間）	令和3年10月22日（金）		
講師名	合同会社リトルピークス 小峰邦良さん		
実施概要	<p>上高地源流見学に向けて、リトルピークスの小峰さんに「大河の一滴」の授業をしていただいた。川の始まりの一滴はどこからやってくるのか、その一滴が集まってやがて海へつながっていくこと、川の水をどのように守ったらよいかなどを教えていただいた。また、身近な梓川に愛着を持てるような話もしていただいた。</p>		
実施状況 （授業風景）	  	<p>槍ヶ岳などの梓川の上流部に降った雨や雪の一滴一滴が集まり梓川となる。梓川がどんどん大きくなり、流れ下る。奈良井川と合流して犀川となり、やがて千曲川と合流して信濃川となり海へと注ぐ。</p> <p>梓川の水により、農作物がとれる。キノコや山菜がとれる。自然の恵みをたくさんいただいている。ところが、人間はゴミを捨てて汚してしまう。</p> <p>人工物を作って自然を壊してしまう。しかし、ダムのように必要な物もある。川をきれいにし、下流の人に渡そう。海の生物が、人間の捨てたゴミにより死んでしまうこともある。全ては繋がっている。</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とける しみこむ ながれるというのがよく分かった。梓川は何度か他の川と合流して流れていき、最後は信濃川になるということを学んだ。川は私たちにいろんな恵みをもたらしてくれるから、川は大切なんだと感じた。 ・ゴミによって生き物が死んでいることを知って、とてもかわいそうだと感じた。どうすれば川や海をきれいにできるか、魚が苦しまないように工夫をしたい。大人になって川のきれいな様子を私の子どもに見せたい。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海に水を運ぶのは川。川がいかに大切なものであるかが、3年生の子どもたちにもよく理解できたように思う。 ・昨今問題視されている海洋プラスチックゴミについても触れていただき、クジラやアザラシなどの衝撃的な映像は子どもたちの心に強く訴えるものがあった。今後も継続して環境について考えていく際の原動力となりそう。 		

授 業 名	梓川大好き 大河の一滴スライドショー		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 3年2組	参加人数	30人
担当者	木下 靖之	記入者	木下 靖之
実施日（期間）	令和3年10月22日(金)		
講師名	合同会社リトルピークス 代表 小峰邦良さん		
実施概要	【番号：26-1】と同様		
実施状況 (授業風景)		<p>槍ヶ岳などの山々に降った雨や雪の一滴が上流の川となり、他の川と合わさりながら、梓川となる。その後、犀川、千曲川と名前を変え、やがて海へとつながっていく。</p> <p>「好きな人と好きな場所で好きな仕事をする」この3つがあればお金が多少なくても幸せに生きて行くことができる。人生の中で、好きな人を見つけ、自分の居心地のよい場所で暮らし、好きなことを思いっきりやる。小峰さんの生き方に学ぶ。</p> <p>波田の町は昔、水害に遭ったという歴史がある。その歴史があったからこそ波田に暮らすわたしたちは安心して、豊かな生活を送ることができる。波田の文化を大切にこれからも守っていきたい。</p> <p>人間が川に捨てたゴミによって、生き物の住処が汚れてしまう。川や海の生き物たちがそのゴミを食べ、その生き物たちを食べることで人間が被害を受ける。人間がした行為はやがて自分たちのもとへ返ってくる。</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降った雪が溶けて、山や森の地面にしみ出す。それが集まって流れることで川になる。 ・水がないと、きのこや色々な葉ができなくなる。 ・あずみの3つのダムが壊れたら、人間が死んでしまう。 ・「最後の川を汚すとき、最後の魚を食べるとき、人間はやっと気づくだろう、お金は食べられないことに」という言葉が印象に残った。 ・海にいる魚よりプラスチックの方が重い。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川があることが当たり前だった子どもたちに、写真を中心にした興味を惹くスライドで、川は自然が作った素晴らしい産物だということが伝わったように思います。また、人としての生き方と環境教育を関連付けながらのお話は、川に対する見方が変わるものだったのではないかと感じました。いつもはノートをあまりとらない子も熱心にメモをとっていて、小峰さんの話し方、内容が心に響くものがあったのだと思います。とてもおもしろくて、熱いお話をありがとうございました。 		

授業名	梓川大好き 大河の一滴スライドショー		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 3年3組	参加人数	34人
担当者	山村 南	記入者	山村 南
実施日(期間)	令和3年10月22日(金)		
講師名	合同会社リトルピークス 代表 小峰邦良さん		
実施概要	【番号：26-1】と同様		
実施状況 (授業風景)	 <p>全てがその一滴から始まることについて話をしてくれました。</p> <p>私たち人間が捨てたごみやプラスチックが海の生き物たちに被害をもたらし、最後には私たち人間にかえってくる、ということについて話してくれました。</p> <p>水は私たちの生活や暮らしに、欠かせない大切な物であること、そして、身近にある梓川の素晴らしさを話してくれました。梓川を遊び場にして、みんなで守っていこうということにも触れてくれました。</p> <p>自分たちができることは何なのか、問いかけられたように思います。子どもたちはとても関心をもっていました。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梓川はとても大切な川ということが分かったから、大切にしたいと思った。 ・もしゴミを捨ててしまったら今日見た写真のように、自分のごみも魚やクジラがえさと間違えて食べてしまうかもしれない。だから、ペットボトルなどのプラスチックを捨てないようにしたい。 ・上高地の水も、梓川につながっているし、海までつながっているから、きれいな川を守りたい。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが親しみやすい話し方や問いかけだったため、スライドを見ながら興味津々で話しを聞く姿がみられてとてもよかった。 ・川や水、自然に対して、関心がわいてきた様子だった。 		

授業名	梓川大好き 大河の一滴スライドショー		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 3年4組	参加人数	32人
担当者	御子柴 瑞恵	記入者	御子柴 瑞恵
実施日(期間)	令和3年10月22日(金)		
講師名	合同会社リトルピークス 代表 小峰邦良さん		
実施概要	【番号：26-1】と同様		
実施状況 (授業風景)	 <p>檜ヶ岳などの山頂からの雪解け水が大河の一滴となり、やがて梓川へとつながる。その梓川が他の川と合流しながら海へとつながっていく。梓川で水遊びができたり、発電や農業用水に使われたりして生活を潤してくれる。</p>  <p>川の水が野山を潤し、様々な生き物が生活している。また、その恵みをいただいて、人間も生きている。</p>  <p>梓川は波田をぬけ、島内のあたりで奈良井川と合流し犀川になる。それはやがて千曲川、信濃川と名前を変えながら海までつながっている。</p>  <p>川を汚してしまうと、ごみが海まで流れ着き、海洋プラスチックとなってしまふ。それを生き物が食べてしまうこともある。海洋プラスチックの実物を見せながら説明をしてくださった。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 檜ヶ岳の雪がとけてそういう一滴が集まって川ができると初めて知りました。川のでき方がわかりました。 ・ 川の水の一滴が畑や田んぼにかかっているし、キノコが生えてきたりするから、水は大事だと思いました。 ・ 長野県にはきれいな川や山があることを知れてうれしかったです。外国の人も松本を知っているくらい、ここはいいところだと聞いてびっくりしました。 ・ 海にいっぱいごみがあって、クジラや鳥の口の中にプラスチックがいっぱいあってかわいそうでした。海の生き物よりごみの方が重くなる時がくるときいてびっくりしました。川も生き物もどうになってしまうのかと思いました。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大河の始まりから流れて海にそそぐ様子を様々な写真とともに話していたき、子どもたちもイメージができたようだった。身近な梓川は誇れる川であるから大切にしていきたいと感じられる内容でもあった。 ・ 梓川は生活とも密着していて、発電や農業用水に使われたり、海洋環境にも影響したりすることを教えていただきよかった。 		

授業名	自然の中で遊んで学ぼう！		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 まつかぜ1・2・3組	参加人数	17人
担当者	新村邦子 佐々木美幸 武井直子	記入者	新村邦子
実施日（期間）	令和3年10月8日（金）		
講師名	体験倉庫かけはし 藤村哲さん		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自然のものビンゴ ・やぎ・チャボとのふれあい ・水生昆虫を探す ・ツリーハウス体験 ・森の中で自然を感じる 		
実施状況 （授業風景）	 <p>自然にあるものビンゴ始めるよ！</p>	 <p>やぎさん、いっぱい食べてるね！</p>	
	 <p>虫、いるかな？</p>	 <p>ヤゴ見つけたよ！大きいね！！</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いているときは暑かったけれど、森に入ったら涼しかった。 ・やぎさんにクリをあげたら、ごりごり食べていておもしろかった。 ・大きなヤゴを見つけてうれしかった。 ・すごく小さいカニを見つけてうれしかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では体験できない活動をたくさんできて、とても楽しそうだった。 ・自分のあげた葉やクリの実をどんどん食べてくれることがうれしくて走ってクリを拾いに行く姿が印象的でした。 ・毎年行かせていただいている。今後も続けたい活動です。 		

授 業 名	水はどこから？		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 4年1組	参加人数	35人
担当者	小林 利章	記入者	小林 利章
実施日（期間）	令和3年7月2日（金）		
講師名	株式会社 環境技術センター 宮澤さん 味沢さん		
実施概要	<p>川の水を飲めるようにする浄水場や、汚れた水をきれいにして川に戻す下水処理場の働きについての学習をした。</p> <p>飲み水となるごく限られた水が、海から山へ、山から川、やがて海へと、何度も循環していることや、森林が長い時間をかけて水をきれいに行っていることなどの話を聞いたり、模型や実験を通して確かめたりした。山の性質によって水の成分や味に違いがあることを、利き水を通して体験した。</p>		
実施状況 (授業風景)	 <p>浄水場や下水処理、水の循環・森林の働きについての話を聞く。</p>	 <p>水が循環している様子を、模型の実験を見たり、書き込んだりして確認している。</p>	
	 <p>乾いた地面と湿った地面による水のしみこみ方の違いの実験をして見ている。</p>	 <p>ヨーロッパの水、北アルプスの水、波田の水道水を飲み比べて、味や硬度の違いを確かめた。</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水のおかげで、地球の環境が守られていることがわかった。すごい。これからも守れるようにしたい。 ・森と海をつなぐ川のおかげで、水が守られているとわかった。 ・森は、水をためられるなど、森や水の役割が分かってよかった。 ・水は、微生物を使って、人が手間暇かけてきれいに行っていることがわかった。 ・水は、木があってふかふかな土じゃないとしみ込まないことが分かった。水のじゅんかんが大事だと思った。 ・水には、軟水と硬水があって、水によって味が違うことがわかった。 		

	<p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の循環の様子や土の質による水のしみ込み方の違いなど、4年生の児童にとって難しい内容だったが、スクリーンの図や写真、よく工夫された実験装置により具体的かつ視覚的に分かりやすく説明していただいたので、内容の大部分を理解することができた児童が多かった。また、知識としていろいろな水があることを知っている児童だが、水の飲み比べによって、改めて水に違いがあることを実感させてもらえて良かった。 ・これから、人々が生きていく上で最も重要な問題の一つである環境保全について考えるよい機会を与えていただいたと思う。
--	--

環境教育支援事業実施報告書

【番号：28 - 2】

授業名	水はどこから？		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 4年2組	参加人数	36人
担当者	草間 睦実	記入者	草間 睦実
実施日（期間）	令和3年7月15日（木）		
講師名	株式会社 環境技術センター 宮澤さん 味沢さん		
実施概要、実施状況	【番号：28 - 1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・惑星のなかでも、地球は奇跡的に人が住める温度であり、水があることがわかった。 ・実験の装置や模型が手作りで、とても分かりやすかった。 ・汚れた水をきれいにする微生物の名前を知ることができた。 ・山の中のフワフワしめっている土が水にとってもいい土だと思ったから、山の森林を守りたい。 ・同じ水だけど、飲みやすい水とそうでない水があった。国の土の違いだと知った。やっぱり波田の水道水が一番おいしかった。 ・水も理科の実験みたいに調べることができて面白かった。 ・水を大切にしていきたいと思った。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に実験装置に触れ、体験を通して水のめぐりや森の大切さを学ぶことができた。 ・「水」といっても、地球上の奇跡の水、長い間かけてしみ出ている大切な水、浄水場、下水処理場、水の味など、多面的に考えられる貴重な学びとなった。 ・実験装置を手作りしていて、自分も作って実験してみたい、という意欲をもつ子もいて、興味を引きつける学習であったと感じた。 		



授 業 名	水はどこから？		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 4年3組	参加人数	36人
担当者	西沢 博美	記入者	西沢 博美
実施日（期間）	令和3年7月2日（金）		
講師名	株式会社 環境技術センター 宮澤さん 味沢さん		
実施概要、実施状況	【番号：28-1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・惑星のなかでも、地球は奇跡的に人が住める温度で、水があることがわかった。 ・実験の装置や模型が、とても分かりやすかった。 ・社会の授業でも習っていた、汚れた水をきれいにする微生物の名前を知ることができた。 ・山の中のフワフワしめっている土が水にとってもいい土だと思ったから、山の森林を守りたい。 ・同じ水だけど、飲みやすい水とそうでない水があった。ヨーロッパの水は苦かった。波田の水道水が一番おいしかった。 ・社会で勉強したことが詳しく知れた。水も理科の実験みたいに調べることができて面白かった。  <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の学習の前に、社会科で水の循環の学習を行った。事前学習もあったためか、4年生の児童にとって難しい内容だったが、スクリーンの図や写真、よく工夫された実験装置により具体的かつ視覚的に分かりやすく説明していただいたので、内容の大部分を理解することができた児童が多かった。また、知識としていろいろな水があることを知っている児童だが、水の飲み比べによって、改めて水に違いがあることを実感させてもらえて良かった。 ・これから、人々が生きていく上で最も重要な問題の一つである環境保全について考えるよい機会を与えていただいたと思う。 		

授業名	水はどこから？		
学校名、学年、学級	松本市立波田小学校 4年4組	参加人数	35人
担当者	押野 寛明	記入者	押野 寛明
実施日（期間）	令和3年7月14日（水）		
講師名	株式会社 環境技術センター 宮澤さん 味沢さん		
実施概要、実施状況	【番号：28-1】と同様		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな星がある中で、地球に水があるのは奇跡だということが心に残った。 ・地球にある水のうち、自分たちが飲んでいる水はたった0.01%しかないと知って、おどろいた。その水を大切に使っていないといけないと感じた。 ・水が何十年もかかって飲み水になり、それがまた時間をかけて回ってくるのが、模型を見たり書き込んだりして教えてもらい、よくわかった。水をなるべく汚さないようにしたい。 ・下水の処理では、汚れた水を食べてくれる微生物がいろいろいて、その働きできれいな水にして川に流しているんだと知った。下水処理場の見学が楽しみなった。 ・水にも味があって、外国など水の出てくる場所によってこんなにも味が違うなんてびっくりした。波田の水はおいしいと思った。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水が手軽に、あたり前に手に入る現状がどれだけ貴重なことなのかということを、様々な角度からの説明や模型を通しての実験によってわかりやすく示していただき、子どもたちの理解や環境に対する考えを深めることができた。 ・社会科の学習や海洋教育のまとめと合致していたこと、また、水の味を化学的に捉える活動もあり、とてもよかった。 		



授業名	リバーアドベンチャー		
学校名、学年、学級	松本市立安曇小学校 3・4学年	参加人数	5人
担当者	片桐 義和	記入者	片桐 義和
実施日(期間)	令和3年7月16日(金)		
講師名	リトルピークス 小峰 邦良さん		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドによる水の学習 ・川で安全に遊ぶための基礎的な歩き方等の指導 ・黒川・梓川・島々谷川の探検 		
実施状況 (授業風景)	スライドを使った水についての学習	川の探検の約束の確認	
			
	川を上っていく様子 その1	川を上っていく様子 その2	
			
	水生昆虫の観察	梓川を泳いで渡る	
			
梓川の河原を歩いて移動 その1	梓川の河原を歩いて移動 その2		
			
授業について	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・3つの川、それぞれ特徴が違って、黒川は森の中をきれいな水が流れている感じで細かい滝のようなところもあった。梓川は広いところを汚い水が大量に流れていて深くて足がつかないところもあった、流れは早いところもあったけど思っていたよりも遅かった。島々谷川は体が流される位の早さで狭いところを一気に流れていた。 ・体感的に川の違いを知ることができたようだった。 2 先生方の感想、要望等 <ul style="list-style-type: none"> 川が楽しいところだと感じる事ができた。また、幸いにも3つの河川がそれぞれ違う特徴を持っていて、それぞれの違いを体験を通して知ることができた。水生昆虫にも興味を持ってきたので、川の汚れによって住む生き物が違ってくことに学習を発展できそう。 		

授業名	飲める水を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立鎌田小学校 4年1組	参加人数	30人
担当者	菅原 京	記入者	菅原 京
実施日(期間)	令和3年11月25日(木)		
講師名	すえなみブッシュクラフト 末次さん 玉田さん		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・水の循環 ・ろ過器を作製して泥水をろ過し、きれいな水(飲める水)を作る。 		
実施状況 (授業風景)	<p>【5校時 講義】</p> <p>身の回りには、どんな水があるか。汚くてもきれいでも何でもよいのであげてみてください」と問われ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの水 ・天然水 ・雨水 ・泥水 ・プールの水 ・涙 ・湖 ・水たまり ・海水 ・水道水 ・川の水 ・森の水 など色々な意見を出す子どもたち。 <p>○これらの水を“飲める水”にするための方法を考えた。 「私たちは、飲めない水がんばって飲める水にしている。しかし、がんばらなくても飲める水に変えてくれる仕組みがある。それはどんな仕組みでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物 ・太陽 などと答えた子どもたち。 <p>○大地が雨水をろ過・蒸留して、きれいな飲める水が自然と湧いて出ることを教えていただいた。</p> <p>【6校時 実験】</p> <p>「山の構造をペットボトルで作ってみましょう。」</p>        <ul style="list-style-type: none"> ・ろ過で使う材料がわかったよ。泥水が本当にきれいになるのかな。 ・ろ過された水は飲めるのかな。どんな味がするのかな。 ・何回ろ過すれば、飲める水になるのだろう。 		

授業について

- 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等
 - ・人間が水を飲まないで生きられるのは72時間と聞いて、自然の中で水を探すことは大切と思った。
 - ・ろ過器を作る時に、燻炭をすりつぶすことに驚いた。
 - ・富士山に降った雨水が、地面を通過して海に出るまでに30年以上かかることがわかった。自然を大切にしたい。
 - ・山には、水をきれいにしてくれる微生物がいて、微生物のおかげで水がきれいになっていることがわかった。
- 2 先生方の感想、要望等

子どもたちは、浄水場の見学や理科「雨水のゆくえ」の実験を通して、水をより身近なものに感じ、水は私たちの生活に欠かすことのできない大切なものという意識を持っている。今回「大地が水を作る」話を聞いて、“自然はすごい。山にごみを捨てないようにして守っていききたい”と多くの子が感じていた。また、実験でろ過器を作り、泥水がろ過するたびに透明になっていく様子をじっくりと観察することができた。自分の目で見て、肌で触って、心で感じることでできる貴重な体験ができました。

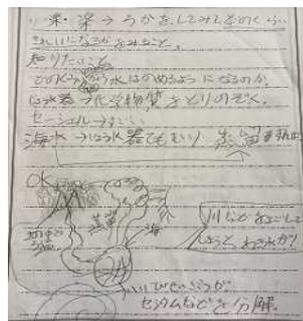
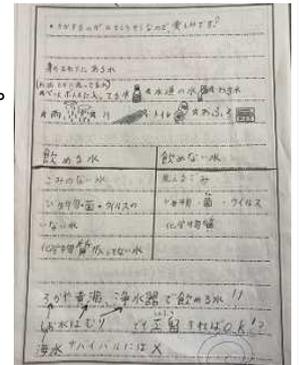
環境教育支援事業実施報告書

【番号：30-2】

授業名	飲める水を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立鎌田小学校 4年2組	参加人数	29人
担当者	竹村 由衣	記入者	竹村 由衣
実施日(期間)	令和3年11月18日(木)		
講師名	すえなみブッシュクラフト 末次さん 玉田さん		
実施概要	【番号：30-1】と同様		

実施状況
(授業風景)

【5校時 講義】
 「飲める水」と「飲めない水について」
 身の回りにある水を、飲める水と飲めない水に分類した。
 飲める水.....井戸水 お店に売っている水 水道水
 飲めない水...亀池の水 プールの水 見えるゴミがある水
 微生物や菌・ウイルスがいる水
 化学物質が入っている水
 濾過や煮沸・浄水をすることで飲める水に変わっていく。
 川などを汚してしまうと、湧水が汚れて飲めなくなる。



ガソリンが入っている水はどんなことをしても飲める水にはならない。海水は、蒸留しないと身体から水分が減っていく。自然を壊してしまうと、飲める水が減ってしまう。湧水は、自然が蒸留と濾過をしているからきれいな水になる。



【6校時 実習 濾過器作り】



もみ殻燻炭を細かくつぶして敷きつめる。「なるべく細かくつぶしたほうがいいね。」

その上に川砂をいれてめんぼうで押し込み、燻炭や砂が上がってこないように砂利を入れる。



でき上がったろ過装置に泥水を入れて、水が出てくる様子を観察する。「これで透明になるの？」

「透明な水がでてきた！」
 「自分たちでも濾過をすることができるんだね。」
 「これを自然がやってくれているんだ。」



授業について

- 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等
 - ・ろ過装置を作るときが楽しかった。最初の1滴が出たときはとてもうれしかった。
 - ・自然が水をきれいにしていたなんて知らなかった。
 - ・理科でやったときよりも透明な水になった。
 - ・飲めない水は色々なことをしないと飲める水にならないことが分かった。
 - ・飲めない水を飲めるようにするにはたくさんの手段があることを知った。
- 2 先生方の感想、要望等

自然の浄水の仕組みを理解したことで、実際に湧水に興味をもっていた。自然を大切にしようとする気持ちや新たな課題が生まれ、今後の学習につながった。

環境教育支援事業実施報告書

【番号：30-3】

授業名	飲める水を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立鎌田小学校 4年3組	参加人数	30人
担当者	高田 美和	記入者	高田 美和
実施日(期間)	令和3年11月18日(木)		
講師名	すえなみブッシュクラフト 末次さん アシスタント玉田さん		
実施概要	【番号：30-1】と同様		
実施状況 (授業風景)	<p>【3校時 講義】</p> <p>「飲める水」と「飲めない水」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある水を、飲める水と飲めない水に分類してみる。 		

- ・「飲めない水」とは
見えるゴミが入っている水
見えない 生物、菌、ウイルスなどが含まれる水
科学物質（農薬、合成洗剤、放射性物質など）が含まれる水
海水
- ・これらを「飲める水」に変えるには、ろ過、煮沸、蒸留などが必要。
- ・でも、大地はこれを行ってくれている。結果、川の水・湧き水などになる。



これまで、2回の湧き水巡りに行き、水に興味をもっている子どもたち。

- ・「わき水は、どこを通ってくるのですか？」 「一部わかる場所もあるが、ほとんどがわからない。」
- ・地球上にはまだわからないことがたくさんあるんだな。

- ・わきだしてくるには、30年くらいかかる（こともあるらしい。）長い時間をかけて、色んな所を通ってる過され、きれいな水になって湧き出してくる。

【4校時 実習】



ろ過器

- ・もみ殻燻炭を麵棒でつぶす+もみ殻燻炭を麵棒でつぶす+川砂を入れてつぶす+浮かないように砂利を入れる。

ここに泥水を入れる。



- ・理科「雨水のゆくえ」で粒が大きいより、粒が小さい方が水がきれいだったので、たくさんつぶしたほうがいいのかと思って、粒が小さくなるようにした。すごく汚い泥水を入れたのに、きれいな水になってびっくりした。



「泥水がきれいになるのかな。」
「どんな水が出てくるかな？」

「自分たちでろ過器ができるんだな。」



授業について

- 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等
 - ・大地が人の手を使わずにろ過することがすごいと思った。
 - ・何度も繰り返してろ過したら、どんどん水がきれいになって飲んでみたくなった。
 - ・自分たちが作ったろ過装置で、きれいな水ができてびっくりした。

	<p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>社会「浄水場」、理科「雨水のゆくえ」や総合「松本わき水巡り」などで、水に親しみ、興味をもっていたが、「ろ過装置」できれいな水を作ることができること（浄水場も同じようにろ過している）、「大地（自然）」が飲める水を作り出す仕組みをもっていることを教えていただき、今までの学習が繋がって、理解が深まった。</p> <p>特にわき水に関してはまだ疑問がたくさんあるが、末次さんのお話の中で「わからない」ことがあることを教えていただき、今後の学習の中でも解決できないこともあるということを知ることができた。</p>
--	---

環境教育支援事業実施報告書

【番号：30-4】

授業名	飲める水を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立鎌田小学校 4年4組	参加人数	30人
担当者	小林 明人	記入者	小林 明人
実施日（期間）	令和3年11月18日（木）		
講師名	すえなみブッシュクラフト 末次さん 玉田さん		
実施概要	【番号：30-1】と同様		

実施状況
(授業風景)

【1校時 講義】

講義の時間には、人が生きるために水は不可欠であるという話から身の回り
にある水について考えた。児童からは、

- ・川の水 ・売っている水 ・泥水 ・海水 ・亀池の水 ・プールの水
- ・下水 ・雨 ・水たまり

などが挙がり、様々な水があることを確認した。その中でも飲めない水につ
いて、飲めない水を飲めるようにするためには煮沸や蒸留、浄水器に通すな
ど、ろ過することが必要であると学んだ。

また、ろ過は人工的に行うものだけでなく、水が山や大地の中を通る中で自
然と行われることもあると教えていただいた。



講義後の休憩時間には、末次さんが用意
してくださった本や器具に集まり、興味
を持ってみている児童が多かった。



【2校時 実験】

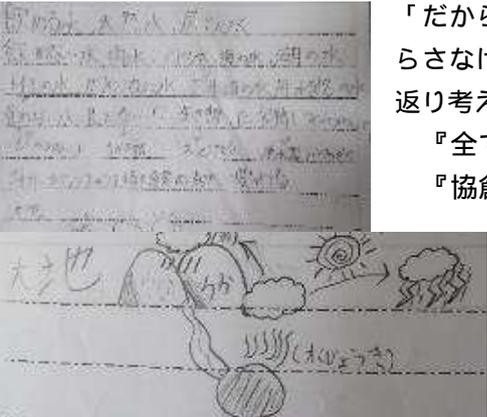
2時間目にはペットボトルを使ったろ過機を製作した。
もみ殻燻炭を入れてつぶす 川砂を入れてつぶす 砂利を入れる
という手順で制作し、泥水を入れてろ過の様子を観察した。



	<p>児童はきれいにろ過させるために、「このくらいやればいいかな。」「もっと潰しておいたほうがいいんじゃない?」ともみ殻燻炭や川砂の粒の大きさをよく観察しながら懸命に炭や砂をつぶしていた。泥水を注いだ後は、落ちてくる水の色や速度を気にしながら、ろ過の様子を観察した。観察の際には「けっこう時間がかかるんだね。」「細かくしたからじゃない?」「ちょっときれいになってる。」「本当だ、すごい!」などの声が上がっていた。</p>
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは材料を入れればよいと思っていたけれど、よくつぶしたりする工夫が必要だった。 ・ろ過は大変だと思っていたけれど、身のまわりの物でできるとわかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>これまでに鎌田地区の川の生き物や川がどこからきて、どこに続いているのかを学習し、水を含む自然を守っていく大切さを学んできた子どもたちだが、今回の「汚れた水を自分たちの手でろ過する」活動を通して自然を大切にすることをより身近なものとして育むことができた。また、授業後にろ過された水がまだ少し濁っていたため、何度か繰り返すろ過をするうちにきれいな透明の水が現れるようになった。このことから「ろ過ってすごいんだね」、「うちでもやってみよう」と水に対する興味が増した児童もあり、とても良い学びになった。</p>

環境教育支援事業実施報告書

【番号：30-5】

授業名	飲める水を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立鎌田小学校 4年5組	参加人数	28人
担当者	笠原 愛	記入者	笠原 愛
実施日(期間)	令和3年11月25日(木)		
講師名	すえなみブッシュクラフト 末次さん 玉田さん		
実施概要	【番号：30-1】と同様		
実施状況 (授業風景)	<p>【講義編】：「自然の中の水の循環はどうなっているのか?」</p>  <p>子どもたちからは、「飲めない水から飲める水までどうなっているのか?」、「どうやってどろ水がきれいになるのか知りたい」、「ペットボトルを使って、泥水がきれいな水になるのか見てみたい」などの興味関心や疑問を持ち、自然の中の水の循環について学習をした。</p>  <p>「だから、水が土の中に行くのか」、「ごみを減らさなければいけない?」など、日常生活を振り返り考えることができた。</p> <p>『全ては学びに』 『メモをとる』 『協創する』が大事</p> <p>と聞くと、子どもたちは、さらにやる気になり、メモをとったり、真剣に話を聞いたりしながら、聞かれたことや考えることをグループで話しあっている姿が随所にあった。</p>		

【実験編】：「飲み水を作ってみよう」



休憩の時間には、自分たちが疑問に思っていたことを質問にいたり、装置を眺めて、はやく実験をしたいという気持ちを高めたりしていた。

ろ過装置で、実際に泥水を入れて、どのくらいきれいになるのか、グループごとにいよいよ実験。

講師の Q ちゃんさんのお手本をしっかり見ながら、グループごと協力してきれいな水を抽出しようと実験を開始。

「もっと、ぎゅうぎゅうに詰めた方がきれいになるのかな?」、「本当にこれでいいのかな?」、「墨がそのままじゃうんじじゃないのかな?」などと、実験装置を作る時、疑心暗鬼になっていた子どもたちも、グループの中で確認しながら、そして、講師の先生方に聞きながら、どんどん実験装置を作ることができた。



想像していた色よりも薄い色が出てきて驚いている様子。何度も、ろ過した水をろ過装置に通していくと、どんどん透き通った色に水が変わってきました。「すごっ!!」、「きれいになってきた!!」と、自分たちの装置を通して、泥水がきれいになる様子を見ながら自分の目で確かめていた。



最後に、子どもたちは、『大地が水を作っている!!』と、感想に書いてた。豊かな水のある松本市で、水について触れることができた2時間となった。



授業について

- 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等
 - ・だんだん水がきれいになっていくのが、おもしろかった。
 - ・グループで協力してやれて楽しかった。実験が成功してうれしかった。
 - ・完全にきれいにはならなかったけど、たくさん学べたし知りたいことが知れてよかった。
- 2 先生方の感想、要望等
 - ・内容も理科や社会で学習したことを踏まえて取り組むことができ、子どもたちが意欲的に取り組んでいた。
 - ・先生方のおかげで、貴重な体験をすることができました。
 - ・子どもたちの感想には、楽しかった気持ちやうれしかった気持ちが存分に表れていました。ありがとうございました。

<p>授業名</p>	<p>木の授業とバウムクーヘンづくり</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立梓川小学校 5年1組、2組、3組、4組</p>	<p>参加人数</p>	<p>136人</p>
<p>担当者</p>	<p>守矢 久美 沼尾 浩輝 沖 拓実 江口 友希</p>	<p>記入者</p>	<p>沼尾 浩輝</p>
<p>実施日(期間)</p>	<p>令和3年10月6日(水)、7日(木)</p>		
<p>講師名</p>	<p>寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん</p>		
<p>実施概要</p>	<p>木の年輪、間伐についての話 実習(バウムクーヘンづくり)</p>		
<p>実施状況 (授業風景)</p>	<p>木の話(年輪について) 木の年輪ができる仕組みや年輪の見方、年輪の間隔を見るとその時代の気候などが分かることについて教えていただいた。</p>  <p>木の話(間伐について)</p> <p>木の間伐をする理由について、子どもを木に見立てて教えていただいた。また、間伐した木の利用についても話をしていただいた。</p>  <p>実習(バウムクーヘンづくり)</p>  <p>講師の方に手伝っていただきながら材料を混ぜ合わせた。</p>  <p>竹に材料をかけていただき、自分たちで竹を回転させながら焼いていった。その工程を繰り返していき、年輪のように少しずつ厚くしていった。多い児童で10回程度繰り返していた。</p> 		
<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木に年輪があることは知っていたけど、年輪で木の年が分かったり、その時代のことが分かったりするのすごいと思った。 ・間伐することに意味があると知ってびっくりした。 ・バウムクーヘンがこうやって作られていることを初めて知ったし、穴が空いている意味も分かった。 ・楽しみながら作れてよかったし、とてもおいしかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年輪があること自体は知っている児童も多かったが、年輪のでき方や見方は知らない児童がほとんどであったため、勉強になった。 ・バウムクーヘンという、木の年輪のでき方を学習しながら、楽しめる活動はとてもありがたかった。 		

授 業 名	ヤギの小屋を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 3年2組	参加人数	37人
担当者	町田 都	記入者	町田 都
実施日(期間)	令和3年7月20日(火)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木さん(他3人)		
実施概要	ヤギの小屋を作ろう～長さを測って、木材を切ろう～ グループに分かれ、木材の長さを測り協力して安全に気を付けて木を切った。		
実施状況 (授業風景)	<p>1 教室で、講師の先生方の自己紹介と作業の説明を行いました。</p> <p>2 3グループに分かれて、作業を進めました(石廊下)。1グループに先生がおひとりずつついてもらい、作業を開始しました。まず、をもって木に合わせて2mの長さを測り、印をつけました。</p>  <p>次に、印に合わせてノコギリを使って交代で木を切りました。切る人、押さえる人を分担して、活動しました。講師の先生が安全に切ることができるようにアドバイスをしてくれました。</p>  <p>3 講師の先生方へのお礼と学習のまとめ 各グループの活動が終わると、教室で振り返りを総合の学習カードに書きました。活動の様子の絵と感想を書きました。</p>  <p>4 最後に講師の先生方にお礼を言って本日の作業を終わりにしました。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 初めてのノコギリ体験でしたから、わくわくしながらも慎重に安全に気を付けて作業をしようという気持ちをもっていったようです。 <u>子どもたちの感想から</u> (Aさん)のこぎりは難しいと思ったけど、いがいとかんたんだった。二回目は手がいたくなりました。ヤギ小屋が早く完成するとうれしいです。 (Bさん)木を切ったすぐにおいをかいでみたら木のいいにおいがして、さわってみるとザラザラだった。やすりでみがくと真っすぐになった。 (Cさん)はじめてのこぎりをしたけれど楽しかったです。切った音はギコギコでした。においはしぜんの木のにおいでした。力を合わせてりっぱな小屋を作りたいです。 (Dくん)ぼくは、のこぎりで木を切って引く時力が入りました。においは、いいにおいでした。</p> <p>2 先生方の感想、要望等 大変よく面倒を見て丁寧に教えていただきました。元気のよい児童3人を助手に任命し、ずっと手伝いを頼んで作業をさせていただき、本人たちもとても満足して活動することができました。ノコギリがはじめての子どもたちも様子を見ながら協力して切る活動ができ、教室が近かったため作業する子だけが外で活動できたので暑さ対策にもなりました。 次回も同様に小グループで丁寧に見守っていただきながら活動に参加できるとありがたいです。</p>		

授業名	ヤギの小屋を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 3年2組	参加人数	37人
担当者	町田 都	記入者	町田 都
実施日（期間）	令和3年9月17日（金）		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木さん（他3人）		
実施概要	切った木を組み合わせて、小屋の形を作り、くぎ打ちをして小屋の壁や扉、ヤギの寝床を作る。		
実施状況 （授業風景）	<p>1 あいさつ、作業の説明</p>  <p>2 小屋作りは、四隅の柱をたて、固定するための横材を止めて、頑丈にする。</p> <p>柱をおさえて、金具にくぎを打ち込んで固定する。みんなで押さえて協力して作業をした。</p> <p>3 ヤギの寝床づくり</p> <p>ヤギの大きさを考えながら、寝床を作った。木を切り、高さを合わせてくぎを打ち、最後にやすりできれいに磨いた。</p> <p>ヤギの足が入って落ちないように、幅や大きさを考えながら、木を置いて打つようにした。</p>    <p>小屋を頑丈にするため、斜めに固定する木を打ち込んでいるところ。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小屋らしくなってきたことがうれしいと感想を寄せていた。 ・寝床を作ったグループは、たくさん木を切ったり、磨いたりしてヤギがそこでくつろいで寝ることを想像しながら作ることができたようだ。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて、くぎ打ちや木を切る活動になれてきた様子うかがえた。たくさんの方が協力してくださったので、安心して見守ることができた。 ・待っている間も、タブレットでヤギについて調べる活動をしていたので、より興味をもって取り組めた。 ・鈴木さんたちと関わることがとても楽しみになっている子どもたちなので、本当にありがたいと感じている。 		

授業名	ヤギの小屋を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 3年2組	参加人数	37人
担当者	町田 都	記入者	町田 都
実施日(期間)	令和3年9月28日(火)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木さん(他4人)		
実施概要	切った木を組み合わせて、小屋の形を作り、くぎ打ちをして小屋の壁や扉、ヤギの寝床をさらにしっかり作る。		
実施状況 (授業風景)	<p>1 あいさつ、作業の説明</p> <p>2 小屋作りは、四隅の柱を固定するための横材を止めて、さらに頑丈にする。 柱をおさえて、金具にくぎを打ち込んで斜めや、横も固定する。みんなで押さえて協力して作業をした。</p>   <p>立てた柱をさらに固定するためにすぐ隣に短い木を固定しているところ。作業もなれた手つきになってきた。</p> <p>3 寝床作り</p>  <p>前回切っておいた木を並べて、しっかり固定しながらくぎを打ち込んだ。作業も慣れてきて、幅を確認しながら行っていた。</p> <p>できた寝床を、実際に小屋の中においてどのようなようになるかを確かめていた。みんなで協力して運び、置いた時には歓声が上がっていた。</p> 		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入口の戸が付いたので、ここからヤギが出入りするね、とうれしそうに開けてみている。 ・寝床を作ったグループは、ヤギが触ってもいたくないようにしっかり磨く様子が見られた。みがくやすりを借りたので、後もたくさん磨いて「さわって」とつるつるになった様子をととても喜んでいて。 ・実際に寝床を小屋の中に置いてみると、とてもしっかりしていたので、とてもうれしそうだった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせをしっかりとっておいたので、何をどのようにやるか見通しを持って活動ができた。 ・寝床の作業をした子たちがとても満足していたので、良い活動になったと感じている。 ・高い所の木を支えることはできたが、打ち込むことは難しかったので、大人の手があり助かりました。 		

授業名	ヤギの小屋を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 3年2組	参加人数	37人
担当者	町田 都	記入者	町田 都
実施日(期間)	令和3年10月12日(火)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木さん(他3人)		
実施概要	切った木を組み合わせて、小屋の形を作り、くぎ打ちをして小屋の壁や扉、ヤギの寝床、餌台を作る。		
実施状況 (授業風景)	<p>1 あいさつ、作業の説明</p>  <p>2 小屋作り担当は、さらに横材を打ち付けて頑丈に固定する。</p> <p>柱を横や斜めにわたして、おさえてくぎを打ち込んで固定する。みんなで押さえて協力して作業をした。</p> <p>3 ヤギのえさ台作り</p> <p>ヤギの大きさを考えながら、えさ台を作った。サイズを測って木を切り、高さを合わせてくぎを打ち、最後にやすりできれいに磨いた。</p>  <p>ヤギの体に合わせて幅や大きさを考えながら、木を切り、くぎを打つようにした。</p>  <p>小屋を頑丈にするため、斜めに固定する木をしっかりと打ち込んでいるところ。</p> 		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小屋らしくなってきたことがうれしいと感想を寄せていた。 ・寝床を作ったグループは、たくさん木を切ったり、磨いたりしてヤギがそこでくつろいで寝ることを想像しながら作ることができたようだ。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>【番号：32-2】と同様</p>		

授業名	ヤギの小屋を作ろう		
学校名、学年、学級	松本市立梓川小学校 3年2組	参加人数	37人
担当者	町田 都	記入者	町田 都
実施日(期間)	令和3年10月19日(火)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木さん(他3人)		
実施概要	切った木を組み合わせて、そこに網を巻き付け固定して小屋を作り、釘打ちをしてヤギの寝床、餌台を作る。		
実施状況 (授業風景)	<p>1 あいさつ、作業の説明</p>  <p>2 小屋作り担当は、さらに横上の方にも木材を打ち付けてがんじょうに固定したあと、網を貼り付け、固定する。 柱を横や斜めにわたして、おさえてくぎを打ち込んで固定したあと、網をみんなで押さえてはりつけ、ビスを打ち込んで固定し、協力して作業をした。</p> <p>3 ヤギのえさ台作り</p>  <p>ヤギが食べやすくなるように考えながらサイズを測り、えさ台を作った。測って木を切り、高さを合わせてくぎを打ち、最後にやすりできれいに磨いた。</p> <p>ヤギの体に合わせて幅や大きさを考えながら、測っているところ。</p>  <p>サイズを測って協力しながら木を切っているところ。</p> 		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は金あみをはってとんかちでとれないようにしました。交代でやりました。むずかしかったけど、がんばってやりました。またやりたいです。 ・小屋がどんどんできてきた。あみがとれないようにとんかちでくぎをとめました。ヤギのためにがんばって作りたいたいです。 ・ヤギがエサ入れの中に入ってしまわないように床から高さ50cmくらいの、ヤギの首より高い位置に取り付けた。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金あみを協力して張ることで、小屋らしくなってきた。逃げないようにしっかりとくぎで留める姿が見られた。 ・待っている間も、タブレットでヤギについて調べる活動をしていたので、より興味をもって取り組めた。 ・えさ台を作るときにヤギのために高さを考え、測ってつくろうとすることができた。協力して作業に取り組めたところがよかった。 ・鈴木さんたちに安全に教えてもらいながら作業に取り組めた。 		

授業名	木の授業		
学校名、学年、学級	松本市立寿小学校 5学年	参加人数	126人
担当者	有賀 浩之	記入者	有賀 浩之
実施日(期間)	令和3年12月7日(火)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん 他5人		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・伐採した桜の木の特徴についての話 ・桜の木でどのようなものが作れるかの説明 ・製作に向けて必要な木の枝の切り出し 		
実施状況 (授業風景)	<p>今年度、毎年5年生が行ってきた里山体験学習が、大雨の影響で実施することができなかった。そこに、寿さと山くらぶより木の工作などの活動を行う提案をいただいたこと、ちょうど学校の桜の木を伐採する予定だったことから、桜の木を用いた工作をする授業を構想した。</p>  <p>寿さと山くらぶの鈴木さんから、桜の木の枝を用いて、どのようなものが作れるか、具体的な作品を見せていただいてイメージを広げた。枝を輪切りにして名札を作ったり、特徴的な形の枝を顔に見立ててキーホルダーにしたりするなど、様々な発想を目の当たりにし、子どもたちも「自分も作ってみたい」という気持ちを抱いたようだった。</p> <p>枝の切り出しの際には、寿さと山くらぶの方々が見守る中、児童の班に入って、のこぎりの使い方や枝の選び方についてアドバイスをしてくださった。太い枝を切る際にはのこぎりがうまく動かず苦戦する児童の姿が目立ったが、のこぎりを引く角度や速度、切り返すタイミングなど具体的に指導いただき、どの子も自分の力で枝を切り分けることができた。1か月日陰で乾燥させ、年が明けたら制作に取り掛かることとなった。</p> 		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に立っていた桜の木ということもあり、思い入れをもって枝を扱っていた。具体的な作品に出会った時は「これいいなあ」、「私もキーホルダー作りたい」、「大きな枝を輪切りにしたら、コップを置くやつ(コースター)が作れるかな」と、イメージを膨らませていた。 ・枝を切る際は、枝を押さえる役、切る役などに分かれ、協力して取り組んでいた。なかなか切れないときには寿さと山くらぶの方に助けを求めており、地域の方とコミュニケーションをとりながら楽しんでいた。 ・桜の皮をこすっていくと、くすんだ皮の下から赤い鮮やかな色の皮が出現することを教えてもらい、驚きの声をあげていた。子どもたちも早速軍手で磨いたり、枝同士をこすり合わせたりして木の皮をきれいにしようと挑戦していた。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>里山体験学習は、林業について学んだり山の自然に触れたりする、5年生が大変楽しみにしている行事でした。それが中止になりがっかりしていた子どもたちにとって、今回の授業はとてもうれしいものになりました。コロナ禍ということもあり、地域の方と学校で触れ合う機会も減っていた中、今回寿さと山くらぶの皆様には木の伐採から道具の準備、当日のご指導など本当に子どもたちのためにご尽力いただきました。改めて、子どもたちは寿の地域の方々に大切に見守られていると実感し、ありがたく感じました。</p> <p>今回、図工で使用するような製材ではなく、先日まで校地内に立っていた木の枝を切ることで、切るときのおいや、枝のゴツゴツ感、形の面白さなど様々な感覚を用いて木と触れ合うことができたと思います。1月に作品作りを行います。自分が切り出した枝を用いて作った作品に愛着を持ったり、桜の木の特徴を感じたりして、木の温かみを感じてもらえたら嬉しく思います。</p>		

授 業 名	木の授業		
学校名、学年、学級	松本市立寿小学校 5年1組、2組	参加人数	63人
担当者	有賀 浩之	記入者	有賀 浩之
実施日（期間）	令和4年1月14日（金）		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん 他5人		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・切り出した桜の枝の加工についてのお話 ・桜の木でどのようなものが作れるかの説明 ・児童の製作活動の支援 		
実施状 （授業風景）	<p>1回目の木の授業で切り出した桜の枝を使って、製作活動を行った。子どもたちはキーホルダーや名札、鉛筆立てなど自分の作りたいモノをイメージして木の授業に臨んだ。木の枝を切り出したり、穴をあけたりする際に苦労している児童が多かったが、寿さと山くらぶの方々に質問したり、特別な道具の使い方を教わって使用するなどして、思い思いのモノの製作に夢中になって取り組んだ。</p> <p>木材を切る際には、鈴木さんはじめ寿さと山くらぶの方から、まっすぐのこぎりを引くこと、力を入れすぎないことなどを教わり、安全に留意しながら活動していた。また、イメージ通りのアイテムをつくるためにどうすればいいか困っている児童に対しては、親切にアドバイスをしていただき、寿さと山くらぶの方々が用意してくださった松ぼっくりやとちの実なども活用しながら、温かみのあるキーホルダーや鉛筆立てを作成することができた。できた作品は教室前の廊下に展示したが、児童からは「早く持って帰って、お家の人に見せたい」、「自分のキーホルダーをバックに付けたい」といった声が多く上がった。</p> <p>今後はこの経験を生かして、6年生への卒業記念の品を製作する活動を構想している。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の授業をして思ったことは、木からいろいろなものが作れることがすごいなぁと思いました。一本の木から、キーホルダーや机やペン立てを作ることができたからです。穴をあけるときの全然あかなかったので、木はとても丈夫ですごいなぁと思いました。 ・木でキーホルダーや名札が作れてうれしかったです。そして、地域の人たちと一緒にできてよかったです。木を切るのに予想以上に時間がかかって少しおどろきました。でも、思ったよりもさわり心地がいいキーホルダーが作れてうれしかったです。 ・木の授業では、のこぎりをどう使えばいいかが分かり、この先役に立ちそうです。他にも、いすやとだなをつくり家の中に置きたいです。木の授業では、友だちと仲良くできたし、寿小学校の桜の木でつくれたことがよかったです。木でつくるのは大変でしたが、身の回りには木でつくられているものが多いので、すごいなと思いました。木は、大切にしていきたいと思いました。 		



	<p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>12月に切り出した桜の枝を乾燥させている間、「次はいつやるの?」、「私はキーホルダーが作りたいな」と、自分なりのイメージを膨らませながら楽しみにしている児童の姿が印象的でした。キーホルダーづくりなどに必要な金具やストラップなど、こちらでも十分用意したつもりでしたが、さらにプラスして寿さと山くらぶの方で用意してくださり、子どもたちは思う存分製作活動に没頭することができました。一人でいくつも作品を作って「これはおじいちゃん、おばあちゃんに。これは妹に」と考えている児童もいました。活動に制限を設けず思う存分浸りこめる準備があることが、こんなにも子どもたちを生き生きとさせるのかと、教師の側も勉強になりました。</p> <p>現在、作ったキーホルダーに自分の名前を書いて、自分の図書袋やタブレットのケースに付けている子が多くいます。また6年生を送る会に向けて残りの木を切り出し、卒業記念のキーホルダーを製作しています。たくさん木に触れ、その特徴に触れ、木の温かみを感じてもらえたらと感じています。</p>
--	--

環境教育支援事業実施報告書

【番号：34-2】

授業名	木の授業		
学校名、学年、学級	松本市立寿小学校 5年3組、4組	参加人数	63人
担当者	有賀 浩之	記入者	有賀 浩之
実施日(期間)	令和4年1月17日(月)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん 他5人		
実施概要	【番号：34-1】と同様		
実施状況 (授業風景)	<p>1回目の木の授業で切り出した桜の枝を使って、製作活動を行った。子どもたちはキーホルダーや名札、鉛筆立てなど自分の作りたいモノをイメージして木の授業に臨んだ。前の週に1組と2組が先行して作った作品を見て、自分の作りたいモノのイメージをしっかりと持っていた子どもたちであったので、製作が始まるとすぐに道具を手にして取り掛かっていた。</p> <p>1、2組と同様に、のこぎりの使い方に苦労をしていたが、寿さと山くらぶの方のアドバイスでみるみる上達する子どもたちの姿があった。キーホルダーや鉛筆立てを作るだけでなく、枝を輪切りにしたものを積み重ねてオブジェのようにしたり、寿さと山くらぶの方が用意してくださった紐を使って、文字や模様を作って飾ったりするなど、個々の自由な発想で木と触れ合っていた。</p> <p>2時間の授業の中で、一人で3つも4つも作品を作り上げる子もおり、木を使って創作する活動そのものを楽しんでいるようだった。</p> <p>今後はこの経験を生かして、6年生への卒業記念の品を製作する活動を構想している。</p>		



<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペン立てと、キーホルダーづくりが楽しかったです。ペン立ては、木をななめに切った形なので、きのこなどのかざりをボンドでつけるときに付けにくかったけど、寿さと山くらぶの先生が取れにくい方法を教えてくれたのでとても良い作品が作れました。 ・木の授業で心に残っていることは2つあります。一つ目は、木を小さく切るとき、最初にどこを切ればいいかわからなくて困っていたら、寿さと山くらぶの先生がアドバイスをしてくれて、切り方までとても丁寧に教えてくれて、どんどん楽しくなっていたことです。二つ目は、先生が言っていた「失敗してもいいからどんどんチャレンジしてみて」という言葉です。それを聞いて私は、失敗してもいいなら、もっといろんなものを作って挑戦してみよう、と思えました。 <p>特に楽しかったのは、ペン立てを作った時の木を切る事です。太い木で大変だったけど、最後に切れた時にすごく達成感を感じました。</p> <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>学校の敷地に立っていた桜の木ということで、子どもたちにとっても親しみや思い入れのある素材であったと思います。5年生の社会科で、自然環境や林業についての学習がありますが、例年は里山体験学習で、実際の木材の伐採の場面を見学させていただくのですが、今年度はそれができませんでした。しかしその分、大小さまざまな木の枝を切ったり磨いたり穴をあけたり、いつもより深く木とかかわる時間を取ることができ、木のぬくもりや香りなど、様々なことを感じ取っていました。</p> <p>また、コロナ禍ですっかり減ってしまっていたが、地域の方との触れ合いの場になったこともとてもうれしいことです。寿小学校では地域の方に様々な活動を支援していただいておりますが、今回は寿さと山くらぶの方々に学校にお越しいただき、いろいろなことを教えていただいたり、一緒に活動したりすることができました。子どもたちも最初は遠慮がちでしたが、すぐに打ち解けることができ、時間の最後には「〇〇さん、こっち来てください！」とお名前呼びかけの姿がありました。地域の方とのつながりを強めたという点でも、とても意義のある時間になったと感じます。</p>
---------------	---

授 業 名	上高地探険 陸編			
学校名、学年、学級	松本市立安曇小学校 1・2年	参加人数	7人	
担当者	1年担任 佐藤真頼	記入者	2年担任 青木崇	
実施日（期間）	令和3年7月14日（水）			
講師名	NPO 法人わおん（松本大学准教授 中澤朋代さん 山田勇さん 千明彩さん）			
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学区である上高地の散策を行いながら、生き物や自然に触れることで上高地のルールを学ぶ活動をした。 ・自分が思う上高地の色を小梨平キャンプ場周辺で探しながら、自然とふれあう活動をした。 			
実施状況 （授業風景）	 <p>あそこにウグイスがいるよ！</p>	 <p>林道の中を散策中、何かを発見？</p>	 <p>上高地の色ってどんな色かな？</p>	 <p>上高地の自然を満喫。</p>
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上高地には、「採らない」、「与えない」、「捨てない」、「持ち込まない」、「踏み込まない」などのルールがあることが分かった。 ・たくさんの種類の花や草などを写真に撮って、自分のお気に入りの1枚を見つけることができた。 ・自然を大事にしないといけないことが分かった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年のときに上高地の豊かな自然とふれあうことで、高学年になって地元の良さや自然のありがたさに気づくことができると思った。 ・いろいろな植物や花、鳥、虫などに触れることで、子どもたちの自然に対する興味が深まっていることを感じられた。 ・講師の方たちには、低学年が興味を持つことができるような活動を考えていただき、2回目の上高地学習がとても楽しみです。 			

授 業 名	上高地探険 川編		
学校名、学年、学級	松本市立安曇小学校 1・2年	参加人数	6人
担当者	1・2年担任 佐藤真頼	記入者	1・2年担任 佐藤真頼
実施日(期間)	令和3年10月4日(月)		
講師名	美馬純一さん(川の自然と文化研究所)		
実施概要	学区である上高地の散策を行いながら、川の様子を見たり、自然に触れることに加え、上高地のルールを学ぶことで、特別な場所「上高地」を知ることができる。		
実施状況 (授業風景)	 <p>この季節の川の温度は8度位。 冷たい！！</p>	 <p>清水川には3種類の魚がいるよ。日本以外からきた魚もいるよ。どうしてかな？</p>	
	 <p>どこにいるかわかる？</p>	 <p>川辺の石の裏にたくさん生き物がいるよ！</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梓川の川辺での生き物探しはとてもじっくり探すことができた。あっという間に時間が来てしまい、「もっと探したかった。」などの発言が多くの子から聞くことができた。 ・産卵時期の魚の色の变化について初めて知る児童が多く、とても印象に残った様子だった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つの場所での活動時間を多くとってもらえたことで、落ちついて1つの学習活動に取り組むことができた。 ・時期がずれてしまったことから、川に入る活動はできなかった。入ることができなくてもこんなに夢中になって活動している姿を見て、もし可能であれば来年は川に入っでの活動を希望したいです。 		

授 業 名	上高地探険 まとめの会		
学校名、学年、学級	安曇小学校 1・2年	参加人数	6人
担当者	1・2年担任 佐藤真頼	記入者	1・2年担任 佐藤真頼
実施日(期間)	令和3年10月25日(月)		
講師名	中澤 朋代さん(松本大学准教授) 美馬 純一さん(川の自然と文化研究所)		
実施概要	2回の上高地探険で見つけた「かみこうちのすてきなもの」についてパワーポイントを使いながら発表し、講師の先生から答えを聞いたり、お話をきくことで、さらなる理解を深めた。		
実施状況 (授業風景)	 <p>先生への質問を交えながら発表をしています。</p>	 <p>こんな特徴をもってる魚はなんだったっけ？</p>	
	 <p>自然にたくさん触れることや、地域の人と上高地のかかわりのお話をさせていただきました。</p>	 <p>安曇小1・2年生オリジナル「すてきなもの」の地図も完</p>	
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際には見るができなかった魚の産卵動画を見せてもらったことで、「卵を産む時は口を開くことがわかった。」などの感想を発表することができた。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生方が、子どもたちの発表の合間の質問にも上手に答えて下さったおかげでとても良い発表の時間になった。「何だかわからなかったものの正体が知れてよかった。」とすっかりした様子を見せた児童もいた。 ・今、上高地で学習していることが将来の「理科」、「社会」、「総合」の学習に繋がっていることなども話していただけてありがたかった。 ・今回は写真を使っでの発表にしたが、児童が見たままの色を使った絵を描かせ、写真と併用した発表にしたほうが、児童が感じたままの発表になるのではと感じた。来年度の参考にしていきたい。 		

授 業 名	水辺の生物の観察会「山本先生に池と魚について教えてもらおう」		
学校名、学年、学級	松本市立中山小学校 3年1組	参加人数	12人
担当者	笠井 真希	記入者	笠井 真希
実施日(期間)	令和3年11月5日(金)		
講師名	川の自然と文化研究所 山本 雅道先生		
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 池の環境整備(水草の精選・水草生育のための砂入れ) 池に生育する魚に関する解説(名前・繁殖方法など) 		
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>水草を繁殖させるため、山本先生のご指導のもと、池に砂を入れました。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>教室で魚を囲み、解説をしていただきました。名前の分からなかった魚は「ギンプナ」だとわかり、無性生殖ができることを教えていただきました。</p> </div> </div>		
授業について	<ol style="list-style-type: none"> 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 専門的な知識が豊かな先生のお話を、真剣な表情で聞いていました。人間が覗き込んで観察しやすい池と、魚にとって住みやすい池は違うことがわかり、魚にどう関わっていけばよいのか考えるヒントをもらうことができました。 先生方の感想、要望等 魚の種類は、図鑑で調べてもはっきりと特定できなかったのもので、先生に教えていただけで良かったです。 		

授 業 名	川の生き物さがし		
学校名、学年、学級	松本市立田川小学校 2学年	参加人数	37人
担当者	柴崎 武利	記入者	柴崎 武利
実施日(期間)	令和3年6月23日(水)		
講師名	松本ホタル学会		
実施概要	<p>児童の身近にある奈良井川湧水へ行って生き物探しをすることを通して、自然の中でいろいろな生き物が生きていることを知り、自然への関心を高める。</p>		
実施状況 (授業風景)	<p>活動場所まで徒歩で移動し、川岸まで降りた。講師の方々に自己紹介をしていただいた後、奈良井川湧水やそこに住む生き物について、お話を聞いた。川への降り方、注意箇所についても、話していただき、学校職員からも、重ねて話をした。</p> <p>川に入って網を使って生き物探しをした。捕まえ方を教えてもらったり、網の中に入っている虫の名前を教えてもらったりしながら、子どもたちは夢中になって活動した。休憩しながら、1時間ほど川に入って生き物探しを行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>捕まえた生き物をバットに移し、どんな生き物がいるのか、観察した。ヨコエビ、トビケラ、アブラハヤに加え、数年住み着いていると思われる大きなトノサマガエルもいた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>今年は、護岸工事の影響で、川の流れが変わり、これまで住み着いていた生き物の種類や数が減っていること、きれいな水に住む生き物より、やや汚れた水に住む生き物の種類が多かったことなどを教えていただいた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>捕まえた生き物は、授業終了後、講師の方々が、川に戻してくださった。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <p>初めて川の中に入る子どもも多く、はじめは恐る恐るで、「冷たい」、「虫なんか持てない」と嫌がる児童もいたが、友だちの様子を見たり、講師の方々に、見つけ方を教えていただいたりしたおかげで、一人一人が、いろいろな生き物を見つけることができ、夢中になって活動することができた。担任が名前も知らないような虫も、講師の方々が、一つ一つ答えてくださり、子どもたちも「ヨコエビだ」「トビケラだ」と捕まえたものを嬉しそうに見せてくれた。</p>		

子どもたちの感想（絵日記より）

「最初は怖かったけど、だんだん慣れてきました。川の水はすごく冷たかったです。すごく生き物が好きになりました。」

「見つけたものはヨコエビです。友だちは、カエルやカニを捕まえています。みんなすごいものを見つけていて驚きました。」

2 先生方の感想、要望等

虫の名前を知らない担任にとって、講師の方々の存在はとても大きかった。道具の準備はもちろん、一人一人の児童の質問に、親身になって答えてくださり、大変ありがたかった。

捕まえた生き物の種類を観察することで、川がきれいなのか、汚れているのかを知ることができることは、環境教育の点からも、とても良い勉強になった。

あっという間の1時間でしたが、もう少しゆとりのある時間で計画してもよかったかもしれない。

授業名	田川の生き物さがし		
学校名、学年、学級	松本市立田川小学校 3学年	参加人数	46人
担当者	伊藤 亜裕美 小原 睦美	記入者	伊藤 亜裕美
実施日(期間)	令和3年6月23日(水)		
講師名	川の自然と文化研究所、松本ホテル学会		
実施概要	<p>児童の身近にある田川(入船橋付近)へ行って生き物探しをすることを通して、自然の中でいろいろな生き物が生きていることを知り、自然への関心を高める。</p>		
実施状況 (授業風景)	<p>学校でライフジャケットの着方を教えてもらい、一人ひとり正しく着用できているかを確認した。</p> <p>田川へ歩いていき、川辺で注意事項を聞いた。この日は少し川の水の流れが強い所があり、奥には入っていかないように、講師の方が川の中に立ってくださいました。</p>  <p>子どもたちは、始めはおそるおそる水に入っていく、川岸に近い浅瀬で生き物探しをしていたが、徐々に川の中へ入っていく、石を動かしたり、川の中を手でかきまぜたりしながら、網の中に入った生き物を見つけては喜んでいました。</p> <p>休憩をはさんで、2時間弱の活動をした。捕まえた生き物は、グループごとバケツに入れて、学校へ運んだ。</p> <p>学校では、生き物観察会を行った。水槽やシャーレ、ピンセット、虫眼鏡等、観察に必要な道具を準備してくださったので、子どもたち一人ひとりが自分で観察することができた。各グループについてくださった講師の方々が、生き物の名前や、それぞれの生き物についての説明をしてくださり、子どもたちは、記録用紙に記入をした。</p>  <p>終わりに、学年全体で捕まえた生き物を黒板にまとめてみると、20種類以上の生き物がいたことがわかった。講師方からもまとめのお話をいただいた。</p>  <p>捕まえた生き物は、講師の方が田川へ戻してくださいました。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは虫をさわるのがこわかったけど、やっているうちにさわれるようになりました。こわかったけど、かわいいなと思いました。 ・川の水はつめたくて、きもちよかったです。石がツルツルしていました。 ・ヨシノボリは、ヨシにのぼっているから、ヨシノボリって名前なんだって、はじめて知りました。こうしの先生たちがいるんなことを教えてくれたので、うれしかったです。 ・田川に行ってあみで生き物をつかまえようとしたけど、はじめはぜんぜんつかまえられませんでした。川の中にあみを入れてまちぶせしてから、石を動かしてガシャガシャってやるといいよ。と、せんもんかの先生が教えてくれたので、やってみたら小さいのがとれました。うれしかったです。 		

- ・せんもんかの先生が、つかまえた生き物をくれました。ぼくがつかまえたことのないやつだったので、びっくりしました。
- ・ぼくが知っている生き物もいたけど、知らない生き物もたくさんいました。田川にこんなに生き物がいるなんて知りませんでした。知らなかった生き物の名前をせんもんかの先生が教えてくれて、名前をしれてうれしかったです。
- ・遠くからたくさんの方が来てくれて、生き物の取り方を教えてもらいました。わたしがさいしょにとれたのはカゲロウでした。名前を知らない生き物もとれて、名前を教えてもらいました。こんな名前なんだとびっくりしました。またやりたいです。

2 先生方の感想、要望等

身近にある田川だが、実際に川の中に入って遊んだことのある児童はほとんど少ないので、とても貴重な経験となった。網や入れ物を人数分以上に用意していただいたおかげで、子どもたちが主体的に活動することができた。見つけやすい生き物だけでなく、川の石を動かしたり、川底をかき混ぜたりしないと捕れないような小さな生き物がたくさんいたことは、子どもたちにとって驚きであった。講師の方には、子どもたちが生き物を捕まえるたびに名前を教えていただいたり、一緒に生き物を捕まえていただいたりしたおかげで、子どもたちも「まだやりたい。」と感じる程活動に没頭できたのではないかと思う。

学校での観察会でも、各グループで講師の方々が丁寧に子どもたちに説明をしてくださり有難かった。観察に必要な道具の準備をしていただいたおかげで、一人ひとりが自分で虫眼鏡を持ち、ピンセットで動かして観察ができたので、とても良かった。また、最後には活動のまとめをしながら、改めて「川には子どもだけで行かない。」という約束も話していただいたのも良かった。川の流れの強さが場所によって違うことを体験した直後であり、子どもたちも納得できたようだった。

田川、奈良井川という2つの川に囲まれた場所にある田川小学校に通う子どもたちにとって、川の学習はとても有意義な学習である。今後も講師の方々にご協力いただきながら、続けていかれると良いと思う。

<p>授業名</p>	<p>田川の活動：外来種について</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立田川小学校 5年2組</p>	<p>参加人数</p>	<p>22人</p>
<p>担当者</p>	<p>小林 巨樹</p>	<p>記入者</p>	<p>小林 巨樹</p>
<p>実施日（期間）</p>	<p>令和3年7月9日（金）</p>		
<p>講師名</p>	<p>川の自然と文化研究所（美馬さん、山本さん）</p>		
<p>実施概要</p>	<p>総合的な学習の時間の「田川の活動」の中で、外来生物を捕まえた子どもたち。外来生物とはどんな生物か、また捕まえたときにどうすることになっているのか教えていただいた。</p>		
<p>実施状況 （授業風景）</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>外来生物がどうして身近にいるのか、また、なぜいると困るのか分かりやすく教えていただいた。</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>松本近辺で見られる外来生物について教えていただいた。松本、田川にはどんな外来生物がいるか実際の写真を見ながら知ることができた。</p>  <p>特定外来生物の取り扱いについて教えていただいた。また、各都道府県によってもきまりが違ってくこと、長野県ではどうすることになっているか詳しく知ることができた。</p> </div> </div> <p>子どもたちからの「田川は大丈夫か。」「田川にブラックバスがいて大丈夫か。」などの質問にお答えいただいた。子どもたちにも分かりやすい言葉で教えていただき納得していた。</p>		
<p>授業について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <p>自分たちが捕まえた外来種の魚以外にも身の回りには思った以上に外来種の生物がいることを知り、驚いていた。「なぜ田川に外来種がいたのか。」その答えを知り、人的に持ち込まれたことへの憤りを感じている子が多かった。また、今回のお話を聞き、「田川が心配。」や「田川を守っていきたい。」と田川への思いを強くしていた。</p> 2 先生方の感想、要望等 <p>まだまだ田川で活動したいと願っているが「次に捕ってしまったらどうしよう。」と不安を感じていた子どもたち。外来生物を捕ってしまったときにどうすることになっているか教えていただき、今後捕まえたときにどうするかみんなで考え合う必要があることを明確にできた。今回教えていただいたことを基に、みんなで考えていきたいと思えます。難しいテーマでお願いをしましたが、子どもたちにとって分かりやすく、また、美馬さんや山本先生のお考えを交えてお話ししていただきありがたかったです。ただ楽しい場所だった田川から外来種も住む田川、そして今後どう田川で活動していくか活動の課題を見出すことができました。子どもたちと考え合いながら、学びながら活動を進めていきたいと思えます。機会があれば是非お願いしたいと思っております。ありがとうございました。</p> 		

授業名	開明自然の森“復興”プロジェクト ~自然の森の生態・水質調査~		
学校名、学年、学級	松本市立開明小学校 6年3組	参加人数	29人
担当者	担任 塩原一矢	記入者	塩原一矢
実施日(期間)	令和3年9月16日(木)		
講師名	松本ホタル学会 藤山静雄先生 横山裕己先生 他		
実施概要	<p>子どもたちが学校にあるビオトープ(開明自然の森)が荒れてしまっていることに課題を持ち、総合的な学習の時間に再生活動に取り組むことになりました。中信環境教育ネットワークの中林さんの紹介で信州大学の藤山先生と松本ホタル学会の方々をつながることができ、助言をしていただきながら一緒に活動していくことになりました。藤山先生の提案で、再生活動の第一段階として、ビオトープの状態を知るために池や水路にいる生き物や水質調査をしました。</p>		
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>教室で藤山先生からイントロダクションをしていただきました。先生のプロフィールや今までに再生させたビオトープを紹介していただき、今回の調査の意義や活動のヒントとなることを教えていただきました。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>藤山先生からの説明を受けた後、丸池、角池、水路、水質調査の4つのグループに分かれ活動を始めました。</p> <p>丸池、角池、水路の生き物調査の様子</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>網を使って池の生き物を捕まえる子どもたちの様子です。役割分担して、追い込んだりしながらたくさんの生き物を捕まえるために協力していました。はじめは池の中に入ることに戸惑う子どもたちもいましたが、はじまると夢中になって生き物を追いかけていました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>PACテストで水質を調べる子どもたちの様子です。「汚れるのが嫌だ」、「虫が苦手…」と正直に教えてくれた子どもたちが中心となって活動を進めました。自分たちのできることに精一杯取り組んでいました。薬品を使い水の中に化学物質がどのくらい含まれているかを調べましたが、藤山先生のお話を真剣な表情で聞いて理解しようとしていました。</p>		

	 <p>野外調査の後は、理科室に移動して、スポイトやピンセットを使い、図鑑と見比べたりして同じ生き物を分類分けしたり、個体数を数えたりしました。</p>
<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物たちにも「えさ」、「空気」、「家(隠れる所)」が必要だとわかった。また、ヒルとプラナリアも同じような生き物だけど違いが知ることができた。 ・水の中で虫を探しているときにたくさん生き物がいて、こんなに自然の森に虫や生き物がいるとは思わなかった。 ・自分の知らない生き物がたくさんいました。とても速い生き物や遅い生き物、大きさも様々でした。池の水も思っていたより汚くてびっくりでした。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>藤山先生からのお話では、専門的な立場から説明や助言をしていただき、子どもたちも私も聞き入ってしまいました。フィールドワークでは、積極的に生き物や植物に触れる子どもがいる中で、なかなか池に入れなかったり、生き物にさわれなかったりする子どもの姿も…。子どもたちが自然と触れ合う機会が減ってしまっていることを改めて感じました。そんな中、今回のような活動ができたことは本当にありがたかったです。ここから自分たちの学校のビオトープを見つめ直し、どんな場所にしていきたいか話し合っていきたいです。</p>

環境教育支援事業実施報告書

【番号：42-2】

<p>授業名</p>	<p>開明自然の森“復興”プロジェクト～プロジェクト中間報告会～</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立開明小学校 6年3組</p>	<p>参加人数</p>	<p>29人</p>
<p>担当者</p>	<p>担任 塩原一矢</p>	<p>記入者</p>	<p>塩原一矢</p>
<p>実施日(期間)</p>	<p>令和3年9月28日(火)</p>		
<p>講師名</p>	<p>松本ホテル学会 藤山静雄先生 横山裕己先生 他</p>		
<p>実施概要</p>	<p>ビオトープ(開明自然の森)の生態・水質調査を実施し、藤山先生から助言をいただいたことで、池の状態がわかりました。その上で、ビオトープを「どんな場所にしたいか」そのためには「どんなことをしていきたいか」を話し合い、7つのグループに分かれました。グループごとの活動の方向性と具体的な計画を、クラス全体と松本ホテル学会の先生方と共有するため中間プロジェクトの報告会を行いました。</p>		
<p>実施状況 (授業風景)</p>		<p>前回の調査結果を受けて、自然の森にある課題を考えました。「もっとたくさんの種類の生き物に住んでほしい」という課題をもったグループでは、どうすればいいか考えている様子です。他にも「植物に光があたっていない」、「遊具を作りたい」などいろんな課題が生まれ</p>	

ました。グループで方向性を話し合い、クラス全体に発表することになりました。松本市から貸し出されているタブレット PC を使い、パワーポイントで発表のプレゼンを作成しました。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 植物の光合成プロジェクト | 2 メダカ大繁殖プロジェクト |
| 3 図鑑を作ろうプロジェクト | 4 生き物の4世帯住宅プロジェクト |
| 5 笑顔の架け橋プロジェクト | 6 ワクワク遊具プロジェクト |
| 7 みんなで遊ぼうプロジェクト | |

上記の7つのグループの発表を行い、松本ホテル学会の方々から助言をいただきました。

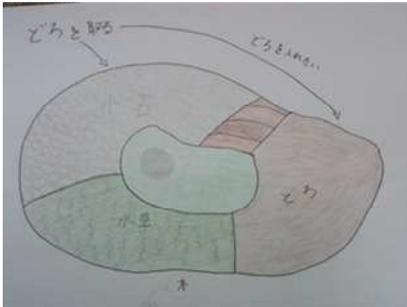


子ども同士で質問しあったり、藤山先生に質問したりしました。

授業について

- 授業を通しての子どもたちの反応、感想等
 - ・前回、藤山先生たちと一緒に生態調査をしてみても、プロジェクトの詳しい計画を考えました。自分たちじゃわからないメダカの生態や環境のことをたくさんおしえてくれてありがたかったです。
 - ・自分たちの計画を伝えたら、「とてもいいアイデア!」とほめてもらったのでうれしかったです。これから活動していくのが楽しみです。
- 先生方の感想、要望等

前回の環境調査の結果から、たくさんの課題が子どもたちから生まれました。「もっとたくさんの生き物が住める場所にしたい」という課題はもちろん、「下級生が生き物と触れ合える場所にしたい」、「メダカを繁殖させたい」という課題をもつ子どもたちもいて、いろいろなプロジェクトが立ち上がりました。先生方も子どもたちの考えを真摯に受け止めていただき、丁寧にアドバイスをしたり、質問に答えたりしていただきました。自分たちの考えが専門家の先生方に認めもらえる、真剣に向き合ってくれてくれるというところに子どもたちも喜びを感じ、自信につながっていました。ここまででも十分素晴らしい活動になっていて、ホテル学会の先生方には本当に感謝です。

授 業 名	開明自然の森“復興”プロジェクト ~自然の森 4世帯住宅プロジェクト~		
学校名、学年、学級	松本市立開明小学校 6年3組	参加人数	29人
担当者	担任 塩原一矢	記入者	塩原一矢
実施日(期間)	令和3年10月15日(金)		
講師名	松本ホタル学会 藤山静雄先生 横山裕己先生 他		
実施概要	<p>生態調査後、「いろんな生き物がいる自然の森にしたい」、「もっとたくさんの生き物に住んでほしい」という課題が子どもたちに生まれました。そのために子どもたちが企画した「4世帯住宅プロジェクト」を行うことになった。池の環境を泥エリア・水草エリア・小石エリアと分け地上の植物エリアと合わせ4つのエリアを作るため、池の泥をさらい、小石を敷き詰める作業を行った。</p>		
実施状況 (授業風景)	<p>前回の中間報告会で「4世帯住宅プロジェクト」のグループから「池の環境を泥エリア・水草エリア・小石エリアと分け、地上の植物エリアと合わせ4世帯住宅のようにしてはどうだろうか?」という提案がありました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px;"> <p>具体策1</p> <p>丸池を3等分し小石と水草と泥に分けて いろいろな生き物に住んでもらう</p> <p>↓</p> <p>水の浄化をしてきれいな水が好きな生き物に住んでもらう</p> <p>↓</p> <p>隠れ家を作り生き物が暮らせるようにする!</p> <p>いろいろな生き物が住める!!</p> </div> </div> <p>松本ホタル学会の先生方と相談して、この計画をクラス全体で取り組んでいくことになりました。準備では、池に敷く小石の調達が課題でした。最初は、横山さんの知っている奈良井川の河川敷でとってくる予定で河川事務所にも許可をいただいたのですが、大雨による川の氾濫で河川敷に入ることが難しくなっていました。困っていたところに、保護者の方で工務店を営んでいる方が小石を提供してくれることとなったのです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>まず初めに、増えすぎた水草を取り除くことから始めました。藤山先生から「水草は池の3分の1で十分」と助言いただいたので、池の日光が当たる部分に水草を残し、余計な部分を取り除きました。</p> <p>子どもたちが「水草に生き物ついていないの?」という声があがったので、採った水草はすぐに処分するのではなく、池の周りにしばらく置いておくことにしました。</p>		



水草を取り除いた後は、小石を敷く部分の泥さらいをしました。水を抜いて行いましたが、なかなか大変な作業でした。泥の中には大きな石もあり、数人がかりで池から出しました。中には過去に投げ込まれたと思われる瓦礫があり、複雑な気持ちにもなりました。



休憩の後、いよいよ小石を敷く作業に取り掛かりました。バケツリレー方式で池の中央部まで運び敷いていきました。小石は少しの量でも本当に重く、6年生といえでも大変そうでした。ですが、声を掛け合いながら、楽しそうに活動していました。疲れたら役割を交代しながら、どんどん作業が進んでいきました。

授業について

1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等

- ・泥をとって石を敷くのはとても大変だったし、時間的にも完全に泥を取り切れたわけではないけど、今、自分たちにできることを精一杯やることができた。
- ・自分も池の中に入って、泥をとったり、瓦礫を取り除いたりすることができました。小石はみんなで協力して運んで敷くことができました。少しでも自然の森に生き物が増えるといいです。

2 先生方の感想、要望等

子どもたちからのアイデアであったこの計画を実現できて良かったです。泥さらいや小石を敷く作業は体力的に本当に大変でした。泥だらけで、腕もパンパンになっていましたが、「自然の森のために頑張ろう」と声をかけ励ましあいながら取り組む子どもたちの姿に感動しました。松本ホテル学会の先生方も一緒になって汗を流していただきありがたかったです。

翌日見てみると、石を敷いた一部分に泥がかかってしまっていたのですが、新たな課題としてこれから取り組んでいきたいです。

授 業 名	開明自然の森“復興”プロジェクト ~植物の光合成プロジェクト~		
学校名、学年、学級	松本市立開明小学校 6年3組	参加人数	29人
担当者	担任 塩原一矢	記入者	塩原一矢
実施日(期間)	令和3年11月4日(木)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん 他		
実施概要	<p>開明自然の森の生態調査・水質調査を実施し、藤山先生のお話から「木が増えすぎており、葉が邪魔をして池の中に日光が届いていない」という課題ことがわかった。そこで、子どもたちが「植物の光合成プロジェクト」と題し、ピオトープのすべての植物に日光を届けるため木の枝の剪定をすることになった。</p>		
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>鈴木さんと出会い、オリエンテーションから始めました。鈴木さんから森や木についての話をしていただき、一所懸命にメモをとる子や真剣に話を聞く子どもたちがいきました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>「木材で遊具やベンチを作りたい」、「図鑑をつくっている」という自分たちの現状ややりたいこと・願いを伝え、鈴木さんの専門的な立場から助言や参考資料などをいただくことができました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>枝払いの準備でノコギリやヘルメット装着をしているときの様子です。ノコギリは初めて使う子がほとんどで楽しみと不安が入り混ざりながらもワクワクした様子で準備をしていました。</p>		



安全に行うためにどうすればいいのかを子どもたちも参加しながらお手本を見せてくれました。初めて使うノコギリに怖がっていましたが、慣れてくると楽しそうにどんどん作業が進んでいきました。グループで協力して役割を決め、交代しながらクラス全員が体験をすることができました。

授業について

- 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等
 - ・木を切るのには結構力が必要でした。特にリョーブの枝はつつるして固く切るのが大変で腕が痛かったです。けれど枝を切ったおかげで、自然の森の景色がよく見えるようになりました。
 - ・切った木のおいをかいてみて、ゴボウのようなにおいのする木があったり、スズメバチが罌をしかけている実があると教えてもらったりすごい勉強になった。
 - ・のこぎりで枝を切るときは木くずが出てきて、ちゃんと切れているなど感じました。最初は怖かったけど、夢中になってできました。
- 2 先生方の感想、要望等

子どもたちの活動量も安全も確保していただき、とても充実した時間を過ごすことができました。私自身も学ぶことがあり、子どもたちもたくさん学びがありました。自分たちがやりたいことに対して実現できそうなアドバイスを鈴木さんからいただき、これから期待に胸を膨らませていました。作業中はグループで協力して、自分たちで切る枝を判断し、どんどん活動が進んでいきました。子どもたちの真剣な表情と成長に驚かされました。木の断面や匂い、木肌の触り心地、ノコギリを入れた感触など五感を使って体験的な学びをすることができました。

作業を終え、少し離れたところから自然の森を眺めると「見通しが良くなった!」、「これで1・2年生も遊びやすくなるね!」と達成感を感じている子どもたちがたくさんいました。

環境教育支援事業実施報告書

【番号：43-2】

授業名	開明自然の森“復興”プロジェクト～笑顔の架け橋・ワクワク遊具を作ろう～		
学校名、学年、学級	松本市立開明小学校 6年3組	参加人数	29人
担当者	担任 塩原一矢	記入者	塩原一矢
実施日(期間)	令和3年11月24日(水)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん 他		

<p>実施概要</p>	<p>プロジェクトの中に「1・2年生が使える遊具やベンチを作りたい」「今かかっている橋が壊れているから直したい」という課題をもったグループがありました。自分たちで材料を集め、設計図を作成しながら計画を進めてきました。寿さと山くらぶの先生方と一緒に制作することになりました。</p>
<p>実施状況 (授業風景)</p>	<p>グループに分かれ、あらかじめ作成していた設計図や計画書を見せながら、寿さと山くらぶの先生方に自分たちの考えを伝えました。先生方には子どもたちが作った企画書を見ていただき、プロの目線からアドバイスをいただきました。</p>  <p>笑顔の架け橋プロジェクト</p> <p>自然の森の小川にかかる橋の修理をするグループです。今あるものは、橋桁の板が抜けていたり、釘が飛び出ていたりしていることもあり、安全上でも心配な点がありました。小笠原林業さんからいただいた丸太と自分たちであつめた板材を使い、できるだけ今と同じものを作ろうと計画しました。いただいた丸太は直径20センチ以上のとても立派なもので運ぶのも大変でした。</p> <p>橋桁となる板材を切るときには、ノコギリの使い方を講師の先生方から教わりました。「腕と肩のラインをそろえる」や「日本のノコギリはひくときに力を入れる」といったアドバイスをいただき、力づくでノコギリを使っていた子たちも、姿勢や力の入れるタイミングを工夫しながらノコギリを使うようになっていました。</p> <p>先生方からのアドバイスで、地面と接する部分は腐りやすいため、直接地面に丸太を置くのではなく、表面を焼いた土台を設置することとなりました。のこギリで丸太が乗る部分を削り、バーナーで焼く工程も体験させてもらいました。「焼けば腐りにくくなる」ということも子どもたちにとっては初めての学びでした。</p>     <p>丸太と板材を繋ぐ部分も釘を使わずに繋げる方法を教えていただきました。この時間に作業を終えることはできませんでしたが、子どもたちは手順をすくぐに覚え、翌日に自分たちだけの力で完成させることができました。</p>



ワクワク遊具を作ろう

グループ内でベンチとブランコの担当に分かれ作業を進めました。



1年生の高さに合わせて横枝にロープを垂らし、鈴木さんからエイトノットという結び方を教えていただき、座る部分を取り付けていきます。自分たちも試しに遊んでみたり、近くに遊びにきていた低学年の子どもたちに手伝ってもらいながら何度も高さを調節していきました。



安全面も考え、取り外しできるようにしたり、仕上げに座る部分をやすりでピカピカに磨いたりしていました。



ベンチづくりの様子です。差金を使って正確に長さや直角をはかり、罫書きしていきました。



こちらも釘は使わず、木ダボを使ってくっつけました。ドリルを使って穴を開ける様子です。太い径のドリルで穴を開けるのに力が入りました。木ダボを切る時は、今までとちがうノコギリの使い方を教わり、刃を寝かせて綺麗に切りました。

授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコを作るときに鈴木さんからエイトノットという結び方を教えてもらいましたが、腕が絡まりそうになりました。座る部分はやすりで磨きピカピカになりました。さわってもつるつるになりました。1・2年生が乗りたいと思ってもらえるようなブランコを作りたいです。 ・長さは測るときは差し金をつかって、mm単位まで正確に測りました。穴をあけてボンドとダボで止めたただけなのに、あんなに頑丈にくっつくとは思わなかった。 ・橋の板と丸太をくっつけるときに釘でくっつけると思っていたけど、「釘は腐るから竹や木をつかう」と教えてもらいました。トンカチをつかっていたら「一流大工だね!」とほめてもらったので嬉しかったです。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>今回はグループに分かれ、4箇所別々の作業をしました。寿さと山くらぶ、中信環境教育ネットワークの皆さんと沢山の方々に協力していただき、ドリルやノコギリなど工具を使う作業も安心して取り組むことができました。また、グループで別れて作業できたことで子どもたちのそれぞれの課題にあった活動に取り組むことができ、活動意欲もとても高まっていました。</p> <p>「座る人がけがをしないようにつるつるに磨こう」「1年生はどのくらいの高さかな?」など、作るだけでなくその先の使う人の立場になって活動している子どもたちの姿があり、感動しました。自然の森で活動しているうちに「ハンモックも作りたい」、「古い橋も再利用できないかな?」などと新しい課題もどんどん見つかリ、これからの活動が楽しみになりました。</p>
--------	---

環境教育支援事業実施報告書

【番号：43-3】

授 業 名	開明自然の森“復興”プロジェクト ～1年生との木工交流会の準備～		
学校名、学年、学級	松本市立開明小学校 6年3組	参加人数	29人
担当者	担任 塩原一矢	記入者	塩原一矢
実施日(期間)	令和3年11月29日(月)		
講師名	寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん 他		
実施概要	<p>植物の光合成プロジェクトの後、子どもたちの中に「自然の森で1年生と遊びたい」、「木を使って工作をしたい」という願いがあった。そこで前回剪定した木を使い、木工交流会を企画することとなった。6年生が1年生に教える立場となるために、小物の作り方と教えるときのポイントを寿さと山くらぶの方々から教えていただいた。</p>		
実施状況 (授業風景)	<p>『ネームプレート』、『キーホルダー』、『きこりのおじさん』、『ぶんぶんゴマ』、『ペン立て』の5つのグループに分かれ、それぞれのブースで活動に取り組みました。</p> 		

『ネームプレート』



ドリルを使って穴を開け、紐を通して結びました。単純な工程ですが、紐の結び方で大苦戦していました。「自在結び」という長さを調節できる結び方を教わり、グループ内で何度も確認しあっていました。完成したものを首に下げ本当に満足げな笑顔をしていました。

『キーホルダー』



キーホルダーは自分たちの好きな形に木を切り、ピカピカになるまでヤスリで磨きました。ノコギリも前回の枝払いでコツを覚えたのか、とても上手に使いこなしていました。

『きこりのおじさん』



自分たちの作品を作り終わると、交流会の準備を進めていました。枝分かれたちょうどいいおじさんの鼻になる木を探して切っていました。

『ぶんぶんゴマ』



作業工程が多く一番時間がかかっていました。どこまで準備しておけば1年生が時間内に作れるか、1年生のサイズに合わせた紐の長さなど交流会を想定し相手意識をもって作業する姿がありました。

	<p>『ペン立て』</p>  <p>グループ内で分担し、活動と並行しながらメモを取っている姿もありました。ペンをたてる穴は大きく、ドリルで穴をあけるのが大変そうでしたが、3人がかりで協力し取り組んでいました。</p>
<p>授業について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等 <ul style="list-style-type: none"> ・思ったより簡単に作れて、かわいいおじさんができてうれしかった。木を切るのが難しかったけど、のこぎりと自分の肩をまっすぐにしながら切ったらすごく簡単にできました。1年生にもわかりやすく教えてあげたいです。 ・ドリルの使い方やペン立ての使い方がわかった。穴をあけるときは貫通しないようにする力加減が難しかったが、穴をあけ終わったときは気持ちよかったです。 2 先生方の感想、要望等 <p>グループごとにわかれ、それぞれに講師の先生がついていただけたことで、子どもたち1人1人が丁寧に教わることができてよかった。「1年生に教えるために」というのが目的でしたが、子どもたち自身も本当に楽しみながら製作をしている姿がたくさんありうれしかったです。学校の木を自分たちの手で切りだして作った小物にとっても愛着がわいたようで、キーホルダーや名札を授業の後も1日中、身に着けている子もいました。</p>

環境教育支援事業実施報告書

【番号：43-4】

<p>授業名</p>	<p>開明自然の森“復興”プロジェクト ～森のバウムクーヘンづくり～</p>		
<p>学校名、学年、学級</p>	<p>松本市立開明小学校 6年3組</p>	<p>参加人数</p>	<p>29人</p>
<p>担当者</p>	<p>担任 塩原一矢</p>	<p>記入者</p>	<p>塩原一矢</p>
<p>実施日（期間）</p>	<p>令和3年12月23日（木）</p>		
<p>講師名</p>	<p>寿さと山くらぶ 鈴木喜一郎さん 他</p>		
<p>実施概要</p>	<p>子どもたちの願いに「自然の森で火起こしをして、料理をしたい」というものがあった。料理で名前が上がったのが「ホットドッグ」、「焼きリンゴ」、「バウムクーヘン」の3つ。すべて同時に一度に行うことは難しかったため、火おこしとホットドッグ、焼きリンゴとバウムクーヘンと2回に分けて計画し、寿さと山くらぶの方々にバウムクーヘンづくりを教えていただきながら野外での調理活動に挑戦した。</p>		
<p>実施状況 （授業風景）</p>	 <p>自然の森で木の年輪について鈴木さんから話をさせていただきました。年輪は1年で1つずつ増えていき、年輪の幅などからその時の環境がわかるということなどを教えていただき、子どもたちも真剣に聞いていました。男の子たちは早速切り株の年齢を数えていました。</p>		



バウムクーヘンづくりがスタート。まずは生地を作ります。大量の小麦粉と卵を混ぜていきました。卵の量にびっくりしていました。



バウムクーヘンの生地をつくることと並行して、焼きリンゴの用意もしました。包丁を使い慣れた女の子を中心に上手にリンゴの芯をくり抜き、砂糖とバターを入れてアルミホイルで包んでいきます。

竹を素焼きして余計な油を取り出し、いよいよ焼き始めていきます。

生地を竹につけ、火にかけていきます。ペアで息を合わせ生地がこぼれ落ちない絶妙なスピードで竹を転がしていきます。



だんだんと大きくなっていくバウムクーヘンたち。途中から職人のような手つきで竹を回していました。一年分焼き終えるごとに「今。うちの子歳！！」と我が子のように大切にしながら楽しそうに作っていました。



10年分ほど年輪を作り、鈴木さんのところへ持っていき竹から外してもらいます。切ってみると...綺麗な年輪ができていました！



端っこを食べてみるとこの笑顔です。熱々の焼き立てのバウムクーヘンと焼き林檎の組み合わせは抜群！とても美味しく作ることができました。

授業について

1 授業をしての子どもたちの反応、感想等

- ・最初は失敗しないか不安でしたが、やってみたらとても楽しかったです。途中で煙が沢山出てきて臭くて、目が痛かったのですが、そんな苦労を重ねてできたバウムクーヘンはとてつもなく美味しかったです。
- ・人生初めてのバウムクーヘンづくりでしたが、クラスのみならず楽しく学習しながら美味しいバウムクーヘンを作ることができました。全校の先生にも呼びかけて食べてもらいました。「とても美味しいよ！」と喜んでもらえて嬉しかったです。

2 先生方の感想、要望等

自然の森プロジェクトの節目として、2学期のお楽しみ会の1つでもあったバウムクーヘン作りでしたが、子どもたちの本当に楽しそうな顔が見ることができて担任として嬉しかったです。私も自宅でバウムクーヘン作りに挑戦したことがありましたがうまくいかず、諦めていたところに鈴木さんから声をかけていただき、食材や火の準備、指導、片付けまで寿さと山くらぶの方々が丁寧にやっていただき本当にありがたかったです。私も子どもと一緒に楽しませていただきました。1人の力ではできないので、自然と友だち同士で協力していく活動でよかったです。コロナの感染拡大で調理活動が制限される中、感染が落ち着いている時期に実施することができて本当によかったです。

令和3年度
松本市小中学校環境教育支援事業
学習プログラム一覧



令和3年度 小中学校環境教育支援事業 環境学習プログラム一覧

分類	No	講座名称	講師
校内	きく・みる	1 気候変動とSDGs	自然エネルギーネットまつもと
		2 ツキノワグマの生態を知ろう	NPO法人信州ツキノワグマ研究会
		3 山へ行こう！歩いて、感じて。学ぶ自然環境。	認定NPO法人信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ
		4 使わないものはゴミではなく資源	フリマネット信州
		5 まつもとの環境について学ぼう 「松本市環境基本計画関連講座」	松本市環境・地域エネルギー課
		6 地球環境問題・地球温暖化問題と自然エネルギーを学ぶ	松本市地球温暖化防止市民ネットワーク(エコネットまつもと)
		7 生きものから学ぶ環境学習	松本ホテル学(まなぶ)会
		8 梓川大好き！大河の一滴プロジェクトスライドショー	合同会社リトルピークス
	たべる	9 むかどご飯炊き体験	NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団
		10 木の授業とバウムクーヘン作り	寿さと山くらぶ
		11 炭用石窯でピザ焼体験	NPO法人石窯スマイル研究会
	つくる	12 木材の活用法(小物づくり)	寿さと山くらぶ
		13 裁縫作業指導(マイ箸収納用袋作成)	松本市社会福祉協議会ボランティアセンター
		14 竹筒と蜜ろうを使ったキャンドルづくり	松本市地球温暖化防止市民ネットワーク(エコネットまつもと)
		15 自然素材で簡単工作	NPO法人わおん
	実験する	16 やさしい放射線の実験教室	株式会社 環境技術センター
		17 水はどこから？	株式会社 環境技術センター
		18 木質バイオマスエネルギー利用方法	自然エネルギーネットまつもと
		19 あかりのエコ教室	パナソニック株式会社ライフソリューションズ社松本電材営業所
		20 エコと太陽光発電教室	パナソニック株式会社ライフソリューションズ社松本電材営業所
		21 ワクワク下水道教室	松本市上下水道局下水道課
		22 小水力発電機等による自然エネルギー体験	松本市地球温暖化防止市民ネットワーク(エコネットまつもと)
		23 アウトドアから学ぶ防災・災害対策	すえなみブッシュクラフトスクール長野
		24 手作りろ過器で飲み水作り(水の循環と森の役割を学ぶ)	すえなみブッシュクラフトスクール長野
		25 着火、焚火体験から学ぶ燃焼の科学	すえなみブッシュクラフトスクール長野
校外	公園等	26 身近な自然観察	自然観察の会 ひこばえ
	川	27 水辺の観察会	NPO法人えんどっこ
		28 水辺の生物の観察会	NPO法人川の自然と文化研究所
		29 生き物観察から不思議や疑問を見つけよう！	松本ホテル学(まなぶ)会
		30 地元の川大好き！リバーアドベンチャー	合同会社リトルピークス
		31 梓川&奈良井川&犀川ラフティング	合同会社リトルピークス
		32 水殿ダムラフトピクニック(ダム見学付き)	合同会社リトルピークス
	山	33 地元の山が100倍好きになる登山学	合同会社リトルピークス
	特定の場所・その他	34 謎解きウォーク体験	NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団
		35 手植えでの田植え・手刈りでの稲刈り・はぜかけ 精米工場の見学と、流通、循環について	いきものみつけファームin松本推進協議会
36 石窯ピザづくりたいけん		NPO法人石窯スマイル研究会	
校内外両方可	37 いきもの探しと観察及び環境教育講座	いきものみつけファームin松本推進協議会	
	38 プランター菜園講座	いきものみつけファームin松本推進協議会	
	39 体感&体感！自然体験学習！！	信州やがいたいけん楽校がらす	
	40 体験して学ぶ「自然や環境」について	体験創庫かけはし	
	41 火おこしと簡単な野外料理、農業体験	体験創庫かけはし	
	42 自然体感プログラム	NPO法人わおん	
	43 外あそびの達人講座	NPO法人わおん	
	44 キャンプ・野外生活 基礎講座	すえなみブッシュクラフトスクール長野	

環境学習プログラム 教科・領域との関連について

ご要望に応じ対応可能ですので、あくまで参考としてください。

分類	No	講座名称	関連する主な教科・領域						
			社会	理科	図工 美術	技術 家庭	生活	総合	
校内	きく・みる	1	気候変動とSDGs						
		2	ツキノワグマの生態を知ろう						
		3	山へ行こう！歩いて。感じて。学ぶ自然環境。						
		4	使わないものはゴミではなく資源						
		5	まつもとの環境について学ぼう 「松本市環境基本計画関連講座」						
		6	地球環境問題・地球温暖化問題と自然エネルギーを学ぶ						
		7	生きものから学ぶ環境学習						
		8	梓川大好き！大河の一滴プロジェクトスライドショー						
	たべる	9	ぬかくどご飯炊き体験						
		10	木の授業とバウムクーヘン作り						
		11	炭用石窯でピザ焼体験						
	つくる	12	木材の活用法(小物づくり)						
		13	裁縫作業指導(マイ箸収納用袋作成)						
		14	竹筒と蜜ろうを使ったキャンドルづくり						
		15	自然素材で簡単工作						
	実験する	16	やさしい放射線の実験教室						
		17	水はどこから？						
		18	木質バイオマスエネルギー利用方法						
		19	あかりのエコ教室						
		20	エコと太陽光発電教室						
		21	ワクワク下水道教室						
		22	小水力発電機等による自然エネルギー体験						
		23	アウトドアから学ぶ防災・災害対策						
		24	手作りろ過器で飲み水作り(水の循環と森の役割を学ぶ)						
		25	着火、焚火体験から学ぶ燃焼の科学						
校外	公園等	26	身近な自然観察						
	川	27	水辺の観察会						
		28	水辺の生物の観察会						
		29	生き物観察から不思議や疑問を見つけよう！						
		30	地元の川大好き！リバーアドベンチャー						
		31	梓川&奈良井川&犀川ラフティング						
		32	水殿ダムラフトピクニック(ダム見学付き)						
	山	33	地元の山が100倍好きになる登山学						
	特定の場所・その他	34	謎解きウォーク体験						
		35	手植えでの田植え・手刈りでの稲刈り・はぜかけ 精米工場の見学と、流通、循環について						
		36	石窯ピザづくりたいけん						
37		いきもの探しと観察及び環境教育講座							
校内外両方で可	38	プランター菜園講座							
	39	体感&体感！自然体験学習!!							
	40	体験して学ぶ「自然や環境」について							
	41	火おこしと簡単な野外料理、農業体験							
	42	自然体感プログラム							
	43	外あそびの達人講座							
	44	キャンプ・野外生活 基礎講座							

講師の選定、講座内容の作成に関して、環境教育講師団体、中信地区環境教育ネットワーク等の協力をいただいています。

【分類：校内 - きく・みる】

講座名称	気候変動とSDGs (講座 No.1)
支援事業内容	<p>気候変動とSDGsを学びます。 気候変動とはどんなことで、地球上で何が起きているのか 私たちはこれからどうしたらよいか SDGsとは何か、その本質はどのようなことなのか</p> 
対象	小学4年生以上
時間数	1時間程度
講師人数	子どもの人数に関係なく講師1人
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時限毎)</p> <p>②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・なし</p>
学校側で必要な準備	プロジェクターとスクリーン (なければ講師が持参します)
講師からの持込資材等	説明用教材
講師について	2012年2月設立の任意団体です。「地域にあるものをいかした暮らし」の追求をポリシーとして活動しています。 講師は、東京工業大学で3年間、信州大学で4年間の非常勤講師を務めた経験があります。
開催実績	2014～2017年度 会田中学校 木質バイオマス活用 2017年度 清水小学校 防災とバイオマス
その他	・プログラム実施の2カ月前には、申込の連絡をしてください。 ・No.18の講座も提供しています。
講師 連絡先	<p>【団体名】自然エネルギーネットまつもと 【担当者名】平島安人 【代表者名】平島安人 【TEL】0266-52-0160 (留守電) 【FAX】0266-52-0160 【Eメール】nematsu@gmail.com 【HP】http://www.enet-matsumoto.net 【住所】〒392-0023 諏訪市小和田南9-3</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - きく・みる】

講座名称	ツキノワグマの生態を知ろう (講座 No.2)
支援事業内容	<p>講師を派遣し学校近隣 (校内を含む) で行う学習支援 パワーポイントを用いた講義</p> 
対象	小学1年生から中学3年生まで
時間数	45～90分程度
講師人数	子ども100人に講師2人
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時限毎)</p> <p>②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・なし</p>
学校側で必要な準備	・スクリーン ・プロジェクター
講師からの持込資材等	・パソコン ・トランクセット (クマの毛皮、頭骨等)、クマの着ぐるみ
講師について	ツキノワグマの生息環境の保護保全を図り、野生動物と人間の共存を実現することを目的として、20年以上に渡り、ツキノワグマの生態研究および保護管理の活動を行っています。授業は、実際にツキノワグマの研究を行うメンバーが実施します。
開催実績	平成27年度 安曇小中学校 ツキノワグマの生態を知ろう 平成28年度 奈川小学校 ツキノワグマの生態を知ろう 平成30年度 田川小学校 山の動物 令和2年度 会田中学校 ツキノワグマってどんな動物？ 大野川小学校 ツキノワグマの生態を知ろう
その他	
講師 連絡先	<p>【団体名】NPO法人 信州ツキノワグマ研究会 【担当者名】浜口あかり 【代表者名】岸元良輔 【TEL】0263-36-1884 (不在が多いため、他の方法でご連絡ください) 【FAX】0263-36-1884 【Eメール】kumaken_shinshu@yahoo.co.jp 【HP】https://kumakenshinshu.wixsite.com/kumaken 【住所】〒390-0876 松本市開智2-9-8</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - きく・みる】

講座名称	山へ行こう！歩いて。感じて。学ぶ自然環境。（講座 No. 3）
支援事業内容	<p>学校登山の事前学習とあわせて、信州の山を知って楽しむための講座。山の魅力、山の特徴、登山の効用、山の楽しみ方、山との関わりなどについて、講義とアクティブラーニング（能動的な学習）を通して学びます。子ども達が山を好きになることは、これからの地域の魅力作りパワーの源になります。そして、SDGs（持続可能な開発目標）を意識した地域づくりの原点にもなります。また、先生方も現在の登山の登山のスタンスなどを学んでいただきます。また、先生方にも現在の登山の登山のスタンスなどを学んでいただきます。また、先生方にも現在の登山の登山のスタンスなどを学んでいただきます。</p> 
対象	小学4年生から中学3年生まで、特別支援学級
時間数	90分程度
講師人数	1学年に講師1人（学年単位で実施できます。）
費用	<p>① 講師謝礼 - 【手数料】 ・講師1人につき5,000円（授業1時限分毎）</p> <p>② コース・学年全体に必要なもの - 【消耗品費】 ・なし</p> <p>③ 個人で必要なもの - 【学年費等】 ・なし</p>
学校側で必要な準備	パワーポイントの使用ができることと、軽い運動ができるスペース
講師からの持込資材等	パソコン
講師について	2005年に設立された、長野県山岳地帯を主な活動場所とするNPO法人です。登山ガイド・自然ガイドのライセンス保持者で構成されています。登山ガイドの松尾省吾他、学校登山サポータープログラムを長年担当しているガイドが実施いたします。信州の子どもの遊び、山好きになるきっかけを作りたい。山好きになって、山の遊びを沢山知ってもらえれば、登山や野外で活動は大人になっても続けられることができます。“持続可能な登山と自然体験”を目指して活動しています。
開催実績	2012、14年度 会田中 2015年度 開智小「シカと環境のワークショップ」（美ヶ原キャンプ時） 2016年～18年度 松本市環境学習講座「シカの角を探そう」等 その他学校登山、上高地学習など多数実績があります。
その他	<p>学校登山実施の申し込みがなくてもご利用いただけます。</p> <p>小学校の美ヶ原登山などへの出前講座も可能です。</p> <p>【団体名】 信州まつもと山岳ガイド協会やまなみ 【担当者名】 松尾省吾 【TEL】 0263-34-1543 【FAX】 0263-55-6194 【メール】 matsusho2013@ab.auone-net.jp 【HP】 http://www.cncr-matsumoto.net 【住所】 〒390-0304 松本市大町1082-4</p> <p>①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当（FAX：32-7604）にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打ち合わせをする。④当日を迎える。</p>

【分類：校内 - きく・みる】

講座名称	使わないものはゴミではなく資源（講座 No. 4）
支援事業内容	<p>当団体が支援しているカンボジアやフィリピンの子どもの現状や暮らしている様子について学び、現地の子どもの様子をどうやって応援するか、子どもたちとアイデアを出し合い、実践する講座です。</p> <p>【取組例】 不要になった文房具などを家庭や友人などに呼び掛けて、集め、実際に梱包して現地に発送するまでを体験する。</p> <p>①環境負荷の現状について知る ②不用品がゴミではなく資源であること学ぶ ③必要としている国の人たちに実際に届ける体験をする</p> <p>自らの生活の中で「不要になったもの」を廃棄物でなく「資源」としてとらえることで、未来の環境負荷を軽減することの大切さが学べます。</p>
対象	小学校中学年～中学生まで
時間数	2時間くらいが望ましい。（連続可）
講師人数	子ども30人に講師2～3人
費用	<p>①講師謝礼 - 【報償費】 ・講師1人につき5,000円（授業1回分毎） ・交通費（自家用車） →@37円/km×（岡田周辺から学校までの距離）×2往復</p> <p>②コース・学年全体に必要なもの - 【消耗品費】 ・なし</p> <p>③児童個人で必要なもの - 【学年費等】 ・材料費等、必要物品 ・資料作成の印刷代</p>
学校側で必要な準備	DVD視聴用の視聴覚設備、裁縫道具、鋏、糊など
講師からの持込資材等	視聴用映像ソフト、参考図書、写真、材料など
講師について	再利用推進活動を文化活動かしてとらえ、実践して30年。団体は平成14年発足。生活者自身がリユース、市民交流、福祉支援、まちの賑わいづくりを4つの趣意として、消費者のリユースフリーマーケット活動を年間40開催、リユースで回収した物品で海外の児童教育支援をする活動、福祉活動やボランティア活動、市民活動などの企画や広報の支援も行っています。
開催実績	<p>・カンボジアの小学校へのリユース楽器の回収、メンテナンス、座学から発送までを現地小学校3年生、寿台児童館、学童クラブ等で開催。</p> <p>・市内の児童館を運営するNPO法人と協働で、各児童館の児童が、ペットボトルなどリメイクして作った作品を持ち寄り、先生たちと「リユースバザー」を行って震災で被災した門脇小学校の支援イベントを寿台児童館にて実施。</p>
その他	<p>【団体名】 フリマネット信州 【担当者名】 立石恵子 【TEL】 090-9664-5510 【FAX】 0263-55-4451 【メール】 furimanet@yahoo.co.jp 【HP】 http://furimanet.com/</p> <p>①申込書の内容を上記電話番号に伝える。②同じものを教育文化センター担当（FAX：32-7604）にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打ち合わせをする。④当日を迎える。</p>
講師連絡先	
申込み方法	

【分類：校内 - きく・みる】

講座名称	まっものとの環境について学ぼう 〔松本市環境基本計画関連講座〕 (講座 No.5)
支援事業内容	 <p>松本市民である私たちが取り組むべき5つの柱について、パワーポイント等を使って学習し、自分たちになにができるのか、一緒に考えます。学習内容は、以下の1～5の中から組み合わせが可能です。(要相談)</p> <ol style="list-style-type: none"> 地球にやさしく 地球温暖化を防ぐために一人ひとりが節電や省エネに取り組むことの重要性を学びます。 資源を大切に 「もったいない」をキーワードとした3Rの取組みやごみの現状、食品ロス、わたしたちにできることなどについて学びます。 安心・安全な暮らし 市内の騒音や水質などの環境の状況や、私たちの行動がどのようにに環境に影響を与えるのかについて学びます。 自然のめぐみ 生物多様性とは何か、松本市の生物多様性の特徴や課題について、わかりやすく学びます。 心地よいまち 身近にある緑や心地よい環境、松本らしい街なみを守るための取組みについて学びます。
対象	小学4年生以上
時間数	1 時間
講師人数	講師 1 ～ 2 名
費用	①講師謝礼 ・無料 ②クラス・学年全体に必要なもの ・なし ③児童個人で必要なもの ・なし
学校側で必要な準備	電源の確保
講師からの持込資料等	プロジェクター、スクリーン、PC、配布資料等
講師について	
開催実績	令和2年度 二子小4学年
その他	
講師連絡先	【団体名】松本市環境・地域エネルギー課 【担当者名】阿部 【TEL】34-3268 (平日 8時30分～17時15分のみ対応可) 【FAX】34-3202 【メール】s-kankyo@city.matsumoto.lg.jp 【住所】〒390-8620 松本市丸の内3-7
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打合せをす。④当日を迎える。

【分類：校内 - きく・みる】

講座名称	地球環境問題・地球温暖化問題と自然エネルギーを学ぶ (講座 No.6)
支援事業内容	 <p>気象予報士が、地球環境や身近な環境問題について、スライドや教材を用いて講習します。地球環境、異常気象と自然災害、ごみ問題、省エネルギー・自然エネルギー、SDGs等について学びます。</p>
対象	小学校高学年から中学生まで
時間数	要相談
講師人数	1クラス～1学年に講師1人
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時間毎) ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・なし
学校側で必要な準備	プロジェクター、スクリーン (※体育館、講堂などで実施する場合はマイク)
講師からの持込資料等	パソコン、教材
講師について	気象予報士の資格を持ち、市内で地球温暖化防止活動を行う市民団体「エコネットまつもと」の代表を務めています。市の環境審議会委員、県の地球温暖化防止活動推進員等としても活動しています。
開催実績	随時開催 市民向けワークショップ・松本市環境学習講座 (エコスクール) 内での講習 平成30年度 明善小
その他	・「竹筒と蜜ろうを使ったキャンドルづくり (講座 No.13)」、「小水力発電機等による自然エネルギー体験 (講座 No.21)」と同日実施が可能です。(要相談) ・No.14、22の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】松本市地球温暖化防止市民ネットワーク (エコネットまつもと) 【担当者名】鈴木 喜一郎 【代表者名】宮澤 信 【TEL】0263-57-5460/080-5109-9715 【FAX】0263-57-5460 【メール】— 【HP】https://www.city.matsumoto.nagano.jp/smph/shisei/kankyoiho/kankyo_kyoiku/ecoclub/econet.html 【住所】—
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打合せをす。④当日を迎える。

【分類：校内・きく・みる】

講座名称	生きものから学ぶ環境学習 (講座 No. 7)
支援事業内容	身近な生き物を含む、いろいろな生き物に見られる不思議、驚き、賢さ、美しさ、面白さ等を、スライドを用いて楽しく説明し、生徒にそれらについて質問をし理解を深める中で、人にとつての環境の大切さを学べる講座です。  
対象	小学校4年から中学校まで、特別支援学級
時間	45分、または90分程度
講師人数	子ども人数に関係なく講師1人
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎) ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・なし
学校側で必要な準備	プロジェクター、スクリーン、マイク。講義レジメの印刷配布
講師からの持込資材等	パソコン
講師について	講師は信州大学で30年以上教鞭をとるとともに、現在も非常勤講師を務めています。各種の講演会での講師経験を持ち、毎年、小学生から大人までを対象に県内外で講演させて頂いています。
開催実績	平成30年度 田川小学校、芳川小学校、信明中学校 令和元年度 田川小学校、鎌田中学校、本郷公民館、竹瀬公民館、内田公民館、沢村公民館、岡田児童センター等
その他	講師は市外の県内、県外で年間10件以上の講演を行っています。No.29の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】 松本ホテル学会 【担当者名】 藤山静雄 【代表者名】 藤山静雄 【TEL】 0263-46-3275 / 携帯 080-3481-3741 【FAX】 0263-46-3275 【Eメール】 sfujiya@shinshu-u.ac.jp 【HP】 https://www.facebook.com/matsumoto.hotaru/ 【住所】 〒390-0311 松本市水波25-6
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内・きく・みる】

講座名称	梓川大好き！大河の一滴プロジェクトスライドショー (講座 No. 8)
支援事業内容	山&川&水の繋がりが、大切さ、危険性、成り立ち、現状が学べます!! 
対象	小学1年生から中学3年生まで、特別支援学級
時間数	1時間程度 (内容によって変動有)
講師人数	子ども30人に講師1名 (1クラス or 学校単位で1講師も可能)
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎) ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・特になし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・特になし
学校側で必要な準備	スクリーン・プロジェクター
講師からの持込資材等	PC・レスキュー用品など
講師について	2014年12月に松本市安曇に産声を上げたアウトドアガイド&ツアー会社。登山ガイド、沢登り、ラフティング、スノーシューなどのアクティビティを中心に、各種安全講習会、子ども冒険キャンプ、クリーニングを梓川などの地域貢献活動などと、松本の大自然を春夏秋冬365日全身で感じられるプログラムを展開中。ガイド&ツアーコンセプトは「風流であれ! アナログであれ!!」。松本を愛する個性豊かなメンバーでお待ちしております。
開催実績	令和2年度 鎌田小学校 「川の学習～手作り船で遊ぼう～」 田川小学校 「人の暮らしと川・犀川下り」 波田小学校 「川の果てまで行ってみよう」 信大付属松本小学校 「作って浮かべて未来号」 開明小学校 「川で遊ぼう! 薄川」 奈川小学校 「梓川ラフティング」 大野川小学校 「乗鞍散歩」 梓川リバーアーバードベンチャーファインアル」 安曇小学校 「奈良井川、梓川、犀川ラフティング」 安曇小学校 「川の上流を探検してみよう!」 筑摩小学校 「薄川で遊ぼう!」
その他	・No.30、31、32、33の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】 リトルピークス 【代表者名】 小峰邦良 【担当者名】 小峰邦良 【TEL】 0263-93-1243 / 090-3561-5351 【FAX】 0263-93-1243 【Eメール】 mine@litttlepeaks.jp 【HP】 https://www.littlepeaks.jp/ 【住所】 松本市安曇 4306-7
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - たべる】

講座名称	ぬかくどご飯炊き体験 (講座 No.9)
支援事業内容	昔ながらの「ぬかくど釜」でご飯を炊き、塩むすびを作って美味しいお米を味わってもらいます。「ぬかくど釜」は、昭和初期に農家で使用されていた「ぬか」＝「もみ殻」を使った釜です。炊き上がりまでの時間に、紙芝居やクイズで、安曇野の米や水、ぬかくどごについて学びます。  
対象	小学校3年生以上中学3年生まで、特別支援学級
時間数	2時間分程度
講師人数	子ども30人に講師3人程度
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・安曇野産無農薬米 6斤(おむすび150個)で約6500円
学校側で必要な準備	申込時・事前の打合せを通じて別途相談
講師からの持込資材等	ぬか、釜、クッキングシート、その他の備品
講師について	Iターン者と地域住民との交流による新しいふささとづくりを指して2006年に設立。2007年度から自然、歴史、文化を学びながら歩く「ふるさとウォッチング」、2015年度から地域ガイド育成講座「案内人の教室」をスタートし、2018年度より松本観光ホスビタリテイカレッジ「ガイドコース」の講師も務めています。
開催実績	(ぬかくどご飯炊き体験) 2015～2017年度 会田中学校 2020年度 菅野小学校 2015～2020年度 二子小学校
その他	・No.34の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団 【担当者名】宮崎 崇徳 【代表者名】宗像 章 【TEL】0263-81-1325 (9-18時なら連絡可能) 【FAX】0263-81-1280 【Eメール】lifeport@nifty.com 【HP】http://azumino-furusato.com/ 【住所】〒399-8304 安曇野市穂高相原 1132-2
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメール又はFAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - たべる】

講座名称	木の授業とバウムクーヘン作り (講座 No.10)
支援事業内容	木の成長を体験的に学べる学習です。木が成長する際、1年に1つの門ができ、それが十年十年何百年と続くことで年輪ができます。木の成長に思いを馳せながら、炭火を使って材料からバウムクーヘンを作ります。また、竹や間伐材などを活用する学習も可能です。  
対象	小3から中3まで、特別支援学級
時間数	120分程度
講師人数	子ども15人に講師1人
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎) ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・炭(10kg) 約1,000円/児童15人分 ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・食材 約4,000円/児童15人分 (卵(大)40個、バター600g、ホットケーキミックス1kg、小麦粉500g 砂糖600g)
学校側で必要な準備	長机1台/児童15人分
講師からの持込資材等	レンビ等の資材、竹の幹などの資材、機材一式
講師について	平成13年に設立し、寿地区の財産区有林の整備作業と地域の学校での環境教育などを実施しています。会員数65名。
開催実績	平成28年度 鎌田小、二子小 平成29年度 今井小、二子小(4年・特支)、四賀小、鎌田小、会田小 平成30年度 会田中、四賀小、菅野小、二子小(4年・特支) 令和元年度 梓川小、二子小、四賀小、菅野小
その他	・No.12の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】寿さと山くらぶ 【担当者名】鈴木喜一郎 【代表者名】白川良昌 【TEL】0263-57-5460 / 080-5109-9715 【FAX】0263-57-5460 【住所】〒399-0022松本市松原9-17
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - たべる】

講座名称	炭用石窯でピザ焼体験 (講座 No.1 1)
支援事業内容	炭を使って小型移動式石窯を加熱しながら再生エネルギーや蓄熱エネルギーについて学び加熱した石窯でピザを焼き試食する講座です。  
対象	特別支援学級
時間	90分程度
講師人数	子ども5人程度に講師1人
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎) ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・ピザ材料代 100円/1人(1人あたりピザ20cmの半分) ・講座実施場所 火を散えるところ ・参加者の食物アレルギーの有無事前確認 ・必要に応じた飲み物
学校側で必要な準備	石窯 炭 設置台 ピザ材料 その他備品
講師からの持込資材等	
講師について	平成28年にNPO設立し地元間伐材を利用して再生エネルギーの活用と環境問題への寄与を図り、石窯体験を通じ青少年の健全育成へ寄与する団体です。会員数は11名です。
開催実績	令和元年度 岡田小学校あさひ分校 女鳥羽中学校あさひ分校 令和2年度 岡田小学校あさひ分校 松本工業高校機械科
その他	プログラム実施の1ヵ月前には申込の連絡をしてください。 4月から11月、3月の間のみプログラム実施が可能です。 雨天、強風は実施が不可能な場合があるので直前での実施日変更の可能性あり ・No.36の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】NPO法人石窯スマイル研究会 【担当者名】桐原 眞幸 【代表者名】桐原 眞幸 【TEL】0263-36-8835 【FAX】0263-36-8835 【メール】ishigama.s.kenkyu@road.ocn.ne.jp 【HP】http://smilestone-labo.com 【住所】〒390-0804 松本市横田 4-1-1
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - つくる】

講座名称	木材の活用法(小物づくり) (講座 No.1 2)
支援事業内容	間伐による里山の保全、間伐材の活用について学習しながら、木工作業を行います。木の持つ魅力や種類の違いなどを五感で感じて、自ら創造する活動です。 また、山林での森林整備体験なども行います。(応相談)  
対象	小学4年生から中学3年生まで
時間数	120分程度
講師人数	子ども6〜8人に講師1人
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎) ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・木工材料費1人あたり約100円(事前の相談で決定)
学校側で必要な準備	図工室、木工室等の会場(電源がある部屋)
講師からの持込資材等	木工に必要な木材、機材一式
講師について	平成13年に設立し、寿地区の財産区有林の整備作業と地域の学校での環境教育などを実施しています。会員数65名。
開催実績	平成27年度 鎌田小学校、会田中学校(森林整備指導) 平成28年度 島立小学校、二子小学校、会田中学校、菅野小学校 平成29年度 島内小 平成30年度 源池小 令和元年度 梓川小、四賀小、菅野小、二子小 明善小(6年・特支)
その他	・事前学習として、木の学習や素材探し(小物の飾りとなるドングリ、押し花等)の対応も可能です。 ・No.10の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】寿と山くらぶ 【担当者名】鈴木喜一郎 【代表者名】白川良昌 【TEL】0263-57-5460 / 080-5109-9715 【FAX】0263-57-5460 【住所】〒399-0022 松本市松原 9-17
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内－つくる】

講座名称	裁縫作業指導（マイ箸収納用袋作成）（講座 No.13）
支援事業内容	<p>マイ箸づくりで作った箸を収納するための袋を自作するための指導講習を行います。</p> 
対象	小学校中学年以上（家庭科の授業開始後が望ましい）
時間数	2時間程度
講師人数	子ども10人に講師1人
費用	<p>①講師謝礼ー【報償費】 ・講師1人につき5,000円（授業1時限毎） ②クラス・学年全体に必要なものー【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なものー【学年費等】 ・なし</p>
学校側で必要な準備	<p>・材料（①40cm四方の布、②約40cmのひも） ・裁縫道具、アイロン</p>
講師からの持込資材等	<p>・マイ箸袋のサンプル</p>
講師について	市内在住のボランティアが作成を指導します。
開催実績	<p>平成27年度 島立小学校・信州大学教育学部附属松本小学校 平成28年度 鎌田小学校 平成29年度 信州大学教育学部附属松本小学校</p>
その他	
講師連絡先	<p>【団体名】松本市社会福祉協議会ボランティアセンター 【担当者名】堀原 【代表者名】渡辺 聡 【TEL】0263-27-3381（8:30～17:15） 【FAX】0263-27-2239 【メール】chiiki@syakyo-matsumoto.or.jp 【HP】http://www.syakyo-matsumoto.or.jp 【住所】〒390-0833 松本市双葉4番16号</p>
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当（FAX：32-7604）にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内－つくる】

講座名称	竹筒と蜜ろうを使ったキャンドルづくり（講座 No.14）
支援事業内容	<p>竹材を加工・装飾したキャンドルフード、蜜ろう製のろうそくを作ります。作品は、地球温暖化防止の啓発イベント「キャンドル・ナイト in MATSUMOTO」（6月：松本市美術館、12月：松本駅前）にて展示・点灯します。竹資源の利活用や地球温暖化防止について、作品づくりを通して楽しく学べます。</p> 
対象	小学校高学年から中学生まで、特別支援学級
時間数	2～3時間程度
講師人数	子ども5～6人に講師1人
費用	<p>①講師謝礼ー【報償費】 ・講師1人につき5,000円（授業1時限毎） ②クラス・学年全体に必要なものー【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なものー【学年費等】 ・なし</p>
学校側で必要な準備	<p>工作室の確保（※蜜ろうそくを製作する場合は、火気使用可能な教室の確保）</p>
講師からの持込資材等	<p>竹材、のこぎり、電動ドリル、軍手、蜜ろう、ガスコンロ等</p>
講師について	平成17年に設立された、市内で地球温暖化防止活動を行うネットワークです。構成13団体それぞれの環境保全活動の持ち味を活かし、「キャンドル・ナイト（6月、12月）」、「打ち水大作戦（8月）」等を行っています。
開催実績	<p>平成29年度 鎌田小、市民向けワークショップ 平成30年度 明善小、四賀小（特支）、市民向けワークショップ 令和元年度 梓川小、市民向けワークショップ2回</p>
その他	<p>・「地球環境問題・地球温暖化問題と自然エネルギーを学ぶ（講座No.6）」と同日実施が可能です。（要相談） ・竹筒キャンドルのみの製作も可能です。 ・No.6、22の講座も提供しています。</p>
講師連絡先	<p>【団体名】松本市地球温暖化防止市民ネットワーク（エコネットまつもと） 【担当者名】鈴木 喜一郎 【代表者名】宮澤 信 【TEL】0263-57-5460 【FAX】0263-57-5460 【メール】ー 【HP】 https://www.city.matsumoto.nagano.jp/smph/shisei/kankyojoho/kankyo_kyoiku/ecoclub/econet.html 【住所】ー</p>
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当（FAX：32-7604）にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - つくる】

講座名称	自然素材で簡単工作 (講座 No.15)
支援事業内容	木の輪切りや木の実を使って簡単な工作をします。ノコギリや小刀など道具が安全に使えるようになる講座です。  
対象	学年に合わせた内容で実施可能、特別支援学級
時間数	45分～90分程度
講師人数	子ども15人に講師1人 (安全確保の観点から、最低2名での実施を希望します。)
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎) ・交通費(自家用車) → @37円/km × (以下住所から学校までの距離) × 2往復 ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・工作の材料費 100～200円程度(内容による) ・工作が実施可能な場所の確保
学校側で必要な準備	学校側で必要な準備 講師からの持込資材等
講師について	工作に使う道具(のこぎり、小刀など)、自然素材(枝、木の実) 塩尻市を拠点に、自然体験活動を実施している法人です。 小学生を対象にした年間の自然体験活動や、保育園、児童館などへの出前講座を行っています。
開催実績	平成28年度 田川小学校 「学校の近くの田川でネイチャージャーゲームなどの自然体験活動」 朝日村主催「あさひ環境のつどい」の講師など 平成29年度 島内小、教育課程「自然体験(ネイチャージャーゲーム)」 平成30年度 並柳小学校「自然体験プログラム、工作」 令和元年度 菅野小学校、菅野小学校、菅野小学校、並柳小学校 令和元年度 安曇小学校、菅野小学校、菅野小学校 「自然体験プログラム」 菅野小学校「自然素材で簡単工作」 大野川小学校「外あそびの達人講座」
その他	・No.42、43の講座も提供しています。 【団体名】NPO法人わおん 【代表者名】山田 勇 【担当者名】山田 勇 【TEL】0263-87-3005 (朝9時以降なら連絡可能) 【FAX】0263-87-4024 【メール】waon@npowaon.com 【HP】http://waon.naganoblog.jp/ 【住所】〒399-0704 塩尻市広丘郷原 685
講師 連絡先	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前
申込み方法	に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	やさしい放射線の実験教室 (講座 No.16)
支援事業内容	放射線は自然に存在し、正しい管理のもとで利用されることで、人の役に立つこと、また、原子力発電所の事故を受けて、これからのエネルギーについて考えるきっかけになればと思います。普段目に見えない放射線の飛んだ軌跡を簡単に観察でき、放射線測定器を使って放射線量の測定を体験できます。  
対象	小学3年生から中学3年生まで
時間数	120分程度
講師人数	子ども20人に講師1人
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎) ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なもの、その他 → 【学年費等】 ・ドライアイス
学校側で必要な準備	スクリーン、プロジェクター
講師からの持込資材等	実験道具一式、パソコン
講師について	松本市内で40年間、環境分析を行ってきた会社です。環境問題がクローズアップされる昨今、理科実験と環境問題を組み合わせ、難しくとらえられがちな化学物質などを、わかりやすく解説したいと考えています。
開催実績	平成27年度 会田中学校
その他	・No.17の講座も提供しています。 【団体名】株式会社 環境技術センター【代表者名】齊藤和彦 【担当者名】宮澤 運美 【TEL】0263-27-1606 (受付時間 8:40～17:10) 【FAX】0263-27-2133 【メール】miyazawa.m@kgcenter.co.jp 【HP】http://www.kgcenter.co.jp 【住所】〒399-0033 松本市大字笹賀 5652-166
講師 連絡先	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前
申込み方法	に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	水はどこから？ (講座 No.17)
支援事業内容	<p>海や川の水が蒸発して雲になり、雨となって地上に落ちてきて、また海に流れるという循環が、地球が誕生して何億年も前から繰り返され、これからも続いていくはず。だから、未来の人たちのためにも水は大切に、汚さないように使わなければならないことを実感できたいと思います。また、3種類の水を用意して、きき水の体験をしてもらいます。日本の水とヨーロッパの水の味の違いを体験して、どうして味の違いが出のかを体験します。</p> 
対象	小学3年生から中学3年生まで
時間数	120分程度
講師人数	子ども20人に講師2名
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎) ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・硬度の違うペットボトル水(日本の天然水、コントレックス) ・紙コップ ・バックテスト(硬度) ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・なし</p>
学校側に必要な準備	スクリーン、プロジェクター
講師からの持込資材等	実験道具一式、パソコン
講師について	松本市内で40年間、環境分析を行ってきている会社です。環境問題がクローズアップされる昨今、理科実験と環境問題を組み合わせ、難しくとらえられがちな化学物質などを、わかりやすく解説したいと考えています。
開催実績	<p>平成27年度 波田小学校 平成28年度 田川小学校 平成29年度 安曇小学校 令和元年度 大野川小学校、鎌田小学校、田川小学校 令和2年度 安曇小学校、二子小学校、鎌田小学校</p>
その他	・No.16の講座も提供しています。
講師連絡先	<p>【団体名】株式会社 環境技術センター【代表者名】齊藤和彦 【担当者名】宮澤 惠美 【TEL】0263-27-1606(受付時間8:40～17:10) 【FAX】0263-27-2133 【Eメール】miyazawa.m@kgcenter.co.jp 【HP】http://www.kgcenter.co.jp 【住所】〒399-0033 松本市大字笹賀5652-166</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールにも送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	木質バイオマスエネルギー利用方法 (講座 No.18)
支援事業内容	<p>木質バイオマス活用の重要性和活用方法を学びます。 ロケットストーブを使って、松ぼっくりや木の枝、竹などの木質バイオマスからエネルギーを取りだす体験をします。</p> 
対象	小学5年生以上
時間数	2時間～3時間程度
講師人数	子ども30人に対して講師1人必要(体験型の場合は10人に1人)
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎) ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・(炊飯を伴う場合)ポリ袋 ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・(炊飯を伴う場合)米代</p>
学校側に必要な準備	火を使っても大丈夫な場所の確保
講師からの持込資材等	体験用の機材一式
講師について	2012年2月設立の任意団体です。「地域にあるものをいかした暮らし」の追求をポリシーとして活動しています。 講師は、東京工業大学で3年間、信州大学で4年間の非常勤講師を務めた経験があります。
開催実績	<p>2014～2017年度 会田中学校 木質バイオマス活用 2017年度 清水小学校 防災とバイオマス</p>
その他	・プログラム実施の2カ月前には、申込の連絡をしてください。 ・No.1の講座も提供しています。
講師連絡先	<p>【団体名】自然エネルギーネットワークまつもと 【担当者名】平島安人【代表者名】平島安人 【TEL】0266-52-0160(留守電) 【FAX】0266-52-0160 【Eメール】nematsu@gmail.com 【HP】http://www.cnet-matsumoto.net 【住所】〒392-0023 諏訪市小和田南9-3</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールにも送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	あかりのエコ教室 (講座 No.19)
支援事業内容	3種類のランプ(白熱灯・蛍光灯・LED)を使った実験で特徴や違いを発見し発表します。ランプのしくみや省エネについて学べる講座です。  
対象	小学校4年生から6年生まで
時間数	1時間(45分)
講師人数	子ども40人に講師3名
費用	①講師謝礼 ・無料 ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・なし
学校側で必要な準備	スクリーンもしくはモニター・TV・プロジェクター
講師からの持込資材等	手回し発電機・電力測定器 (4~5人で1台)
講師について	第9回「キャリア教育アワード」優秀賞 受賞
開催実績	平成27年 波田小学校6年 平成28年 安曇小学校5・6年 平成29年 鎌田小学校5年・清水小学校4年
その他	・プログラム実施の3カ月前には申込の連絡をお願いします。 ・No.20の講座も提供しています。
講師 連絡先	【団体名】 パナソニック(株)ライフソリューションズ社 松本電材営業所 【代表者名】 妹尾 啓太郎 【担当者名】 丸山 貴世 【TEL】 0263-27-4501 【FAX】 0263-27-4509 【Eメール】 maruyama.kiyo@jp.panasonic.com 【HP】 http://panasonic.co.jp/ls/company/education/ 【住所】 〒399-0004 松本市市場3-1-0
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	エコと太陽光発電教室 (講座 No.20)
支援事業内容	環境にやさしい太陽光発電のしくみを学び、実験を通じて太陽光発電の特徴(長所・短所)に気づき、考え、発表します。 太陽光発電の特徴を理解し、日常生活に置き換えて学べる講座です。  
対象	小学校4年生から6年生まで
時間数	1時間(45分)
講師人数	子ども40人に講師3名
費用	①講師謝礼 ・無料 ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・なし
学校側で必要な準備	スクリーンもしくはモニター・TV・プロジェクター
講師からの持込資材等	太陽電池・温度計・電力計他
講師について	第9回「キャリア教育アワード」優秀賞 受賞
開催実績	(あかりのエコ教室) 平成27年 波田小学校6年 平成28年 安曇小5・6年 平成29年 清水小4年、鎌田小5年
その他	・プログラム実施の3カ月前には申込の連絡をお願いします。 ・No.19の講座も提供しています。
講師 連絡先	【団体名】 パナソニック(株)ライフソリューションズ社 松本電材営業所 【代表者名】 妹尾 啓太郎 【担当者名】 丸山 貴世 【TEL】 0263-27-4501 【FAX】 0263-27-4509 【Eメール】 maruyama.kiyo@jp.panasonic.com 【HP】 http://panasonic.co.jp/ls/company/education/ 【住所】 〒399-0004 松本市市場3-1-0
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	ワクワク下水道教室 (講座 No.2.1)
支援事業内容	<p>下水道の仕組みについて学べる講座です。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 浄化センターまでの下水の流れ 2 ペットボトルを使った紙の溶け方の実験 3 顕微鏡映像をモニターに映して微生物を観察  <p>社会科見学で下水の浄化センターに行く前に、予習として利用していたとくと効果的です。</p> <p>小学4年生</p>
対象	小学4年生
時間	1時間(1クラス毎)
講師人数	講師2〜3名
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料 <p>②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>③児童個人に必要なもの → 【学年費等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
学校側で必要な準備	教室の確保(テーブルごとに水道のある理科室または家庭科室等) 電子黒板またはモニターの確保 電源の確保
講師からの持込資材等	顕微鏡カメラセット、パソコン等
講師について	松本市上下水道局 下水道課 宮測及び画高浄化センター職員
開催実績	平成30年度 松本市内小学校10校 (すべて小学4年生) 令和元年度 松本市内小学校14校 令和2年度 松本市内小学校6校
その他	開催前に講師等の確認を兼ねて打合せをお願いします。(20分程度)5〜7月に社会科見学の学校が多いため、ご希望の日程に添えない場合があります。また、ワクワク下水道教室、社会科見学ともに新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する場合がありますので、ご了承ください。
講師連絡先	<p>【団体名】 松本市上下水道局 下水道課</p> <p>【担当者名】 飯島志保</p> <p>【TEL】 27-4465 (平日8時30分〜17時15分)</p> <p>【FAX】 29-0933</p> <p>【メール】 gesui@city.matsumoto.lg.jp</p> <p>【住所】 〒390-0848 松本市画高3-1 (画高浄化センター)</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	小水力発電機等による自然エネルギー体験 (講座 No.2.2)
支援事業内容	<p>可搬式の小水力発電機を使って、水力発電の仕組みを学びます。また、ソーラーカーや発電自転車の試乗体験を通して自然エネルギーについて学びます。</p>   
対象	小学校高学年から中学生まで、特別支援学級
時間数	60分程度
講師人数	子ども30人に講師1人
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎) <p>②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>③児童個人に必要なもの → 【学年費等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
学校側で必要な準備	校内の流水(落差)がある箇所
講師からの持込資材等	可搬式小水力発電機、ソーラーカー、発電自転車
講師について	平成17年に設立された、市内で地球温暖化防止活動を行うネットワークです。構成13団体それぞれの環境保全活動の持ち味を活かし、「キャンドル・ナイト(6月、12月)」、「打ち水大作戦(8月)」等を行っています。
開催実績	平成18年度〜 松本市消費生活展への出展(ソーラーカー、発電自転車)の試乗体験)
その他	<p>・「地球温暖化問題・地球温暖化問題と自然エネルギーを学ぶ(講座No.6)」と同日実施が可能です。(要相談)</p> <p>・No.6、14の講座も提供しています。</p>
講師連絡先	<p>【団体名】 松本市地球温暖化防止市民ネットワーク(エコネットまつもと)</p> <p>【担当者名】 鈴木 喜一郎 【代表者名】 宮澤 信</p> <p>【TEL】 0263-57-5460/080-5109-9715</p> <p>【FAX】 0263-57-5460</p> <p>【メール】 —</p> <p>【HP】 https://www.city.matsumoto.nagano.jp/smph/shisei/kankyojoho/kankyo_kyoiku/ecoclub/econet.html</p> <p>【住所】 —</p>
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	アウトドアから学ぶ防災・災害対策 (講座 No.2 3)
支援事業内容	<p>何を失った人は生きていけないのか。生きていく為に最低限必要な要素を知り、非常時に身近な物を使って確保する考え方を学ぶ。その中から一番大切な体温保持する方法や火を手に入れる体験をする講座です。</p>  
対象	小4から中3まで、特別支援学級
時間	2時間程度
講師人数	1クラスに講師1人(2人以上いれれば尚良い)
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎)</p> <p>②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・1グループ(5人以下)で、新聞紙、ビニール袋、カップが必要。着火の道具約1,000円/セット</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・特になし</p>
学校側で必要な準備	火を扱うので理科室が適当かと思えます。体温保持に関する資料(1人1枚)の印刷
講師からの持込資材等	着火の道具などを必要数
講師について	<p>大人が楽しむアウトドアサバイバル学校の運営。 ○里山を舞台に、年間を通じて、大人向けのアウトドア教室を運営しています。 ○学校や自治体での出張講師、企業様での防災・災害対策研修を提供しています。</p>
開催実績	<p>平成30年度、31年度 鎌田児童センター 平成30年度 本郷図書館、公民館講座 平成30年度 塩尻市広丘小 PTA 講演</p>
その他	<p>・体験部分は幾つかあるので要相談。飲み水の確保に変更も可能。 ・No.24、25、44の講座も提供しています。</p>
講師連絡先	<p>【団体名】すなみアソシエーションクラフトスクール長野 【講師名】代表：末次克洋(すなみかつひろ) 【連絡先】中信地区環境教育ネットワーク(eeネット) 事務局 中林 直子 【TEL】0263-86-8739 携帯：090-2737-1856 【FAX】0263-86-8739 【メール】eecoconet@gominetnagano.jp</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	手作りろ過器で飲み水作り(水の循環と森の役割を学ぶ) (講座 No.2 4)
支援事業内容	<p>飲み水とは?をテーマに、飲める水と飲めない水の違い、地球規模の水の循環、森の役割について解説します。その後、ペットボトルで簡易ろ過器を作り、泥水を濾過する実験をします。</p>  
対象	小4から中3まで、特別支援学級
時間	2時間程度
講師人数	1クラスに講師1人(2人以上いれれば尚良い)
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎)</p> <p>②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・1グループ(5人ほど)に1.5ℓペットボトル2本ずつ、麵棒1本ずつ。クラスに燻炭1袋(50ℓ1,500円)、砂1袋(20kg500円)、砂利1袋(10kg500円)が必要。</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・特になし</p>
学校側で必要な準備	水を扱うので理科室が最適です。時間を短縮するため、事前にペットボトルの加工をお願いします。泥水を入れるバケツや水を汲むための容器、シャベル。
講師からの持込資材等	
講師について	<p>大人が楽しむアウトドアサバイバル学校の運営。 ○里山を舞台に、年間を通じて、大人向けのアウトドア教室を運営しています。 ○学校や自治体での出張講師、企業様での防災・災害対策研修を提供しています。</p>
開催実績	<p>平成30年度、31年度 鎌田児童センター 令和2年度 鎌田小</p>
その他	<p>・No.23、25、44の講座も提供しています。</p>
講師連絡先	<p>【団体名】すなみアソシエーションクラフトスクール長野 【講師名】代表：末次克洋(すなみかつひろ) 【連絡先】中信地区環境教育ネットワーク(eeネット) 事務局 中林 直子 【TEL】0263-86-8739 携帯：090-2737-1856 【FAX】0263-86-8739 【メール】eecoconet@gominetnagano.jp</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内 - 実験する】

講座名称	着火、焚火体験から学ぶ燃焼の科学 (講座 No.2.5)
支援事業内容	<p>燃焼に必要な(可燃物、熱、酸素)の話と、様々な着火方法の仕組みを解説します。その後、実際にマッチ、ライター、火打ち石、虫眼鏡、弓きり式火おこしを使った着火体験をする講座です。</p> 
対象	小4から中3まで、特別支援学級
時間	2時間程度
講師人数	1クラスに講師1人(2人以上いれれば尚良い)
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎)</p> <p>②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・1グループ(4人以下)で着火道具1セット/500円。弓きり式火おこし1,000円/セット</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・特になし</p>
学校側で必要な準備	火を扱うので理科室が良いと思います。
講師からの持込資材等	着火道具を必要数
講師について	<p>大人が楽しむアウトドアサバイバル学校の運営。 ○里山を舞台に、年間を通じて、大人向けのアウトドア教室を運営しています。 ○学校や自治体での出張講師、企業様での防災・災害対策研修を提供しています。</p>
開催実績	<p>平成30年度、31年度 鎌田児童センター 平成30年度 本郷図書館、公民館講座 平成30年度 芳川小学堂</p>
その他	<p>・着火体験の代わりに焚火(片付けまで)体験もできます。 ・No.23、24、44の講座も提供しています。</p>
講師連絡先	<p>【団体名】すえなみブッシュクラフトスクール長野 【講師名】代表：末次草洋(すえなみかつひろ) 【連絡先】中信地区環境教育ネットワーク(eeネット) 事務局長 中林 直子 【TEL】0263-86-8739 携帯：090-2737-1856 【FAX】0263-86-8739 【メール】ecoconet@gominetnagano.jp</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX：32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外 - 公園等】

講座名称	身近な自然観察 (講座 No.2.6)
支援事業内容	<p>自然の楽しみ方、自然と人や動物と植物のつながりなど、自然保護や環境保全の考え方を学年に応じ、自然観察から学びとります。四季折々を楽しむながら、身近な場所の校庭や水辺(小川)、まちなか等で自然観察のガイドを行います。 また、外来植物(外来生物)のお話をすることもできます。必要に応じて、フィールドに出る前あるいは後に、教室内でのレクチャーを希望される場合は対応いたします。別の日程で組んでいただくことも可能です。</p> 
対象	小学生以上、学年に応じた授業内容を相談しながら内容決定 特別支援学級(要相談)
時間数	1講座で2～2.5時間程度
講師人数	子ども15人に対して講師1人が理想的(先生と協力して1クラス程度まで)
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎)</p> <p>②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・なし</p>
学校側で必要な準備	申込時・事前の打合せを通じて別途相談
講師からの持込資材等	
講師について	1996年、自然を学び環境を考える仲間と会をつくる。「自然観察から始まる自然保護」を目指して、自然観察会やボランティア活動などを実践。自然と人、動物、植物などのつながりや気付きから、自然保護、環境保全へと展開する環境学習を、大人や子どもと共に学び合っている。
開催実績	<p>平成27年度～令和2年度 今井小学校 学習公園にて、身近な自然観察 令和元年度 菅野小学校 校庭にて、身近な自然観察</p>
その他	<p>上高地パークボランティアとしての中学校自然観察ガイド(5件/年)、松本首中学校でのガイドの経験有、市内地区公民館での自然観察ガイド等、環境政策課 エコスクール</p>
講師連絡先	<p>【団体名】自然観察の会 ひこぼえ 【代表者名】村上さよ子 【担当者名】村上さよ子 【TEL】0263-26-1573 / 090-7204-8140 (いつでも連絡可能) 【FAX】0263-26-1573 【住所】〒390-0847 松本市笹部3-11-3</p>
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX：32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外－川】

講座名称	水辺の観察会 (講座 No.27)
支援事業内容	<p>○水辺の生物観察の指導を行います。 ・生物採取の方法を指導し、採取した生物の名称やどんな生き物かを解説します。 ・水生生物の生息状況と、透視度やCODなどの化学的測定をかわせて行い、河川の汚染を解説します。</p>  
対象	小学校1年生～6年生 (学年に合わせた授業を行います。)
時間数	1～1.5時間
講師人数	子ども20人に講師1名
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1回分毎) ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・ ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・</p>
学校側で必要な準備	水辺観察会の手引書 (カラーコピーでも可)
講師からの持込資材等	バケツ、バット、手網、透視度計、他
講師について	水辺の自然環境の調査、環境学習、国際協力を実施する団体で主に梓川や松本地域で活動しています。
開催実績	梓川での水辺学習会 田んぼでの生きもの観察会
その他	
講師連絡先	<p>【団体名】 NPO法人 えんどっこ 【担当者名】 大月健二 【TEL】 090-4463-5887 【HP】 http://endotoko.com/ 【住所】</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記電話番号に伝える。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外－川】

講座名称	水辺の生物の観察会 (講座 No.28)
支援事業内容	<p>市内の河川などにいる水生生物の採取と観察を行います。実際に川に行き、水生生物の採集を行い、水生生物の種類ごとに分類する等、観察方法を学び、川の面白さについて実感する講座です。 【これまでに実施した学習会のテーマ】 ・日本人の川と水への意識 ・アルプスの水がもたらす恵みと課題 ・里地・里山の森と暮らしと水 ・千曲川水系における水生昆虫類の個体群構造と運伝的構造 ・松本、伊那盆地におけるトノサマガエル・ダルマガエルの分布と交雑について ・河川繁殖する鳥類への増水の影響と役割 ・トンボ類からみた日本と台湾の繋がりが ・父親が子育てをすることをコオイムシ科昆虫の繁殖生態と系統進化・種分化について ・安曇野の魚と人とのかかわり</p>  
対象	全学年 (学年に合わせた授業を行います)
時間数	3時間程度
講師人数	子ども10人に講師1人
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時間毎) ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・材料費 開催内容による (事前の相談で決定) ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・材料費 開催内容による (事前の相談で決定) 事前講義 (安全等)、網、内面が白色のプラスチック皿、ビンセット、虫めがね (10～20倍)、バケツ、ノート (スケッチ用紙)、画用紙、色鉛筆</p>
学校側で必要な準備	網類、バット、ビンセット
講師からの持込資材等	身近な川を調べ、地域文化との関係や生き物のすみかとして成立ちを考え、今後の川に関して提言する NPO 法人です。
講師について	<p>・平成27、28、29、30、令和元年度 田川小学校 ①奈良井川脇の湧水に行き水生生物を探す。 ②学校に戻り、描きだした水生生物をルーペ等で観察する。 ③水生生物の記録の書き方を講師から習い、絵と文で記録する。 ・平成28年度 信州大学教育学部附属松本小学校 年間を通して定期的に女鳥羽川を散策してきた子どもたちが、講師の先生から川の生物の解説を聞いた。川の生物の見つけ方を教わったりする事を通して、女鳥羽川への関心を更に高めた。 ・令和元年度 安曇小学校、島内小学校</p>
開催実績	
その他	
講師連絡先	<p>【団体名】 NPO法人 川の自然と文化研究所 【担当者名】 山本雅道 【代表者名】 吉田利男 【TEL】 090-5413-7161 【FAX】 0263-36-2219 【Eメール】 bassyam@shinshu-u.ac.jp</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールにも送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

講座名称	生き物観察から不思議や疑問を見つけよう！（講座 No.2.9）
支援事業内容	 <p>身近な環境（学校構内も含め）に、どんな生き物があるかを探し、見つけたものを観察します。いろいろなく、捕まえていることが分かるだけでなく、捕まえた生き物についていろいろ疑問がわきます。それらについて考え、子供たちの関心に寄り添って、彼らの発する質問に答えを見つけて解説することです。子供たちの関心を高めます。自然に関心をもち、積極的に支援します。</p> <p>1 生きものの採集と観察（構内および川も含め身近な自然の場所。学内ビオトープでも可）。観察では見つけた生き物について何を感じたか？面白い点はいやな点は？等、感じたこと、考えたことについて語ってもらいます。これらを通じて、生き物に興味を持つてなかつた子供達にも関心をもてるよう指導します。</p> <p>2 観察会後「生き物に見られる不思議、面白さ、すごさ」を主題とする講演をします（時間は要望に応じて20～60分の範囲）。最後に、子供達の感想を書いてもらいます。</p> <p>小学校中高学年、中学生（生き物観察会は低学年も可）</p>
対象	1 45分2コマ（90分） 2 45分
時間数	1 1回に対して講師1人必要、補助者1～2名（10人当たり1名） 2 講師 1名 補助者2名を予定
講師人数	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円（授業1時限毎）合計10,000円 ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・なし
費用	1 不要 2 個人の名札、筆記用具、記録用ノート。（可能なら、図鑑、バット、ピンセット、虫メガネ、ベトリ皿、プラスチック容器） 顕微鏡、実体顕微鏡、バット、図鑑等 主講師は小、中、高、大学での講師経験がありますので、学校からの要請に応じた対応が可能です。 子供向けの「生き物観察会」を市内公民館行事等で20回以上経験済みです。
学校側で必要な準備	平成30年度 田川小学校 芳川小学校 水の生物の観察会 平成31年度 田川小学校、鎌田中学校、信明中学校 令和元年度 田川小学校、内田公民館、沢村公民館、本郷公民館、田川公民館
講師からの持込資材等	・No.7の講座も提供しています。
講師について	【団体名】松本タル学（まなぶ）会 【担当者名】藤山 静雄 又は 横山裕己 【代表者名】藤山 静雄 【TEL】0263-46-3275 / 携帯080-3481-3741 横山090-1736-6771 【FAX】0263-46-3275 【Eメール】sfujiya@shinshu-u.ac.jp 【HP】https://www.facebook.com/matsumoto.hotaru/ 【住所】〒390-0311 松本市水波 25-6
開催実績	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター一担当（FAX：32-7604）にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。
その他	
講師連絡先	
申込み方法	

講座名称	地元の川大好き！リバーアドベンチャー（講座 No.3.0）
支援事業内容	 <p>地元で流れる川の楽しさ、大切さ、危険性、成り立ち、現状が学べます！！どんな川、どこの川でも出張します！</p>
対象	小1から中3まで、特別支援学級（応相談）
時間数	3時間程度（内容・河川によって変動有）
講師人数	子ども10人に講師1名（内容・河川によって変動有）
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 講師1人につき5,000円（授業1時限毎） ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・保険料¥200/参加者（学校保険にて対応可能） ・レンタル料金¥500（ヘルメット・ウェットスーツ・ライフジャケットを含む） プロジェクター・水着・運動靴・飲み物など ヘルメット・ウェットスーツ・ライフジャケット・PC・レスキュー用品・ファーストエイドなど 2014年12月に松本市安曇に産声を上げたアウトドアガイド&ツアー会社。登山ガイド、沢登り、ラフティング、スノーシューなどのアクティビティーを中心に、各種安全講習会、子ども冒険キャンプ、クレイジーアッパー梓川などの地域貢献活動などと、松本の大自然を春夏秋冬365日全身で感じられるプログラムを展開中。ガイド&ツアーコンセプトは「風流であれ！アナログであれ！！」。松本を愛する個性豊かなメンバーでお待ちしております。
学校側で必要な準備	鎌田小学校 「川の学習～手作り船で遊ぼう～」 田川小学校 「人の暮らしと川・犀川下り」 波田小学校 「川の果てまで行ってみよう」 信大付属松本小学校 「作って浮かべて未来号」 開明小学校 「川で遊ぼう！薄川」 奈川小学校 「梓川ラフティング」 大野川小学校 「乗鞍散歩」 梓川リバーアドベンチャーファインアル 安曇小学校 「奈良井川、梓川、犀川ラフティング」 安曇小学校 「川の上流を探検してみよう！」 筑摩小学校 「薄川で遊ぼう！」
講師からの持込資材等	・梓川だけでなく、身近な川での体験も喜んでコーディネートいたします。まずはお気軽にご要望をお聞かせください！ ・No.8、31、32、33の講座も提供しています。
講師について	
開催実績	
その他	
講師連絡先	【団体名】リトルビークス【代表者名】小幡那真 【担当者名】小幡那真 【TEL】0263-93-1243 【FAX】0263-93-1243 【Eメール】mine@litttlepeaks.jp 【HP】https://www.littlepeaks.jp/ 【住所】安曇4306-7
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター一担当（FAX：32-7604）にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外－川】

講座名称	梓川&奈良井川&犀川ラフティング (講座 No. 3.1)
支援事業内容	川の楽しさ、大切さ、危険性、成り立ち、現状が学べます！！ 
対象	小学1年生から中学3年生まで、特別支援学級 (応相談)
時間数	3時間程度 (内容・河川によって変動有)
講師人数	子ども7人に講師1名 (内容・河川によって変動有)
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時限毎) ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・保険料 ¥350 / 参加者 (学校保険にて対応可能) ・レンタル料金 ¥500 (ヘルメット・ウェットスーツ・ライフジャケットを含む)
学校側に必要な準備	プロジェクト・水着・運動靴・飲み物など
講師からの持込資材等	ヘルメット・ウェットスーツ・ライフジャケット・PC・レスキュー用品・ファーストエイドなど
講師について	2014年12月に松本市安曇に産声を上げたアウトドアガイド&ツアー会社。登山ガイド、沢登り、ラフティング、スノーシューなどのアクティビティを中心に、各種安全講習会、子ども冒険キャンプ、クリンアップ梓川などの地域貢献活動などと、松本の大自然を春夏秋冬365日全身で感じられるプログラムを展開中。ガイド&ツアーセンセーションは「風流であれ！アナログであれ！！」。松本を愛する個性豊かなメンバーでお待ちしております。
開催実績	令和2年度 鎌田小学校 「川の学習～手作り船で遊ぼう～」 田川小学校 「人の暮らしと川・犀川下り」 波田小学校 「川の果てまで行ってみよう」 信大付属松本小学校 「作って浮かべて未来号」 開明小学校 「川で遊ぼう！薄川」 奈川小学校 「梓湖ラフティング」 大野川小学校 「乗鞍散歩」 梓川小学校 「梓川リバーアドベンチャーファイナル」 安曇小学校 「奈良井川、梓川、犀川ラフティング」 筑摩小学校 「川の上流を探検してみよう！」 筑摩小学校 「薄川で遊ぼう！」
その他	・梓川だけでなく、身近な川での体験も喜んでコーディネートいたします。まずはお気軽にご相談をお聞かせください！ ・No.8、30、32、33の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】 リトルピークス 【代表者名】 小峰邦良 【担当者名】 小峰邦良 【TEL】 0263-93-1243 / 090-3561-5351 【FAX】 0263-93-1243 【Eメール】 mine@littlepeaks.jp 【HP】 https://www.littlepeaks.jp/ 【住所】 松本市安曇 4306-7
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外－川】

講座名称	水殿ダムラフティング (ダム見学付き) (講座 No. 3.2)
支援事業内容	川&水の楽しさ、大切さ、危険性、成り立ち、現状が学べます (ダムの機能も学べます)！！ 
対象	小1から中3まで、特別支援学級 (応相談)
時間数	3時間程度 (内容によって変動有)
講師人数	子ども7人に講師1名 (内容・河川によって変動有)
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時限毎) ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・保険料 ¥350 / 参加者 (学校保険にて対応可能) ・レンタル料金 ¥500 (ヘルメット・ウェットスーツ・ライフジャケットを含む)
学校側に必要な準備	プロジェクト・水着・運動靴・飲み物など
講師からの持込資材等	ヘルメット・ウェットスーツ・ライフジャケット・PC・レスキュー用品・ファーストエイドなど
講師について	2014年12月に松本市安曇に産声を上げたアウトドアガイド&ツアー会社。登山ガイド、沢登り、ラフティング、スノーシューなどのアクティビティを中心に、各種安全講習会、子ども冒険キャンプ、クリンアップ梓川などの地域貢献活動などと、松本の大自然を春夏秋冬365日全身で感じられるプログラムを展開中。ガイド&ツアーセンセーションは「風流であれ！アナログであれ！！」。松本を愛する個性豊かなメンバーでお待ちしております。
開催実績	令和2年度 鎌田小学校 「川の学習～手作り船で遊ぼう～」 田川小学校 「人の暮らしと川・犀川下り」 波田小学校 「川の果てまで行ってみよう」 信大付属松本小学校 「作って浮かべて未来号」 開明小学校 「川で遊ぼう！薄川」 奈川小学校 「梓湖ラフティング」 大野川小学校 「乗鞍散歩」 梓川小学校 「梓川リバーアドベンチャーファイナル」 安曇小学校 「奈良井川、梓川、犀川ラフティング」 筑摩小学校 「川の上流を探検してみよう！」 筑摩小学校 「薄川で遊ぼう！」
その他	ご紹介したプログラム (No.8、30、31、33) を繋ぐことで山・川・水を源流から河口までアクティビティで繋ぐことが実現！！是非ともご体験ください。まずはお気軽にお電話でもメールでもご要望をお聞かせください！！
講師連絡先	【団体名】 リトルピークス 【代表者名】 小峰邦良 【担当者名】 小峰邦良 【TEL】 0263-93-1243 / 090-3561-5351 【FAX】 0263-93-1243 【Eメール】 mine@littlepeaks.jp 【HP】 https://www.littlepeaks.jp/ 【住所】 松本市安曇 4306-7
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外－山】

講座名称	地元の山が100倍好きになる登山学 (講座 No.33)
支援事業内容	山の楽しさ、大切さ、大切さ、危険性、成り立ち、現状が学べます!! 
対象	小1から中3まで、特別支援学級 (応相談)
時間数	半日～一日程度 (内容・山域によって変動有)
講師人数	子ども10人に講師1名 (内容・河川によって変動有)
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時限毎) ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・特になし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・保険料¥200/参加者 (学校保険にて対応可能)
学校側に必要な準備	登山に必要な資機材・屋食・飲み物など
講師からの持込資材等	レスキュー用品・ファーストエイドなど
講師について	2014年12月に松本市安曇に産声を上げたアウトドアガイド&ツアー会社。登山ガイド、沢登り、ラフティング、スノーシューなどのアクティビティーを中心に、各種安全講習会、子ども冒険キャンプ、クリーニング碎川などの地域貢献活動などと、松本の大自然を春夏秋冬365日全身で感じられるプログラムを展開中。ガイド&ツアーコンセプトは「風流であれ! アナログであれ!!」。松本を愛する個性豊かなメンバーでお待ちしております。
開催実績	令和2年度 鎌田小学校 「川の学習～手作り船で遊ぼう～」 田川小学校 「人の暮らしと川・犀川下り」 波田小学校 「川の果てまで行ってみよう」 信大付属松本小学校 「作って浮かべて未来号」 開明小学校 「川で遊ぼう! 薄川」 奈川小学校 「梓湖ラフティング」 大野川小学校 「乗船散歩」 梓川小学校 「梓川リバーアドベントゥンチャーターフアィナル」 安曇小学校 「奈良井川、梓川、犀川ラフティング」 安曇小学校 「川の上流を探検してみよう!」 筑摩小学校 「薄川で遊ぼう!」
その他	・乗船岳に留まらず、皆様のお近くに登える身近な山での体験も喜んでコーディネートいたします。昨今学校登山での事故やトラブルが増えています。是非ともご不安な場合はプロの山ガイドにお任せ頂けると幸いです。まずはお気軽にお電話でもメールでもご要望をお聞かせください!! ・No.8、30、31、32の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】リトルピークス【代表者名】小峰邦良 【担当者名】小峰邦良 【TEL】0263-93-1243 / 090-3561-5351 【FAX】0263-93-1243 【メール】mine@littlepeaks.jp 【HP】https://www.littlepeaks.jp
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外－特定の場所・その他】

講座名称	謎解きワークショップ体験 (講座 No.34)
支援事業内容	地域の地形、歴史、文化の謎を解きながらまちを歩き、探求型ワークショップ体験。1班5～6人+スタッフで探偵団を編成し、地図を見ながらポイントを探してミッションに記された謎を解く。 ワークショップ終了後は、学校に戻って各班毎に調査内容をまとめ、報告発表します。  
対象	小学校5年生以上中学3年生まで、特別支援学級
時間数	3時間程度
講師人数	子ども30人に講師5人程度
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・なし ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・なし
学校側に必要な準備	申込時・事前の打合せを通じて別途相談
講師からの持込資材等	マップ、ワークシート、解説用フリップその他の備品
講師について	Iターン者と地域住民との交流による新しいふふささづくりを目指して2006年に設立。2007年度から自然、歴史、文化を学びながら歩く「ふるさとウォッチング」、2015年度から地域ガイド育成講座「案内人の教室」をスタートし、2018年度より松本観光ホスピタリティカレッジ「ガイドコース」の講師も務めています。
開催実績	2020年度 梓川小学校
その他	・No.9の講座も提供しています。 【団体名】NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団 【担当者名】宮崎 崇徳 【代表者名】宗像 章 【TEL】0263-81-1325 (9-18時なら連絡可能) 【FAX】0263-81-1280 【メール】lifeport@nifty.com 【HP】http://azuminor-furusato.com/ 【住所】〒399-8304 安曇野市穂高相原 1132-2
講師連絡先	①申込書の内容を上記Eメール又はFAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。
申込み方法	

【分類：校外 - 特定の場所・その他】

講座名称	手植えでの田植え・手刈りでの稲刈り・はぜかけ 精米工場の見学と、流通、循環について (講座 No.35)
支援事業内容	お米について学べる講座です。 年間を通じてお米の肌ヌカ(米の精)を使用した農法の実演と体験により、土壌を豊かにする健康な作物作りと生きものの溢れる農地作りを行います、その場所を環境学習に使用しています。作物を育てる活動は5月～9月が活動時期です。精米工場の見学は年中できます。学校や近隣に出向き、農業体験や自然体験等の講座を実施することも可能です。  
対象	小学1年生から中学3年生まで、特別支援学級
時間数	90～110分程度(2時間程度)年間3回程度
講師人数	子ども15人程度に講師1名目安
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎) + 交通費相当2,000円 ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・資料代、実習用資材使用代等(応相談) ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ・資料代、実習用資材使用代等(応相談)
学校側に必要な準備	児童・生徒の持ち物(屋外実習できる)の指導
講師からの持込資材等	田植え、稲刈りに必要な資材
講師について	いきものみっけファーム in 松本推進協議会には、産官学民の様々な立場、能力を持つメンバーがあり、多様なプログラム提供が可能です。
開催実績	平成25年度～令和2年度 主催事業で実施
その他	・主にグリーンシーズン(4月から12月)の開催で、事前打ち合わせを開催1か月前目安にはしたいです。 ・No.37、38の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】いきものみっけファーム in 松本推進協議会 【担当者名】事務局担当 藤村哲 【代表者名】会長 降旗一昭 【TEL】090-2219-2457 (9時～19時連絡可能) 【FAX】0263-88-7595 【Eメール】ts_kakehashi@yahoo.co.jp 【住所】松本市北9-7-17
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打ち合わせをする。④当日を迎える。

【分類：校外 - 特定の場所・その他】

講座名称	石窯でピザづくりたいけん (講座 No.36)
支援事業内容	間伐材を燃やして石窯を加熱しながら環境問題を考え、蓄熱された石窯でピザ生地をトッピング調理しながら再生エネルギーの力、蓄熱エネルギーの原理等を学べる講座です。  
対象	小学1年生から中学3年生・特別支援学級
時間数	最長90分程度(参加人員による)
講師人数	講師最低2人必要(教諭も含めた参加者定員は25人程度)
費用	①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎) ②クラス・学年全体に必要なもの → 【消耗品費】 ・薪(広葉樹のもの) 約500円/1回 ③児童個人に必要なもの → 【学年費等】 ピザ材料代 約100円/1人(1人あたりピザ20cmの1/4の大きさ) ・講座実施場所(松本市横田)への往復付き添い ・参加者の食物アレルギーの有無の事前確認 ・必要に応じた飲物
学校側に必要な準備	特になし
講師からの持込資材等	特になし
講師について	平成28年にNPOを設立し、地元の間伐材を利用して再生エネルギーの活用と環境問題への寄与を図り、石窯体験活動を通じて子供の健全育成へ寄与する団体です。会員数11名です。
開催実績	令和元年度 岡田小学校あさひ分校 女鳥羽中学校あさひ分校 令和2年度 岡田小学校あさひ分校 松本工業高校機械科
その他	・プログラム実施の1か月前には申し込みの連絡をしてください。 ・4月から11月と3月の間のみ、プログラム実施が可能です。 ・実施場所は松本市横田ですので参加者の移動往復が必要 ・雨天・強風では実施不可能なので直前での実施日変更の可能性有 ・No.11の講座も提供しています。
講師連絡先	【団体名】NPO法人石窯スマイル研究会 【担当者名】桐原 真幸 【代表者名】桐原 真幸 【TEL】0263-36-8835 【FAX】0263-36-8835 【Eメール】ishigama.s.kenkyu@road.ocn.nc.jp 【住所】〒390-0804 松本市横田 4-1-1 (講座実施場所)
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打ち合わせをする。④当日を迎える。

【分類：校外外画方で可】

講座名称	いきもの探しと観察及び環境教育講座 (講座 No.37)
支援事業内容	<p>身近にある自然と環境について学べる講座です。生き物を観察する活動は5月～9月が活動時期の目安です。学校や近隣に出向き、自然体験などの講座を実施することも可能です。</p> 
対象	小1から中3まで、特別支援学級
時間数	90～110分程度(2時限程度)
講師人数	子ども20人に講師1名が目安
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎) + 交通費相当2,000円程度 ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・資料代金、実習用資材使用料金(応相談) ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・資料代金、実習用資材使用料金(応相談)
学校側で必要な準備	児童・生徒の持ち物(屋外実習できる)の指導
講師からの持込資材等	自然体験・環境教育学習に必要な資材
講師について	いきものみっけファーム in 松本推進協議会には、産官学民の様々な立場、能力を持つメンバーがあり、多様なプログラム提供が可能です。
開催実績	平成27年度～30年度 菅野小 令和元年度 安曇小
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・主にグリーンシーズン(4月から12月)の開催で、事前打ち合わせを開催1か月前目安にはしたいです。 ・No.35、38の講座も提供しています。
講師連絡先	<p>【団体名】 いきものみっけファーム in 松本推進協議会 【代表者名】 会長 降旗一路 【担当者名】 事務局担当 藤村哲 【TEL】 090-2219-2457 (9時～19時連絡可能) 【FAX】 0263-88-7595 【Eメール】 ts_kakehashi@yahoo.co.jp 【住所】 松本市寿北9-7-17</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打ち合わせをする。④当日を迎える。

【分類：校外外画方で可】

講座名称	プランター菜園講座 (講座 No.38)
支援事業内容	<p>年間を通じてお米の肌ヌカ(米の糠)を使用した農法の実演と体験により、土壌を豊かにする健康な作物作りと生きもの溢れる農地作りを行います。その場所を環境学習に使用しています。</p> <p>作物を育てる活動は5月～9月が活動時期の目安です。学校や近隣に出向き、農業体験の講座を実施することが可能です。</p> 
対象	小学1年生から中学3年生まで、特別支援学級含む
時間数	90～110分程度(2時限程度)
講師人数	子ども30人以上の講師
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師1人につき5,000円(授業1時限毎) + 交通費相当2,000円 ②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・プランター、苗代、肥料代等(応相談) ③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・応相談
学校側で必要な準備	児童・生徒の持ち物(屋外実習できる)の指導
講師からの持込資材等	申込時・事前の打合せを通じて別途相談
講師について	いきものみっけファーム in 松本推進協議会には、産官学民の様々な立場、能力を持つメンバーがあり、多様なプログラム提供が可能です。
開催実績	平成25年度～令和元年度 主催事業で実施
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・主にグリーンシーズン(4月から12月)の開催で、事前打ち合わせを開催1か月前目安にはしたいです。 ・No.35、37の講座も提供しています。
講師連絡先	<p>【団体名】 いきものみっけファーム in 松本推進協議会 【担当者名】 事務局担当 藤村哲 【代表者名】 会長 降旗一路 【TEL】 090-2219-2457 (9時～19時連絡可能) 【FAX】 0263-88-7595 【Eメール】 ts_kakehashi@yahoo.co.jp 【住所】 松本市寿北9-7-17</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前打ち合わせをする。④当日を迎える。

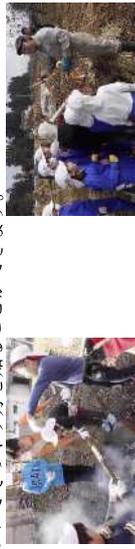
【分類：校外外両方で可】

講座名称	体感&体感! 自然体験学習!! (講座 No.3 9)
支援事業内容	<p>1 火起こし教室～舞切り式、人と火の繋がりマツ、ライオン、新聞を使わない方法、薪を使った火の起し方、育て方等等</p> <p>2 燻製教室、保存食の知恵</p> <p>3 ねりこ、同じ物見つけ、フィードバック、他ネチャゲーム、ログ、ラム各種</p> <p>4 木育体験～森のかけらのお作り作り (ペンダント、ストラップ)</p> <p>5 ツリ、ワス、秘密基地作り</p> <p>6 その他松枯れ、湧水等地域探検、自然観察</p>
	 
対象	ツリーハウス 火おこし 燻製 小学生全学年：プログラムにより個別にご相談
時間数	基本は2時間分(80～90分)～3時間分(120分) ※移動時間含まず遠隔地や校外学習可、別途ご相談
講師人数	子ども30人に対して3～4人の講師
費用	<p>①講師謝礼→【報償費】</p> <p>・講師1人につき5,000円(授業1時間毎)</p> <p>②クラス・学年全体に必要なもの→【消耗品費】</p> <p>・材料費等は別途(事前相談のうえ決定します。)</p> <p>③児童個人に必要なもの→【学年費等】</p> <p>・材料費等は別途(事前相談のうえ決定します。)</p>
学校側に必要な準備	基本的には学校で準備頂くものは有りません。
講師からの持込資材等	火起こし用具のセット、燻製用具のセット、ツリ、ワス、機械一式、ナイフ、チャージャーゲームなど体験に必要な教材、機材一式
講師について	四賀地区中川の、廃校小学校(旧中川小学校)活用について、平成25年松本市が募集したプロジェクト「サール事業」へ応募を行い採択されました。平成26年4月より活動試行、①野外体験②ツリ、ワス③「カムレ」ゲーム等、平成27年から運営を行っています。 公民館、児童会の主催する自然体験学習プログラムの実施、小学校の総合学習支援参加、民間運営の日帰りキャンプ、支援等に参加しています。また、県内の野外体験活動団体等のネットワーク、信州外あそびネットワークに加盟しています。
開催実績	平成28年度 会田中：火おこし体験、ネチャゲーム 平成29年度 島内小：人と火の繋がり～燻製試食体験、ネチャゲーム 松尾小学校教育課程研究協議会生活科 平成30年度 芝沢小：人と火の繋がり～燻製試食体験、ネチャゲーム 令和元年度 中山小学校：秘密基地/ツリ、ワス作り
その他	ツリ、ワス、キャンプ、冒険くらぶ支援、地域体験活動企画運営
講師連絡先	<p>【団体名】信州やがいたいけん栗枝ぶらす 【担当者名】降幡光幸 【TEL】090-3042-0744 (随時連絡可能) 【FAX】0263-87-2038 【Eメール】furihata@yt-plus.com 【HP】http://yt-plus.com/ 【ブログ】http://yt-plus.blogspot.jp/ 【住所】〒390-0315 松本市岡田町 630-6</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

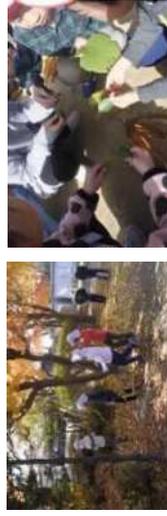
【分類：校外外両方で可】

講座名称	体験して学ぶ「自然や環境」について (講座 No.4 0)
支援事業内容	<p>自然と環境について学べる講座です。プロジェクトWILDなど体験型環境教育プログラムを通じて、児童・生徒に身近な自然や環境について学びと気づきを得ていただけます。これまで県内の小学校や環境イベントなどで披露した実績もあります。</p>
	  
対象	小1から中3まで、特別支援学級も対応可能
時間数	90～100分程度
講師人数	子ども10人に講師1名目安
費用	<p>①講師謝礼→【報償費】</p> <p>・講師1人につき5,000円(授業1時間毎)</p> <p>②クラス・学年全体に必要なもの→【消耗品費】</p> <p>・資料代金、実習資材(必要な場合)の代金(応相談)</p> <p>③児童個人に必要なもの→【学年費等】</p> <p>・資料代金、実習資材(必要な場合)の代金(応相談)</p>
学校側に必要な準備	打ち合わせ時に確認
講師からの持込資材等	同上
講師について	自然体験と環境教育の指導者資格を複数保有。これまで6年間以上毎年松本市内の小中学校で指導経験あり。民間イベントでの講座実施経験も多数あります。代表を務める団体で、自然体験・農業体験・各種講習会を年間多数実施しています。
開催実績	平成29年度 田川小学校 平成29～令和2年度 波田小学校 平成29～令和元年度 松島中学校 平成30年10月「安曇野環境フェア」イベント講師 令和2年度 安曇小学校
その他	・No.41の講座も提供しています。
講師連絡先	<p>【団体名】体験創庫かけはし 【代表者名】 藤村哲 【担当者名】藤村哲 【TEL】090-2219-2457 (9時～19時連絡可能) 【FAX】0263-88-7595 【Eメール】ts_kakehasi@yahoo.co.jp 【住所】松本市波田4507-3</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外外画方で可】

講座名称	火おこしと簡単な野外料理、農業体験 (講座 No.4 1)
支援事業内容	<p>自然体験と農業について学べる講座です。 身近にある田んぼや畑での仕事を児童・生徒に体験してもらうことができます。また、キャンプなどで活用できる火熾しや、野外調理についてそのやり方を知ることができます。</p> 
対象	小1から中3まで、特別支援学級
時間数	90～100分程度
講師人数	子ども10人に講師1名目安
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時限毎)</p> <p>②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・調理実習器材1,000円程度 (事前相談のうえ決定します。)</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・食料費1人約300円 (事前相談のうえ決定します。)</p>
学校側で必要な準備	打ち合わせ時に確認
講師からの持込資材等	同上
講師について	自然体験と環境教育の指導者資格を複数保有。これまで6年間以上毎年松本市内の小中学校で指導経験あり。民間イベントでの講座実施経験も多数あります。代表を務める団体で、自然体験・農業体験・各種講習会を年間多数実施しています。
開催実績	<p>平成29年度 田川小学校</p> <p>平成29～令和元年度 波田小学校</p> <p>平成29～令和元年度 松島中学校</p> <p>平成30年10月「安曇野環境フェア」イベント講師</p> <p>令和2年度 菅野小学校</p>
その他	・No.40の講座も提供しています。
講師連絡先	<p>【団体名】 体験創庫かけはし 【代表者名】 藤村哲</p> <p>【担当者名】 藤村哲</p> <p>【TEL】 090-2219-2457 (10時～19時連絡可能)</p> <p>【FAX】 0263-88-7595</p> <p>【Eメール】 ts_kakehashi@yahoo.co.jp</p> <p>【住所】 松本市波田 4507-3</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校外外画方で可】

講座名称	自然体感プログラム (講座 No.4 2)
支援事業内容	<p>学校の校庭など身近な自然を遊びながら観察し、心と身体で自然を感じます。発見や気づきを大切にし、「自然を見る目」を育てることができると期待する講座です。</p> 
対象	学年に合わせた内容で実施可能、特別支援学級
時間数	45～90分程度 (希望時間に応じたプログラムを実施することもできます。)
講師人数	子ども20人に講師1人
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円 (授業1時限毎) ・交通費2日分 (下見・当日) → ③7円/km × (以下住所から学校までの距離) × 2往復 × 2日分 (下見・当日)</p> <p>②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・なし</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・なし</p>
学校側で必要な準備	申込時・事前の打合せを通じて別途相談 (基本的には特にありません。)
講師からの持込資材等	プログラムに使用する備品
講師について	塩尻市を拠点に、自然体験活動を実施している法人です。 小学生を対象にした年間の自然体験活動や、保育園、児童館などへの出前講座を行っています。
開催実績	<p>平成28年度 田川小学校</p> <p>「学校の近くの田川でネイチャージャーなどの自然体験活動」 朝日村主催「あさひ環境のつどい」の講師など</p> <p>平成29年度 島内小、教育課程「自然体験 (ネイチャージャー)」</p> <p>平成30年度 並柳小学校「自然体感プログラム、工作」</p> <p>令和元年度 安曇小学校、菅野小学校、並柳小学校 「自然体感プログラム」 菅野小学校「自然素材で簡単工作」 大野川小学校「外あそびの達人講座」</p>
その他	・No.15、43の講座も提供しています。
講師連絡先	<p>【団体名】 NPO法人わおん 【代表者名】 山田 勇</p> <p>【担当者名】 山田 勇</p> <p>【TEL】 0263-87-3005 (朝9時以降なら連絡可能)</p> <p>【FAX】 0263-87-4024</p> <p>【Eメール】 waon@npowaon.com</p> <p>【HP】 http://waon.naganoblog.jp/</p> <p>【住所】 〒399-0704 塩尻市広丘郷原 685</p>
申込み方法	①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当 (FAX: 32-7604) にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内外両方で可】

講座名称	外あそびの達人講座 (講座 No.4 3)
支援事業内容	<p>【ロープワーク】ロープの基本的な結び方、ロープの活用方法を実践から学ぶことが出来ます。木があれば、ハンモックや基地づくりができます。</p> <p>【たき火】火のつけ方から始末の方法まで、実践から学ぶことが出来ます。たき火は、たき火台を使って行います。</p> 
対象	小学校1年生～中学校3年生、特別支援学級
時間数	45分～90分程度
講師人数	子ども15人に講師1人 (安全確保の観点から、最低2名での実施を希望します。)
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎) ・交通費(自家用車) →@37円/km×(以下住所から学校までの距離)×2往復</p> <p>②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・なし</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・食費(たき火で焼いて食べたい物があれば) ・たき火が実施可能な場所の確保(たき火の場合)</p>
学校側で必要な準備	ロープ、ハンモック、たき火台、たき火に必要な道具
講師からの持込資材等	塩尻市を拠点に、自然体験活動を実施している法人です。小学生を対象にした年間の自然体験活動や、保育園、児童館などへのお出前講座を行っています。
講師について	平成28年度 田川小学校 「学校の近くの田川でネイチャャゲームなどの自然体験活動」 朝日村主催「あさひ環境のつどい」の講師など 平成29年度 島内小、教育課程「自然体験(ネイチャャゲーム)」 平成30年度 並柳小学校「自然体感プログラム、工作」 令和元年度 安曇小学校、菅野小学校、並柳小学校 「自然体感プログラム」 菅野小学校「自然素材で簡単工作」 大野川小学校「外あそびの達人講座」
開催実績	・希望があれば、校外でも実施できます。 ・ロープとたき火のどちらかを選んでいただくこともできますし、時間によっては両方実施することもできます。 ・No.15、42の講座も提供しています。
その他	<p>【団体名】 NPO法人わおん 【代表者名】 山田 勇</p> <p>【担当名】 山田 勇</p> <p>【TEL】 0263-87-3005 (朝9時以降なら連絡可能)</p> <p>【FAX】 waon@npowaon.com</p> <p>【メール】 http://waon.naganooblog.jp</p> <p>【住所】 〒399-0704 塩尻市広丘郷原 685</p>
講師連絡先	<p>①申込書を上記FAX番号に送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前</p>
申込み方法	に打合せをする。④当日を迎える。

【分類：校内外両方で可】

講座名称	キャンプ・野外生活 基礎講座 (講座 No.4 4)
支援事業内容	<p>何を失ったら人は生きていけないのか。生きていく為に最低限必要な要素を知り、野外において確保する考え方を学ぶ。その中で一番大切な体温保持するシェルター(雨風を防ぐもの)作りを体験する講座です。</p> 
対象	小4から中3まで、特別支援学級
時間	2時間程度
講師人数	1クラスに講師1人(2人以上いれば尚良い)
費用	<p>①講師謝礼 → 【報償費】 ・講師1人につき5,000円(授業1時間毎)</p> <p>②クラス・学年全体で必要なもの → 【消耗品費】 ・1グループ(5人以下)で、タープ(1)、ロープ(4)、ペグ(4)、ハンマ ー(1)、ポール(2)が必要。レンタル代1,000円/セット</p> <p>③児童個人で必要なもの → 【学年費等】 ・特になし</p>
学校側で必要な準備	屋内で座学とロープワークを学び、屋外でシェルターを作ります。体温保持に関する資料(1人1枚)の印刷
講師からの持込資材等	タープ、ロープ、ペグ、ハンマー、ポールを必要数
講師について	大人が楽しむアウトドアサバイバル学校の運営。 ○里山を舞台に、年間を通じて、大人向けのアウトドア教室を運営しています。 ○学校や自治体での出張講師、企業様での防災・災害対策研修を提供しています。
開催実績	平成30年度 鎌田児童センター 平成30年度 本郷図書館、公民館講座 平成30年度 芳川小学童
その他	・No.23、24、25の講座も提供しています。
講師連絡先	<p>【団体名】 すえなみブッシュクラフトスクール長野</p> <p>【講師名】 代表: 末次克洋(すえなみかつひろ)</p> <p>【連絡先】 中信地区環境教育ネットワーク(eeネット) 事務局 中林 直子</p> <p>【TEL】 0263-86-8739 携帯: 090-2737-1856</p> <p>【FAX】 0263-86-8739</p> <p>【メール】 eeconet@gominetnagano.jp</p>
申込み方法	①申込書の内容を上記Eメールに送付する。②同じものを教育文化センター担当(FAX:32-7604)にも送付する。③学校から講師へ連絡し、事前

環境学習の活動内容や支援する団体等が検索できるWEBサイト

中信地区環境教育ネットワークによる

信州の環境学習サポートサイト

どんな環境学習
プログラムがあるかな？
どんな活動を
していきたいかな？
ぜひ、ご活用ください！



信州の環境学習サポートの目的

環境学習の実践例を示し、環境学習の面白さや効果を伝えます。

中信地域の学校や地域で環境学習が実施できるよう支援団体や窓口を紹介します。

良質な環境学習の体験プログラムを紹介します。

環境学習が未来の希望となるよう、関係者が協力して環境体験学習の内容の向上と学習提供システムの整備に努めます。

作成/運営

中信地区環境教育ネットワーク

URL <http://www.econoschool.org/>

信州の環境学習

検索



【附録】松本市環境・地域エネルギー課からのお知らせ

1 食品ロスをテーマとした環境教育（小学生向け）

本市では、小さいころから「もったいない」という意識を持ってもらうため、市内全小学校3年生対象に食品ロスをテーマとした出前講座を行っています。

食品ロスをテーマとした環境教育にご興味があればぜひご相談ください。

パワーポイント等を用いた学習のほか、歌・すごろく・DVD教材など、さまざまコンテンツをご用意しています。



食品ロスすごろくのご紹介

食べものが収穫されるまで・購入されるまで・料理するまで・食べるまでに、それぞれどんな食品ロスがあるのか、減らしていくためにはどうすればいいかを楽しく学べるすごろくです。

必要部数を印刷してお渡しすることもできます。

対象：小学校3年生以上



2 温暖化対策ワークシート（5・6年生向け）の実施について

子どもたちがワークシートを通して地球温暖化問題について知り、家庭や学校で節電・節水等を実践することにより、温暖化対策・省エネルギーに対する意識の醸成を図るものです。

<ワークシート（A3両面印刷・二つ折り）の構成>

知る・考える

現代のライフスタイル、化石燃料、省エネ等について

行動する

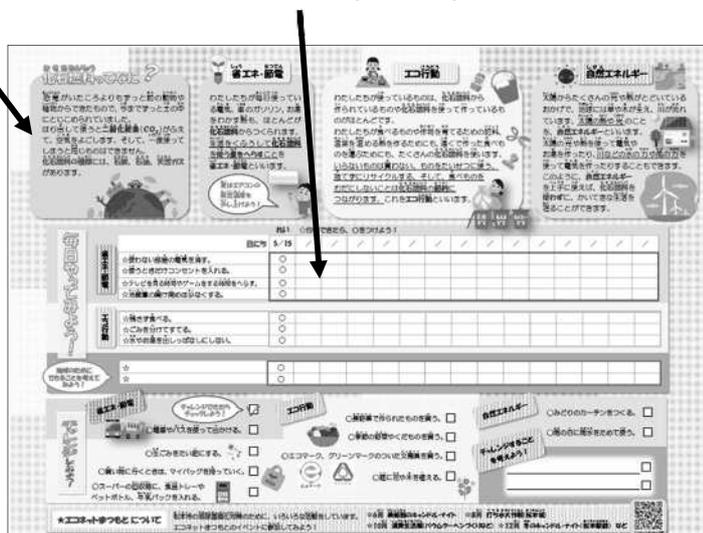
省エネ・エコ行動の実践、チェック（2週間）

振り返る

最後に感想等を記入し、保護者からコメントをもらう。



表紙



裏表紙

実施希望の場合は、環境・地域エネルギー課までご連絡ください。必要部数をカラー印刷してお届けします。

年会費
登録料無料



3 全国ネットワーク「こどもエコクラブ」への参加について

○こどもエコクラブとは？

環境省事業として平成7年度に発足した「こどもエコクラブ」は、公益財団法人 日本環境協会が引き継ぎ、実施しているもので、地域における子どもたちの自主的な環境学習や実践活動を支援するものです。

○こどもエコクラブって何をするの？（登録から活動までの流れ）

一緒に活動する仲間（3歳～18歳）と、活動を支える大人（20歳以上）を集めてクラブをつくり、登録します（家族でも可）。

子どもたちの興味や関心に基づき、自然観察・調査やリサイクル活動、地球温暖化を防ぐ活動など、家庭・学校・地域の中で身近にできる「地球にやさしい活動」に自由に取組みましょう。

活動を報告すると、アーススタンプと専門の先生からのアドバイスがもらえます。アーススタンプを5個集めるとアースレンジャー認定証を授与！また継続して活動すると3年で銀バッジ、6年で金バッジがもらえます。

○登録すると、活動に役立つツールがもらえます！

希望に応じてメンバーズバッジやエコカード（幼児対象）がもらえます。ウェブサイトからメンバー手帳等をダウンロードして使用することもできます。

また、わかりやすい環境情報や取り組みやすい環境活動・学習プログラム、他のクラブの活動の様子などを掲載したメールマガジンが無料で提供されるなどの特典があります。



○活動をはじめるには・・・

こどもエコクラブウェブサイトから直接登録ができますので、興味がありましたら以下の URL からホームページにアクセスしてみてください。

【こどもエコクラブ URL】 <http://www.j-ecoclub.jp>

令和3年度
松本市小中学校
環境教育支援事業報告書

発行 松本市
〒390-8620
松本市丸の内3番7号
電話 0263-34-3268
E-mail kankyo_kyoiku@city.matsumoto.lg.jp
編集 松本市環境エネルギー部
環境・地域エネルギー課
協力 中信地区環境教育ネットワーク
印刷 庁内印刷

